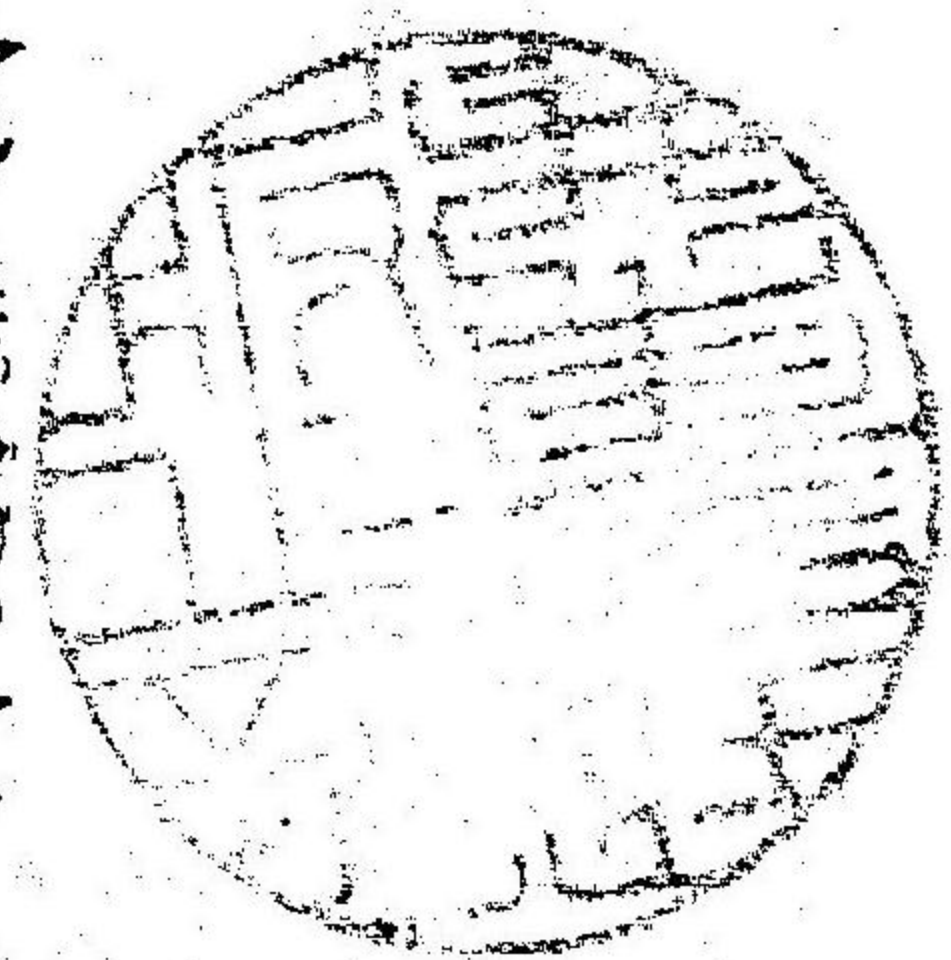


10-200

井田鐘次郎解釋

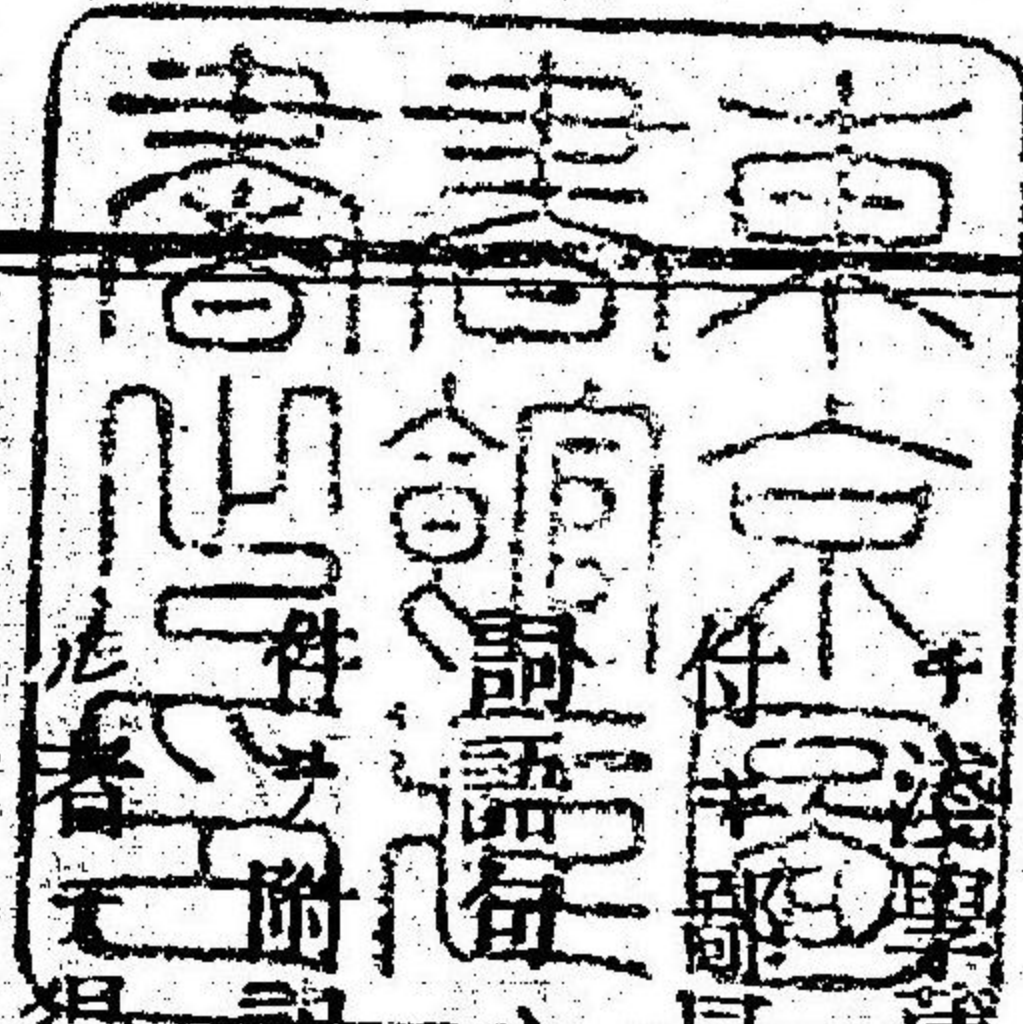
刑法治罪法釋要 全

明治十三年九月刻成



告示

一此書刑法治罪法釋要ト題ス止々其義ヲ解シ其要ヲ釋キ而ノ未
 タ其蘊奧ヲ究メサレバナリ初メ新法ノ世ニ出ツルヤ竊ニ謂ラ
 ク從來ノ律令多ク唐明清ニ據ル其歐米諸國ノ法ニ模擬セシ所
 蓋シ多カラストス然レモ新法ノ如キハ佛獨澳伊ノ法ヲ參酌ス
 ル者殆ト半ニ居ル精心此ニ一變シ立法ノ體裁亦舊ニ異ナリ平
 生歐米ノ法ヲ講スル者ニ非スンハ豈ニ惑ハサルヲ得ンヤト乃
 子法學博識ヲ省ミス新法ノ解説書ヲ作為セント決シ其諸條ニ
 付キ難見ノ在所及セ疑問ノ生スル所ヲ記載論述シ又ハ其文
 件ヲ附記シタルヲ以テ爲メニ數多ノ草稿ト新法本書ノ黑然タ
 得ルニ至レリ頃自學友某來テ之ヲ一覽シ切ニ其繁ヲ省



キ難チ去リ以テ世ニ公ケニセシテ勸ム子之ヲ固辭スル能ハ
ス乃チ其舊様ヲ變シ其体裁ヲ改メ精微緻密ノ爭議ヲ省キ速ニ
之ヲ印刷ニ付ス事匆卒ニ出テ修辭校正ノ間ナク書中或ハ文ヲ
爲サヌ或魯魚ノ誤ナキヲ保タス他日必ス完全ノ一書ヲ編ミ以
テ看客ノ望ニ充ント欲ス此書ハ眞ニ是レ新法ノ一斑ヲ示サン
カ爲メナル耳看客請フ之ヲ諒察セヨ

一 刑法ニハ或ハ疑問ノ説明ヲ掲ケシ所ナキニ非サレモ治罪法ニ
至テハ之レ無シ蓋シ治罪法ハ其條規相牽連シ意義相接属スル
ヲ刑法ノ比ニ非ヌ一度ヒ之ヲ掲クル時ハ僅々寸白ノ能ク辨ス
ル所ニ非ス因テ單ニ其條規ヲ解説スルニ止マル是レ亦諒察ヲ
願フ所ナリ

一 本文ノ末尾ニ例ヘバ八九三四二等ト書スルハ即チ本文ニ最モ關

係アル箇條ニシテ其八九ハ八十九條三四二ハ三百四十二條ヲ指
ス事ニ臨ンテ参考ノ用ニ供セラレンコトヲ欲スルナリ

刑法目錄

第一編 總則 自第一條至第一百五條

第一章 法例 自第一條至第五條

第二章 刑例 自第六條至第六十五條

第一節 刑名 自第六條至第十二條

第二節 主刑處分 自第十三條至第三十條

第三節 附加刑處分 自第三十一條至第四十四條

第四節 徵償處分 自第四十八條至第四十九條

第五節 刑期計算 自第四十九條至第五十二條

第六節 假出獄 自第五十三條至第五十七條

第七節 期滿免除 自第五十八條至第六十二條

第八節 復權 自第六十三條至第六十五條

第三章 加減例 自第六十六條至第七十四條

第四章 不論罪及ヒ減輕 自第七十五條至第九十條

第一節 不論罪及ヒ宥恕減輕 自第七十五條至第八十四條

第二節 自首減輕 自第八十五條至第八十八條

第三節 酌量減輕 自第八十九條至第九十條

第五章 再犯加重 自第九十一條至第九十八條

第六章 加減順序 第九十九條

第七章 數罪俱發 自第一百條至第一百三條

第八章 數人共犯 自第一百四條至第一百十條

第一節 正犯 自第一百四條至第一百八條

第二節 從犯 自第一百九條至第一百十條

第九章 未遂犯罪 自第一百十一條至第一百十三條

第十章 親屬例 自第一百四條至第一百五條

第二編 公益ニ關スル重罪輕罪 自第一百十六條至第一百九十一條

第一章 皇室ニ對スル罪 自第一百十六條至第一百二十條

第二章 國事ニ關スル罪 自第一百二十一條至第一百二十五條

第一節 內亂ニ關スル罪 自第一百二十一條至第一百二十八條

第二節 外患ニ關スル罪 自第一百二十九條至第一百三十五條

第三章 靜謐ヲ害スル罪 自第一百三十六條至第一百八十一條

第一節 兇徒聚衆ノ罪 自第一百三十六條至第一百三十八條

第二節 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪 自第一百三十九條至第一百四十一條

第三節 囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪 自第一百四十二條至第一百五十三條

第四節 附加刑ノ執行ヲ遁ルノ罪

自第百五十四條
至第百五十六條

第五節 私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及ヒ所

有スル罪 自第百五十七條
至第百六十一條

第六節 往來通信ヲ妨害スル罪

自第百六十二條
至第百七十條

第七節 人ノ住所ヲ侵ス 罪 自第百七十一條
至第百七十三條

第八節 官ノ封印ヲ破棄スル罪

自第百七十四條
至第百七十六條

第九節 公務ヲ行フヲ拒ム 罪 自第百七十七條
至第百八十一條

第四章 一般ノ信用ヲ害スル 罪 自第百八十二條
至第百八十六條

第一節 貨幣ヲ偽造スル 罪 自第百八十二條
至第百九十三條

第二節 官印ヲ偽造スル 罪 自第百九十四條
至第二百一十一條

第三節 官ノ文書ヲ偽造スル 罪 自第二百二條
至第二百七條

第四節 私印私書ヲ偽造スル 罪 自第二百八條
至第二百十二條

第五節 免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル

罪 自第二百十三條
至第二百十七條

第六節 偽證ノ罪 自第二百十八條
至第二百二十六條

第七節 度量衡ヲ偽造スル 罪 自第二百廿七條
至第二百三十條

第八節 身分ヲ詐稱スル 罪 自第二百三十一條
至第二百三十二條

第九節 公選ノ投票ヲ偽造スル 罪

自第二百三十三條
至第二百三十六條

第五章 健康ヲ害スル 罪 自第二百三十七條
至第二百五十七條

第一節 阿片烟ニ關スル 罪 自第二百三十七條
至第二百四十二條

第二節 飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪

自第二百四十三條
至第二百四十五條

第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪

自第二百四十六條
至第二百四十九條

第四節 危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造ノ

規則ニ關スル罪 自第二百五十條
至第二百五十二條

第五節 健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥劑ヲ販

賣スル罪 自第二百五十三條
至第二百五十五條

第六節 私ニ醫業ヲ爲ス罪 自第二百五十六條
至第二百五十七條

第六章 風俗ヲ害スル罪 自第二百五十八條
至第二百六十三條

第七章 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪

自第二百六十四條
至第二百六十六條

第八章 商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪

自第二百六十七條
至第二百七十二條

第九章 官吏瀆職ノ罪 自第二百七十三條
至第二百九十一條

第一節 官吏公益ヲ害スル罪

自第二百七十三條
至第二百七十五條

第二節 官吏人民ニ對スル罪

自第二百七十六條
至第二百八十八條

第三節 官吏財産ニ對スル罪

自第二百八十九條
至第二百九十一條

第三編 身體財産ニ對スル重罪輕罪 自第二百九十二條
至第四百二十四條

第一章 身體ニ對スル罪 自第二百九十二條
至第三百六十五條

第一節 謀殺故殺ノ罪 自第二百九十二條
至第二百九十八條

第二節 毆打創傷ノ罪自第二百九十九條至第三百零八條

第三節 殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪

自第三百九條至第三百十六條

第四節 過失殺傷ノ罪自第三百十七條至第三百十九條

第五節 自殺ニ關スル罪自第三百二十條至第三百二十一條

第六節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪

自第三百二十二條至第三百二十五條

第七節 脅迫ノ罪自第三百二十六條至第三百二十九條

第八節 墮胎ノ罪自第三百三十條至第三百三十五條

第九節 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪

自第三百三十六條至第三百四十條

第十節 幼者ヲ畧取誘拐スル罪

自第三百四十一條至第三百四十五條

第十一節 猥褻姦淫重婚ノ罪自第三百四十六條至第三百五十四條

第十二節 誣告及ヒ誹毀ノ罪自第三百五十五條至第三百六十一條

第十三節 袒父母父母ニ對スル罪

自第三百六十二條至第三百六十五條

第二章 財産ニ對スル罪自第三百六十六條至第三百七十七條

第一節 竊盜ノ罪自第三百六十六條至第三百七十七條

第二節 強盜ノ罪自第三百七十八條至第三百八十四條

第三節 遺失物理藏物ニ關スル罪

自第三百八十五條至第三百八十七條

第四節 家資分散ニ關スル罪自第三百八十八條至第三百八十九條

第五節 詐欺取財及ヒ受寄財物ニ關スル罪

自第三百九十八條
 第六節 贓物ニ關スル罪 自第三百九十九條
 第七節 放火失火ノ罪 自第四百二條
 第八節 決水ノ罪 自第四百十一條
 第九節 船舶ヲ覆没スル罪 自第四百十五條
 第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪 自第四百十七條
 自第四百二十四條

第四編 違警罪 自第四百二十五條
 至第四百三十條

刑法ハ公法中ノ一ナリ而
 ノ其目的トスル所ハ其條
 則及ヒ時アツテハ他ノ治
 安ヲ保スル法律ニ違犯セ
 ル者ニ其定ムル所ノ刑ヲ
 科スルニ在リ

刑法

第一編 總則

第一章 法例

第一條 凡法律ニ於テ罰ス可キ罪別テ三種ト
 爲ス七、八、九

一 重罪

二 輕罪

三 違警罪

第二條 法律ニ正條ナキ者ハ何等ノ所爲ト雖
 モ之ヲ罰スルヲ得ス

第三條 法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホス
 ヲ得ス

〔一〕重罪トハ七條ノ刑ヲ
 以テ罰スル罪ナリ輕罪ト
 ハ八條ノ刑ヲ以テ罰スル
 罪ナリ違警罪トハ九條ノ
 刑ヲ以テ罰スル罪ナリ
 〔二〕本條ハ法律ノ其明文
 ニテ預定セサル所爲ハ裁
 判官ト雖モ之ヲ罰スルノ
 權ナシト云フノ意ナリ是

人民ノ自由權利ヲ保護スルニ缺ク可カラサルモノトス

〔三〕本條モ亦前條ト同旨意ニテ法律ヲ以テ豫メ人民ニ知ラシメサルノ所爲ハ之ヲ罰スルコトナク知ラシメタル後ニ於テ之ヲ犯シタル者ノミチ罰ス可シト云フニ在リトス是之ヲ法律ニ反致ノ効ナシト云フナリ若シ本條ナカリセハ今日反法ニ非サル所爲ヲ行フモ他日法律ノ頒布アルニ及ンテ遂ニ刑ヲ科セラル、ニ至ランモ知ル可カラズ左スレハ人々一專チ行ヒ又ハ一言チ吐クニモ猶オ且ツ躊躇セサルヲ得サルコトアリ自由モ是ニ於テカ奪ハレ壓制モ是ニ於テカ行ハル是レ法律ヲ頒布前ノ所爲ニ及ホスヲ得サル所以ナリ但シ頒布前ノ所爲ト雖モ舊法ノ罰スル者ニテ新法ニ於テモ亦罰ス可キ者アリ而シテ此所爲ノ刑罰法ニ於テ舊法ヨリ輕キコトアリ此場合ニ於テハ之ニ新法ヲ及ホスモ犯人ニ取テハ毫モ害ナキノミナラス却テ益アリトス況ヤ新法ニ舊法ヨリ良善ナルニ於テヤ本條ニ第二項ノ規則アルハ蓋シ之ニ是レ因ルナリ

若シ所犯頒布以前ニ在テ未ダ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ス
第四條 此刑法ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ論ス可キ者ニ適用スルコトヲ得ス
第五條 此刑法ニ正條ナクシテ他ノ法律規則ニ刑名アル者ハ各其法律規則ニ從フ
若シ他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ掲ケサル者ハ此刑法ノ總則ニ從フ

〔五〕他ノ法律規則トハ出版條例郵便規則鐵道規則賣藥規則釀酒規則等ノ類ヲ云フ

第二章

刑例トハ刑名及ヒ刑ヲ適用スルコトヲ示スモノトス

第一節

刑名トハ刑ノ名稱及ヒ其種類ヲ總稱ス

〔六〕附加刑トハ本刑ニ附屬スル刑ナリ然レモ其中ニテ申渡ヌ可キ者ト法律上ニテ自ラ本刑ニ屬スル者トノ二者アリ此事ハ各本條ニ詳ナリ
〔七〕重罪ノ主刑トアレハ本條ノ主刑ヲ以テ罰ス可シトアル所爲ハ總テ重罪ナリ○重罪ノ管轄ハ重罪裁判所ナリ但シ犯人ノ身分及ヒ犯罪ノ模様ニ因テハ他ノ法院ニテ之ヲ管轄スルコトアリ

第二章 刑例

第一節 刑名

第六條 刑ハ主刑及ヒ附加刑ト爲ス

主刑ハ之ヲ宣告ス七、八、九

附加刑ハ法律ニ於テ其宣告スル者ト宣告セサル者トヲ定ム

第七條 左ニ記載シタル者ヲ以テ重罪ノ主刑ト爲ス

一死刑一三、ヨリ

二無期徒刑一七、ヨリ

三有期徒刑同

〔八〕本條ノ刑ニテ罰ス可
シトアル所爲ハ總テ輕罪
ナリ輕罪ノ管轄ハ輕罪裁
判所ナリ但シ犯人ノ身分
及ヒ犯罪ノ模様ニ因テハ
重罪裁判所又ハ他ノ法院
ニテ之ヲ管轄スルコトアリ

〔九〕本條ノ刑ニテ罰ス可
シトアル所爲ハ總テ違警

四無期流刑^{二〇}

五有期流刑

六重懲役^{二三}

七輕懲役^同

八重禁獄^{二三}

九輕禁獄^同

第八條 左ニ記載シタル者ヲ以テ輕罪ノ主刑
ト爲ス

一重禁錮^{二四}

二輕禁錮^同

三罰金^{二六}

第九條 左ニ記載シタル者ヲ以テ違警罪ノ主

罪ヲ違警罪ノ管轄ハ違
警罪裁判所ナリ

刑ト爲ス

一拘留^{二八}

二科料^{二九}

第十條 左ニ記載シタル者ヲ以テ附加刑ト爲

ス

一剝奪公權^{三一}

二停止公權^同

三禁治産^{三五}

四監視^{三四、三七ヨリ}

五罰金^{四二}

六沒收^{四三}

第十一條 刑ヲ執行シ及ヒ犯人ヲ檢束スル方

〔十二〕死刑ハ常事犯ニモ國事犯ニモ普通スルモノニテ我刑法中之最重ノ刑ナリ而シテ獄内ニ於テ之ヲ行フ所以ハ衆庶ニ哀憐ノ情ヲ發セサラシメンカ爲メ且一時ノ徒覽ニ供セラレシテ長レテナリ

〔十三〕死刑ハ司法卿ノ命令アルニ非サレハ云々トハ司法卿ノ外之ヲ申渡スヲ得サルノ謂ニ非ス之ヲ行フ時ハ最早取戻ス能ハサルニ因リ乃チ鄭重ナランヲ要スルノニ況ヤ場合ニ因テハ減等恩赦若クハ裁判上ノ錯誤アルニ於テナヤ

法細目ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

第二節 主刑處分

第十二條 死刑ハ絞首ス但シ規則ニ定ムル所

ノ官吏臨檢シ獄内ニ於テ之ヲ行フ七三九、五九六、七七八

第十三條 死刑ハ司法卿ノ命令アルニ非サレ

ハ之ヲ行フヲ得ス

第十四條 大祀令節國祭ノ日ハ死刑ヲ行フ

ヲ禁ス

第十五條 死刑ノ宣告ヲ受タル婦女懷胎ナル

時ハ其執行ヲ停メ分娩後一百日ヲ經ルニ非

サレハ刑ヲ行ハス

第十六條 死刑ノ遺骸ハ親屬故舊請フ者アレ

〔十五〕本條ハ刑一人ニ止マルノ原則ニ出ルモノナリ

婦女懷胎ナリト申告シタル時ハ必ス醫士ノ診斷ヲ待テ其信僞ヲ定ム可シ不分明ノ場合ニ於テハ一時刑ノ執行ヲ見合ヌヲ要トス

〔十七〕徒刑ハ常事犯ノ刑ニシテ島地ニ發遣ノ至大至重ノ役ニ服セシムルモノナリ十二年以上十五年以下トアルハ其刑期ヲ十二年ヨリ十年ノ間ニ於テ裁判官ヲ適宜ニ定メシメシメカ爲メナリ以下重罪ノ刑ニ付キ何年以上何年以下トアルハ皆之ニ同シ

〔十九〕通常ノ定役トハ徒刑ニ適當ナル通常ノ定役ナリ而シテ六十歳以上

ハ之ヲ下付ス但式ヲ用ヒテ葬ルヲ許サス

第十七條 徒刑ハ無期有期ヲ分タス島地ニ發

遣シ定役ニ服ス七三九、五二五、四、五九六、六七

有期徒刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

第十八條 徒刑ノ婦女ハ島地ニ發遣セス内地

ノ懲役場ニ於テ定役ニ服ス

第十九條 徒刑ノ囚六十歳ニ滿ル者ハ通常ノ

定役ヲ免シ其體力相當ノ定役ニ服ス

第二十條 流刑ハ無期有期ヲ分タス島地ノ獄

ニ幽閉シ定役ニ服セス三六六、五三三、五九

有期流刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

第二十一條 無期流刑ノ囚五年ヲ經過スレハ

ノ者ニ免スル蓋シ刻ニ過
 シルアラソコヲ畏ルレハ
 ナリ
 (二十一) 流刑ハ國事犯ノ刑
 ニテ定役ナキモノトス然
 レモ囚人ハ許可ヲ得テ其
 欲スル所ノ役ニ就クコトヲ
 得可シ
 (二十二) 本條ノ規則ハ囚
 人ニ自棄ノ念ヲ抱カサラ
 シメ以テ之ヲ改良ニ導カ
 シカ爲メナリ
 (二十三) 懲役ハ常事犯ノ
 刑ナリ重懲役モ輕懲役モ
 唯年限ニ差違アルノミ定
 役ニ至テハ更ニ異ル所ナ
 シ
 (二十四) 禁獄ハ國事犯ノ
 刑ナリ重禁獄モ輕禁獄モ
 亦年限ニ差違アルノミ

行政ノ處分ヲ以テ幽閉ヲ免シ島地ニ於テ地
 ナ限リ居住セシムルコトヲ得三六
 有期流刑ノ囚三年ヲ經過スル者亦同シ
 第二十二條 懲役ハ内地ノ懲役場ニ入レ定役
 ニ服ス但六十歳ニ滿ル者ハ第拾九條ノ例ニ
 從フ五九、六七、
六九
 重懲役ハ九年以上十一年以下輕懲役ハ六年
 以上八年以下ト爲ス
 第二十三條 禁獄ハ内地ノ獄ニ入レ定役ニ服
 セス六九、五九、
六七
 重禁獄ハ九年以上十一年以下輕禁獄ハ六年
 以上八年以下ト爲ス

(二十四) 輕罪ノ刑ニハ重
 罪ノ刑ノ如ク國事犯ト常
 事犯トノ別ナシト雖モ禁
 錮ハ二箇アツテ一ヲ輕禁
 錮トシ特ニ國事犯又ハ常
 事犯中ノ道德ヲ害スルノ
 少キ者ニ科シ一ヲ重禁錮
 トシ常事犯ニ科スルモノ
 トス本條コハ十一日以上
 五年以下トアレモ是レ一
 般ノ期限ナレハ各犯罪ニ
 ハ總テ適スルコトナル可
 ク依テ裁判官ハ其間ニ於
 テ適宜ニ之ヲ伸縮スルコ
 トヲ得ス但シ各本條ニ何年
 以上何年以下ノ禁錮トア
 ル時ハ其長短二期ノ間ニ
 於テ之ヲ伸縮スルコト固ヨ
 リ明ナリトス以下輕罪及
 ヒ違警罪ノ刑ニ付テ何年
 以上何年以下トアルハ皆
 之ニ同シ

第二十四條 禁錮ハ禁錮場ニ留置シ重禁錮ハ
 定役ニ服シ輕禁錮ハ定役ニ服セス二七、三二、
七〇、七
一、七三
 禁錮ハ重輕ヲ分タス十一日以上五年以下ト
 爲シ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス
 第二十五條 定役ニ服スル囚人ノ工錢ハ監獄
 ノ規則ニ從ヒ其幾分ヲ獄舎ノ費用ニ供シ其
 幾分ヲ囚人ニ給與ス但現役百日以内ハ給與
 ノ限ニ在ラス
 第二十六條 罰金ハ二圓以上ト爲シ仍ホ各本
 條ニ於テ其多寡ヲ區別ス五九、
七〇
 第二十七條 罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内

〔二十五〕囚人ニ其賃錢ノ幾分ヲ供スルハ滿期放免ノ時ニ之ヲ附與シテ活路ノ一助ト爲サシムルヲ欲スルナリ但シ其詳細ノ規則ハ別ニ之ヲ定ム

〔二十七〕納完セシムルトアレハ一部分ノミヲ納メタル時ハ殘分ニ當ル丈ケノ禁錮ヲ受ク可シ

罰金ハ云々(中略)之ヲ輕禁錮ニ換フトアレハ即チ法律ハ一ノ命令ヲ下スニ外ナラス因テ限内納完セサル以上ハ檢事ハ直ニ之ヲ輕禁錮ニ換ヘント求メサル可カラズ何ソ猶像シ又ハ身代ヲ取ルノ手續ヲ爲スニ違マアレヤ草接ニハ之ヲ輕禁錮ニ換フルヲ得トアリシヲ以テ猶像ヲ與ヘ又ハ身代ヲ取ルノ

ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シ之ヲ輕禁錮ニ換フ其一圓ニ滿サル者ト雖モ仍ホ一日ニ折算ス^{三〇、三三}

罰金ヲ禁錮ニ換フル者ハ更ニ裁判ヲ用ヒス檢察官ノ求ニ因リ裁判官之ヲ命ス但シ禁錮ノ期限ハ二年ニ過クルヲ得ス

若シ禁錮限内罰金ヲ納メタル時ハ其經過シタル日數ヲ扣除シテ禁錮ヲ免ス但親屬其他ノ者代テ罰金ヲ納メタル時亦同シ

第二十八條 拘留ハ拘留所ニ留置シ定役ニ服セス其刑期ハ一日以上十日以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス^{五九、七二、七三}

手續ヲ爲ス自由ナリシカ今ヤ則チ然ラサルニ因リ罰金タル刑ノ目的ノ達セサルヲアル可キト既ニ科シタル禁錮ヲ免ス可キト屢々アル可キトノ二箇ノ不都合ノ後來ニ生スルヲアラフカ但シ此一事ニ付テハ其解說種々アルヘシ看者請フ之ヲ輕忽視スルコト勿レ

〔三十一〕國民ノ特權トハ國民ノ外有スルヲ能ハルノ權ナリ即チ代議士ト爲ル權又ハ之ヲ撰擧スル權ノ如シ

貴號トハ華士族ノ稱ノ如シ

兵籍ニ入ルノ權ヲ失フハ一義務ヲ免カスニ似

第二十九條 科料ハ五錢以上一圓九十五錢以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス^{五九、七二}

第三十條 科料ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ之ヲ拘留ニ換フ^{七二}

第三節 附加刑處分

第三十一條 剝奪公權ハ左ノ權ヲ剝奪ス^{ハキヤキヤ}

一 國民ノ特權

二 官吏ト爲ルノ權

三 勳章年金位記貴號恩給ヲ有スルノ權

四 外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權

タルに然レ其權ハ國民
ニ屬スル各譽ノ權ト考ウ
可キ者ナレハ乃チ法律ハ
此權ヲ剝奪スルヲ以テ一
ノ刑ト爲スナリ
第七第八第九項ノ記載ス
ル諸權モ亦兵籍ニ入ル權
ノ如ク一ノ名譽ノ權ト看
做ス可キモノナリ且ツ此
類ノ權利ハ信用ス可カラ
サル人ニ附スルヲ得ス
是レ之ヲ剝奪スルヲ以テ
一ノ刑ト定ムル所以ナリ

五兵籍ニ入ルノ權

六裁判所ニ於テ證人ト爲ルノ權但單ニ事實
ヲ陳述スルハ此限ニ在ラス

七後見人ト爲ルノ權但親屬ノ許可ヲ得テ子
孫ノ爲メニスルハ此限ニ在ラス

八分散者ノ管財人ト爲リ又ハ會社及ヒ共有
財産ヲ管理スルノ權

九學校長及ヒ教師學監ト爲ルノ權

第三十二條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別
ニ宣告ヲ用ヒス終身公權ヲ剝奪ス

第三十三條 禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣
告ヲ用ヒス現任ノ官職ヲ失ヒ及ヒ其刑期間

公權ヲ行フヲ停止ス 六二四、八

第三十四條 輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ付シタル
者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス監視ノ期限間公權ヲ
行フヲ停止ス 六一〇、

主刑ヲ免シテ止メ監視ニ付シタル者亦同シ

第三十五條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別
ニ宣告ヲ用ヒス其主刑ノ終ルマテ自ラ財産
ヲ治ルヲ禁ス 一〇、

第三十六條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル時
ハ行政ノ處分ヲ以テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免ス
ルヲ得 二〇、二〇、

第三十七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別

〔三十四〕監視ノ刑トハ其
刑ヲ受ケシ者ノ姓名ヲ行
政官警察所ニ於テ豫メ知
リ置キ其寄寓スル所ヲ定
メ許可ナクシテ妄コ之ヲ
變スルヲ聽サス又ハ若干
ノ場所ニ滞留スルヲ禁ス
ル等コヲ要スルニ官署コ
於テ特ニ其者ヲ監視シ再
ヒ罪ヲ犯スヲ得サラシ
ムルニ在リ
〔三十五〕親ラ財産ヲ治ム
ルヲ禁スルヲモ亦一ノ附
加刑ニシテ其目的トスル
所一ハ以テ囚人コ之ヲ管
理スルヲ得サルノ痛苦ヲ
受ケルメ一ハ以テ之レコ
不正ノ行爲ヲ爲スヲ豫防
スルノ一端トスルニ在リ

〔四十〕日ヨリ起算ストハ
其日ノ翌日ヨリ起算スル
ト知ル可シ

ニ宣告ヲ用ヒス各本條ノ短期三分ノ一二等
シキ時間監視ニ付ス^{六〇}、

第三十八條 輕罪ノ刑ニ附加スル監視ハ之ヲ
宣告ス

但各本條ニ記載スルノ外監視ニ付スル^{六八、}
得ス^{一一〇、}

第三十九條 死刑及ヒ無期刑ノ期滿免除ヲ得
タル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス五年間監視ニ付
ス^{一一七、}
五八、

第四十條 監視ノ期限ハ主刑ノ終リタル日ヨ
リ起算ス主刑ノ期滿免除ヲ得タル時ハ其
捕ニ就キタル日ヨリ起算ス^{四九、}
五八、

若シ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル時ハ
其裁判確定ノ日ヨリ起算ス^{一一六、}
一九二、

第四十一條 監視ニ付セラレタル者其情狀ニ
因リ行政ノ處分ヲ以テ假ニ監視ヲ免スル^一
ヲ得

第四十二條 附加ノ罰金ハ之ヲ宣告ス若シ一
月内ニ納完セサル時ハ第廿七條ノ例ニ照シ
輕禁錮ニ換ヘ主刑滿期ノ後之ヲ執行ス^{六〇、}
二四、

第四十三條 左ニ記載シタル物件ハ宣告シテ
官ニ沒收ス但法律規則ニ於テ別ニ沒收ノ例
ヲ定メタル者ハ各其法律規則ニ從フ^{六一〇、}
一法律ニ於テ禁制シタル物件

〔四十三〕沒收トハ官ニ取
上ケ以テ所有權ヲ國ニ移
スノ謂ナリ
法律ニ於テ禁制シタル物
件トハ平人ノ私有ス可カ
ラサル物件又ハ平人ノ私
有スルヲ得ル物件ト雖モ

其人ニ限テ有ルヲ得可
キ者ヲ云フ例ハ偽造貨
幣軍器彈藥又ハ此等ノ物
件ヲ製造スル器械又ハ阿
片烟及ヒ其吸食ノ器具偽
造變造ノ度量衡等ニテ
法律ノ明文ニテ平人ニ所
有スルヲ許サ、ルモノト
ス

犯罪ノ用ニ供シタル物件
トハ人ヲ殺シタル器具偽
版ノ印刷器械ノ如シ
犯罪ニ因テ得タル物件ト
ハ盜贓物贖造貨幣賄賂ト
爲シタル物件ノ如シ

〔四十五〕刑事ノ裁判費用
ヲ犯人ニ科スルハ刑罰ニ
非スシテ自己ノ所爲ヲ以
テ他人ニ損害ヲ蒙ラシメ
タル者ハ之ヲ償ハサル可
カラスト云フ性法上ノ一
大原則ヨリ出ツルモノト

二犯罪ノ用ニ供シタル物件

三犯罪ニ因テ得タル物件

第四十四條 法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何
人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收ス犯罪ノ用ニ供
シ及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ犯人ノ所有
ニ係リ又ハ所有主ナキ時ノ外之ヲ沒收スル
コヲ得ス

第四節 懲償處分

第四十五條 刑事ノ裁判費用ハ其全部又ハ幾
分ヲ犯人ニ科ス但其費用ノ額ハ別ニ規則ヲ
以テ之ヲ定ム

第四十六條 犯人刑ニ處セラレ又ハ放免セラ

大ニシテ必ズシテ其全部ヲ
科セサル所以ノ者若シ之
ヲ科スルニ於テハ其害
延テ犯人ノ親族ニ及ラ
アル可キニ因リ裁判官
ノ場合ニ從テ適宜ノ處分
ヲ爲サシメシカ爲ナリ

〔四十六〕犯人刑ニ處シ
又ハ放免スルハ單ニ刑法
上ノ處分ニシテ公益ニ關
スル者ナリ贓物ノ還給損
害ノ賠償ハ民法上ノ義務
ニテ平人ノ私益ニ因テ起
ル可キモノトス而シテ公益
ノ事ト私益ノ事トハ全ク
別段ナルモノナレハ刑法
上ノ處分ニ因テ私益ノ害
セラル、理ナシ是レ本條
ノ規則アル所以ナリ

〔四十七〕連帶セシムトハ
各共犯人ニ裁判費用贓物
ノ還給等ヲ分任セシムル

ルハト雖モ被害者ノ請求ニ對シ贓物ノ還給
損害ノ賠償ヲ免カルハコヲ得ス

第四十七條 數人共犯ニ係ル裁判費用贓物ノ
還給損害ノ賠償ハ共犯人ヲシテ之ヲ連帶セ
シム

第四十八條 裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償
ハ被害者ノ請求ニ因リ刑事裁判所ニ於テ之
ヲ審判スルコヲ得若シ贓物犯人ノ手ニアル
時ハ請求ナシト雖モ直チニ之ヲ被害者ニ還
付ス

第五節 刑期計算

第四十九條 刑期ヲ計算スルニ一日ト稱スル

コナシテ唯其中ノ一人ニ他ノ者ニ代テ其全部ヲ拂ハシムルヲ得ヘキヲ云フナリ但シ其人ハ他ノ者ニ割前テ請求スルコト自由ナルヘシ

〔四十九〕一年ト稱スルハ曆ニ從フトアレハ例ヘハ一年ノ禁錮ニ處セラレシ者ハ其刑ニ處セラレシ日ト翌年ノ同日ニ放免セラレ、コト知ル可シ而シテ其年ノ閏年ナルヤ否ヤノ如キハ敢テ論スルコト及ズ
〔五十〕裁判確定シタルトハ其裁判ノ最早取消ス可カラサルコト至リシヲ云フ故ニ上告若シハ控訴ノ期限ノ満チシ時又ハ上告ノ終リシ時ハ裁判ハ確定シタリト云フ可シ
主訴トハ故障控訴及ヒ上

ハ三十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從フ
受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス一日ニ算入シ放免ノ日ハ刑期ニ算入セス

第五十條 刑ハ裁判確定シタル後ニ非サレハ之ヲ執行スルコトヲ得ス

第五十一條 刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算ス若シ上訴ヲ爲シタル者ハ左ノ例ニ從フ

一 犯人自ラ上訴シテ其上訴正當ナル時ハ前判宣告ノ日ヨリ起算ス若シ其上訴不當ナル時ハ後判宣告ノ日ヨリ起算ス

二 檢察官ノ上訴ニ係ル者ハ上訴正當ナルト

告ヲ併セ云フ所ノ語ナリ
〔五十一〕責附トハ被告人ノ請求ノ有無ヲ論セスシテ之ヲ其親族又ハ故舊ニ引渡シ以テ之ヲ監察セシムルヲ云フ但シ金圓ヲ以テ出廷ヲ保證セシムルコトナシ

保釋トハ被告人ノ請求ニ從ヒ金圓ヲ以テ出廷ヲ保證セシメタル後之ヲ放チ返ヌナク云フ

〔五十二〕以下假出獄ハ既決ノ囚徒チノ假ニ獄チ出テ、生計ヲ營マシムルヲ云フナリ而シテ其目的トスル所一ハ以テ獄舎ノ費用ヲ節減シ一ハ以テ囚徒チ改良ニ誘導スルニ在リトス
行政ノ處分ヲ以テト云フ

否トナ分ダス前判宣告ノ日ヨリ起算ス

三 上訴中保釋ヲ得又ハ責付ヒラレタル者ハ其日數ヲ刑期ニ算入スルコトヲ得ス

第五十二條 刑期限内逃走シ再ヒ捕ニ就キタル者ハ其逃走ノ日數ヲ除キ前後受刑ノ日ヲ計算ス

第六節 假出獄

第五十三條 重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者獄則ヲ遵守シ悔改ノ狀アル時ハ其刑期四分ノ三ヲ經過スルノ後行政ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコトヲ得

無期徒刑ノ囚ハ十五年ヲ經過スルノ後亦同

ハ内務卿縣令又ハ其他ノ
行政官ノ見込ヲ以テ其權
内ニ於テト云フ義ナリ

シ
流刑ノ囚ハ第二十一條ニ照シ幽閉ヲ免スル
ノ外假出獄ノ例ヲ用ヒス

第五十四條 徒刑ノ囚ハ假出獄ヲ許サルト
雖モ仍ホ島地ニ居住セシム

第五十五條 假出獄ヲ許サレタル者ハ行政ノ
處分ヲ以テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルヲ得
但本刑期限内特別ニ定メタル監視ニ付ス

第五十六條 假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタ
ル者ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ
刑期ニ算入スルヲ得ス

第五十七條 刑期限内更ニ重罪輕罪ヲ犯シタ

ル者ハ假出獄ヲ許サス

第七節 期滿免除

第五十八條 刑ノ執行ヲ遁レタル者法律ニ定
メタル期限ヲ經過スルニ因テ期滿免除ヲ得
第五十九條 主刑ハ左ノ年限ニ從テ期滿免除
ヲ得

- 一死刑ハ三十年
- 二無期徒刑ハ二十五年
- 三有期徒刑ハ二十年
- 四重懲役重禁獄ハ十五年
- 五輕懲役輕禁獄ハ十年
- 六禁錮罰金ハ七年

第七節

期滿免除トハ期滿ヲ免除
セラルト云フ義ニシテ
即チ訴ヲ受ク可キ者又ハ
刑ヲ受ケタル者其訴ヲ受
クルコト又ハ其刑ノ執
行ヲ遁レ法律ノ定ムル期
限ヲ經過スルニ因テ其訴
ヲ免カレ又ハ其刑ヲ免除
セラルト云フ
法律ニテ期滿免除ヲ定メ
タル重要ナル理由ニ箇ア
リ即チ一ハ若干ノ期限ノ
經過スルニ因テ罪ノ證據
ノ消滅シ又ハ曖昧ニ屬ス
ル事一ハ同上ノ原因ニテ
世上ノ人既ニ其罪ヲ忘ル
ハナリ是ナリ蓋シ證據ノ消
滅シ又ハ曖昧ニ屬スル時
ハ裁判上又ハ刑ノ執行上

ニ於テ錯誤ノ生ズル畏アリ又世上ノ人既ニ其罪ヲ忘レタルニ於テハ乃チ最早畏懼ノ念ヲ抱クコトナシテ社會モ既ニ安寧トナリシカ故ニ之ヲ罰シ又ハ刑スルモ毫モ社會ノ益トナラサレハナリ

〔五十八以下〕本條以下ハ刑ノ期滿免除ノ事ノミヲ定メタルナリ
〔六十〕剝奪公權及ヒ停止公權ノ刑ノ期滿免除ヲ得ザル所以ノ者蓋シ犯人ハ其刑ヲ執行ヲ道レハコト得ズ即チ公權ヲ行ハントスルモ之ヲ有セサルヲ以テ行フコトヲ得サレハナリ

七拘留料料ハ一年

第六十條 剝奪公權停止公權及ヒ監視ハ期滿免除ヲ得ス 三一以下、

附加ノ罰金ハ主刑ト共ニ期滿免除ヲ得 四二、沒収ハ五年ヲ經テ期滿免除ヲ得但禁制物ハ期滿免除ノ限ニ在ラス 四三、四四、

第六十一條 期滿免除ハ刑ノ執行ヲ道レタル日ヨリ起算ス若シ捕ニ就キ再ヒ逃走シタル時ハ其逃走ノ日ヨリ起算シ關席裁判ニ係ル時ハ其宣告ノ日ヨリ起算ス

第六十二條 刑ヲ執行ヲ道レタル者ニ對シ逮捕命或タル時ハ最終ノ令狀ヲ出シタル日

三 期滿免除ヲ起算ス

第八節 復權

第六十三條 公權ヲ剝奪セラレタル者ハ主刑ノ終リタル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後其情狀ニ因リ將來ノ公權ヲ復スルコトヲ得 三一、主刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ監視ニ付シタル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後又同シ 五八、

第六十四條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ直ニ復權ヲ得特赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ赦狀中記載スルニ非サレハ復權ヲ得ス 九七、赦ニ因テ復權ヲ得タル者ハ自ラ監視ヲ免シタル者トス

然レモ監視ヲシテ期滿免除ヲ得サレタルハ其刑ヲ受シ可キ犯人ノ心志特ニ惡ム可キヲ以テ之ガ再ヒ罪ヲ犯スコトアルモ知ル可カラサレハナリ
禁制物ハ何年ヲ經ルコトモ人ノ所有スルコトヲ得可カラサルモノナリ是レ其期滿免除ノ限ニ在ラサル所以ナリ
〔五十八〕若シ捕ニ就キ再ヒ逃走シタル時其逃走ノ日ヨリ更ニ起算スル所以ハ其逃走ノ日ヨリ以後ニ非スンハ社會ハ其罪ヲ忘ルコト能ハサレハナリ
〔六十二〕令狀ヲ出スハ社會ニ於テ未タ犯人ノ罪ヲ忘レサルカ故ナリ因テ期滿免除ハ其日ヨリ以後ニ非スンハ起算セサルナリ

第六十五條 復権ハ勅裁ニ非サレハ之ヲ得可

カラス

第三章 加減例

第六十六條 法律ニ於テ刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ後ノ數條ニ記載シタル例ニ照シテ加減ス但加ヘテ死刑ニ入ルヲ得ス

第六十七條 重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加

減ス

一死刑 二二

二無期徒刑 一七

三有期徒刑 一七

四重懲役 二二

第八節

復権トハ既ニ剝奪シタル公權ヲ復スルコトヲ云ナリ
〔六十四〕大赦トハ一般ニ罪ヲ赦免シ敢テ罪人ノ如何ニ關セサルナリ而シテ之ヲ行フニハ刑名宣告ノ前後ヲ區別スルニ及ハス是レ多ク國事犯ニ對シテ行フ所トス
特赦トハ罪人ノ一身ニ付テ特ニ其罪ヲ赦免スルヲ云フ是ヲ以テ大赦ハ罪ヲ消滅セシメ特赦ハ人ニ其罪ヲ免スルモノト謂フモ可ナリ

〔六十七〕本條ノ列記スル所ノ死刑無期徒刑以下ハ皆常事犯タル重罪ノ刑ナリ而シテ之ヲ加減スルニハ本條ノ記スル順序ニ循ハ

サレ可ヘカラス例ハ死刑ニ一等ヲ減スル時ハ無期徒刑ニ處シ重懲役ニ一等ヲ減スル時ハ輕懲役ニ處ス可ク又有期徒刑ニ一等ヲ加ウル時ハ無期徒刑ニ處シ輕懲役ニ二等ヲ加ウル時ハ有期徒刑ニ處スルノ類ナリ

〔六十八〕本條ノ列記スル諸般ノ刑ハ國事犯タル重罪ノ刑ナリ(國事犯トハ直接ニ社會ノ安寧ヲ害スル罪ニテ第二編第二章ニ記載スル罪ノ如シ)此等ノ刑ヲ加減スルノ法亦前條ト同シ故ニ重禁獄ニ二等ヲ加ウル時ハ無期徒刑ニ處シ又之ニ一等ヲ減スル時ハ輕禁獄ニ處ス可シ
〔六十九〕輕懲役ニ該ル者トハ罪ヲ犯シ其罪ニ因テ

五輕懲役 二二

第六十八條 國事ニ關スル重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一死刑 二二

二無期徒刑 二〇

三有期徒刑 二〇

四重禁獄 二二

五輕禁獄 二二

第六十九條 輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ

二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルヲ以テ

一等ト爲ス 二二

輕禁獄ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五

直ニ輕懲役ヲ受クル者ノ
ミニ限ラス他ノ刑ヲ受ク
可キニ其刑ヲ輕減セラレ
因テ以テ輕懲役ヲ受クル
者ヲモ併セ云フ所ノ語ト
ス

〔七十一〕禁錮ヲ減盡シタ
ル時トハ第七十條ニ從ヒ
其刑期ノ四分一ヲ幾度モ
減シテ其短期カ最早其刑
ノ一般ノ短期即チ十一日
以下ニ及ブ可キ時ヲ云レ
以下何々ノ刑ヲ減盡シタ
ル時トアルニ於テハ總テ
右ノ例ニ準ス可シ

年以下ノ輕禁獄ニ處スルヲ以一等ト爲スニ
第七十條 禁錮罰金ニ該ル者減輕ス可キ時ハ
各本條ニ記載シタル刑期金額ノ四分一ヲ
減スルヲ以テ一等ト爲シ其加重ス可キ時ハ
亦四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一等ト爲ス<sup>二四、
二六、</sup>
輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルヲ得ス但禁
錮ハ加テ七年ニ至ルヲ得

第七十一條 禁錮ヲ減盡シタル時ハ拘留ニ處
シ罰金ヲ減盡シタル時ハ科料ニ處ス禁錮罰
金ヲ減シテ其短期十日以下算數一圓九十五
錢以下ニ及フ時ハ亦拘留科料ニ處スルヲ得<sup>二四、二六、
二八、二九、</sup>

〔七十四〕附加刑ハ總テ主
刑ニ屬スル者ナルヲ以テ

第七十二條 拘留科料ニ該ル者加減ス可キ時
ハ禁錮罰金ノ例ニ照シ其四分ノ一ヲ加減ス
ルヲ以テ一等ト爲ス<sup>二八、
二九、</sup>
違警罪ノ刑ハ加ヘテ輕罪ニ入ルヲ得ス但
拘留ハ加ヘテ十二日ニ至ルヲ得減シテ一
日以下ニ降スヲ得ス科料ハ加ヘテ二圓四
十錢ニ至ルヲ得減シテ五錢以下ニ降スヲ
得ス

第七十三條 禁錮拘留ヲ加減スルニ因テ其期
限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿サル時ハ之ヲ除棄
ス<sup>二四、
二八、</sup>
第七十四條 附加ノ罰金ハ主刑ニ從テ加減シ

主刑ヲ加減シタル時ハ其
加減シタル主刑ノ類ニ從
テ之ヲ科ス可キモノトス
但シ附加ノ罰金ニ付テハ
本條記スル所ノ規則ニ循
フコトヲ要トス蓋シ法律ハ
各本條ニ於テ附加ノ罰金
ヲ主刑ト相對シテ記載シ
例ヘハ何々ノ刑ニ處シ何
圓ノ罰金ヲ附加スト記載
スレハナリ

第一節

凡ソ罪ト爲リ可キ所爲ヲ
犯セシ者ニ刑ヲ受ケシム
ルニハ其者ニ存意自由知
覺ノ三者アルヲ要トス三
者若シ其一ヲ缺クハ敢テ
其罪ヲ論スルコトヲ得ス
又存意自由又ハ知覺ノ充
分セサル時ニ於テハ其罪
ヲ輕減スルヲ要ス可シ
〔七十五〕本條ハ犯人ノ自

其金額ノ四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト
爲ス若シ減盡シタル時ハ止テ主刑ヲ科ス四

第四章 不論罪及ヒ減輕

第一節 不論罪及ヒ宥恕減輕

第七十五條 抗拒ス可カラサル強制ニ遇ヒ其
意ニ非サルノ所爲ハ其罪ヲ論セス

天災又ハ意外ノ變ニ因リ避ク可カラサル危
難ニ遇ヒ自己若クハ親屬ノ身體ヲ防衛スル
ニ出タル所爲亦同シ

第七十六條 本屬長官ノ命令ニ從ヒ其職務ヲ
以テ爲シタル者ハ其罪ヲ論セス

第七十七條 罪ヲ犯ス意ナキノ所爲ハ其罪ヲ

由テ失ヒシ場合ナリ
抗拒ス可カラサル強制ニ
遇ヒトハ人力又ハ自然力
ニ因テ身體精心ノ自由
ヲ得サル時ヲ云フ例ヘハ
他人ニ脅迫セラレテ飲食
物中ニ毒物ヲ加ヘタル時
又ハ公務ヲ行ハントスル
ニ際シ不意ニ他人ニ抑留
セラレタル時又ハ飢渴ニ
迫リ將ニ死セントスル時
（此時ニハ飲食食物ヲ盜ム
コトアル可シ）又ハ其他洪
水火災難船疾病ニ遇フタ
ル時（此時ニハ意ナクシ
テ偶然ニ罪ヲ犯スコトアル可シ）等ノ如キ場合ニ於テハ身體精心ニ自由ナシ依
テ罪ヲ犯スモ是レ自ラ罪ヲ犯スニ非ス外力ニ因テ止ムヲ得サルニ出テシナリ故ニ其罪
ヲ論セサルナリ

第二項ハ第一項ノ適例ナリ而シテ其預定スル所ハ例ヘハ難船ニ遇ヒ水ニ溺レ將ニ死セン
トスル時他人ノ有スル板子ヲ奪ヒ遠ニ之ヲ溺死セシメタル場合又ハ暴行人ニ遇ヒ何々
ノ惡事ヲ爲サスルハ殺傷ス可シト脅カサレタリ時己レノ身體若クハ親族ノ身體ノ危難
ヲ避ケンカ爲メ其惡事ヲ爲シタル場合等ナリ

論セス但法律規則ニ於テ別ニ罪ヲ定メタル
者ハ此限ニ在ラズ三二七
以下
罪ト爲ル可キ事實ヲ知ラスシテ犯シタル者
ハ其罪ヲ論セス
罪本重カル可クシテ犯ス時知ラサル者ハ其
重キニ從テ論スルコトヲ得ス
法律規則ヲ知ラサルヲ以テ犯スノ意ナシト
爲スコトヲ得ス

〔七十六〕本條モ犯人ノ自由ヲ得サル場合ナリ蓋シ本屬長官其權内ニ於テ命令ヲ爲ス時ハ己レノ職務ヲ以テ其命令セシ事ヲ爲サハル可カラズ如何シ其義惡ヲ問フニ違マアラシヤ其事ノ責ハ其長官ノ負擔スル所ナレハナリ此場合ハ兵卒カ戰時ニ際シ士官ノ命ヲ受ケテ人ヲ殺シタル時又ハ巡查ガ糾問判事ノ命ヲ受ケテ人ヲ逮捕シタル時ノ如シ此時ニ於テハ假令ヒ其命令惡意ニ出ツルトモ其惡意ニ出ツルヲ知ラサル以上ハ兵卒巡查ハ其命令ヲ執行シテ罪ナシ但シ本屬長官ノ命令ト雖モ其權外ニ係ル以上ハ下官敢テ之ニ從フノ義務ナクハ此場合ニ於テノ所爲ハ其一身ノ責ニ歸スヘキナリ

〔七十七〕本條ハ罪ヲ犯スノ意ナクシテ其罪ト爲ル可キ所爲ヲ行ヒシ場合即チ存意ナキ場合ナリ然ル時ハ其所爲ヲ論ス可キ理由ナシ是レ例ヘハ賊ニ貨幣ヲ偽造シ又ハ他人ノ物件ヲ借ランガ爲メ其人ノ許諾ヲ得ズシテ之ヲ持去リ又ハ故意ナクシテ人ヲ毆打シタル時等ニテ詰リ惡意又ハ故意ナクシテ罪ヲ行ヒシ場合ナリトモ
我刑法ニ於テハ大抵惡意又ハ故意ナキノ所爲ハ之ヲ罰セサルコト多シト雖モ場合ニ因テハ單ニ過失疎虞ノ所爲ヲ罰フルコトアリ即チ過失殺傷ノ罪并ニ數多ノ違警罪ノ如ク本條ノ但云々トハ之ヲ是レ謂フナリ
第二項ハ例ヘバ夫アル女子ヲ夫ナキ女子ト思ヒ之ト通シタル者ヲ罰ス可カラスト云フノ意ナリ
第三項ハ例ヘバ父又ハ母タルコト知ラスシテ之ヲ殺シタル者ハ父母ヲ殺シタル者トシテ論ス可カラスト云フ意ナリ
第四項ハ何人ト雖モ法律ノ頒布後ハ之ヲ知ルモノト看做ス可シト云ヘル原則ニ出ツル者ナリ

〔七十八〕本條ハ犯人ノ精心知覺ヲ有セサル場合
第七十八條 罪ヲ犯ス時知覺精神ノ喪失ニ因

ナ。例ヘハ狂人ノ人ヲ殺セタル時又ハ通常ノ人ノ其疾病大醉等ニテ全ク知覺ヲ有セズシテ罪ト爲ル可キ所爲ヲ行ヒタル時ノ如シ

〔七十九以下〕犯人ノ其犯罪ノ時全ク知覺ヲ有セサルニ於テハ毫モ罪ノ論ス可キモノナシ又精心知覺アリトモ其精心知覺ノ不充分ナル時ハ乃チ其度ニ應ジテ或ハ其罪ヲ宥恕シ或ハ全ク論セサルヲ要トス右ノ旨意ニ因リ十二歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ論セズ又滿十二歳以上十六歳以下ノ者ハ善惡ヲ辨別スルト否トニ從テ或ハ其罪ヲ宥恕シ或ハ其罪ヲ論セズ又滿十六歳以上二十歳以下ノ者ハ止テ單ニ其罪

テ是非ヲ辨別セサル者ハ其罪ヲ論セズ

第七十九條 罪ヲ犯ス時十二歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ論セズ但滿八歳以上ノ者ハ情狀ニ因

リ滿十六歳ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルコトヲ得

第八十條 罪ヲ犯ス時滿十二歳以上十六歳ニ滿サル者ハ其所爲是非ヲ辨別シタルト否ト

テ審案シ辨別ナクシテ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス但情狀ニ因リ滿二十歳ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルコトヲ得

若シ辨別アリテ犯シタル時ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等ヲ減ス

若シ辨別アリテ犯シタル時ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等ヲ減ス

若シ辨別アリテ犯シタル時ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等ヲ減ス

若シ辨別アリテ犯シタル時ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等ヲ減ス

若シ辨別アリテ犯シタル時ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等ヲ減ス

若シ辨別アリテ犯シタル時ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等ヲ減ス

若シ辨別アリテ犯シタル時ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等ヲ減ス

若シ辨別アリテ犯シタル時ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等ヲ減ス

ヲ宥恕スルコト爲シタル
ナリ蓋シ幼者ハ二十歳ニ
至ル迄漸々ニ精心知識ノ
進ム者コトテ其間善惡ヲ辨
別スルノ思慮ニ乏キヲ常
トスルカ故ニ法律ハ乃チ
此ノ如キ區別ヲ立テタルナリ
幼者タル犯人ヲ懲治場ニ留置スルハ之ニ刑ヲ科スルコト非ス唯之ヲ改良ニ導カンガ爲メ
ナリ

〔八十二〕瘡啞者ハ精心知
覺ノナキ者ト看做シテ其
罪ヲ論セサルナリ

第八十一條 罪ヲ犯ス時滿十六歳以上廿歳ニ
滿サル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減
ス

第八十二條 瘡啞者罪ヲ犯シタル時ハ其罪ヲ
論セス但情狀ニ因リ五年ニ過キサル時間之
ヲ懲治場ニ留置スルヲ得

第八十三條 違警罪ハ滿十六歳以上二十歳ニ
滿サル者ト雖モ其罪ヲ宥恕スルヲ得ス
滿十二歳以上十六歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ宥
恕シテ本刑ニ一等ヲ減ス十二歳ニ滿サル者

及ヒ瘡啞者ハ其罪ヲ論セス

第八十四條 此節ニ記載スルノ外特別ノ不論
罪宥恕減輕ハ各本條ニ於テ之ヲ記載ス_{三〇九}
以下

第二節 自首減輕

第八十五條 罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ
於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ニ一等ヲ減ス
但謀殺故殺ニ係ル者ハ自首減輕ノ限ニ在ラ
ス_{二九二}
以下

第八十六條 財産ニ對スル罪ヲ犯シタル者自
首シテ其贓物ヲ還給シ損害ヲ賠償シタル時
ハ自首減等ノ外仍ホ本刑ニ二等ヲ減ス其全
部ヲ還償セスト雖モ半數以上ヲ還償シタル

第二節
自首減輕トハ官ニ己ノ
罪ヲ申告シタル者ニ其刑
ヲ減輕スルノ義ナリ
自首減輕ノ制ヲ定メタル
ハ官ニ犯罪人ノ悔悟ヲ目
的トスルニ非ス犯罪人ノ
罰ヲ免カルハヲ防クコト
無辜者ノ刑ヲ受クルヲ防
クコトヲ目的トシテ然ル
ナリ

〔八十五〕發覺セサル前ト
ハ官ニ於テ犯罪アリト思
料スルニ至ラントスル前
ト解シテ可ナリ

第三節 酌量減輕トハ事實ヲ酌量シ
 情狀ヲ量テ犯人ノ刑ヲ裁
 判官ニ於テ減輕スルコトヲ
 云フ而シテ此制ヲ定メタル
 所以ハ犯人ノ情狀ニ從テ
 之ニ法律上定マリシ刑ヲ
 科スルノ頗ル苛刻ナルコ
 トヲ得

時ハ一等ヲ減ス三六六以下

第八十七條 財産ニ對スル罪ヲ犯シ被害者ニ
 首服シタル者ハ官ニ自首スルト同ク前二條
 ノ例ニ照シテ處斷ス

第八十八條 此節ニ記載スルノ外本條別ニ自
 首ノ例ヲ掲ケタル者ハ各其本條ニ從フ六一二
 九二二二二
 六三五六

第三節 酌量減輕

第八十九條 重罪輕罪違警罪ヲ分タス所犯情
 狀原諒ス可キ者ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スル
 コトヲ得

法律ニ於テ本刑ヲ加重シ又ハ減輕ス可キ者

雖モ其酌量ス可キ時ハ仍ホ之ヲ減輕スル
 コトヲ得

第九十條 酌量減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等又
 ハ二等ヲ減ス

第五章 再犯加重

第九十一條 先ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者
 再犯重罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

第九十二條 先ニ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタ
 ル者再犯輕罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

第九十三條 先ニ違警罪ノ刑ニ處セラレタル
 者再犯違警罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ
 但一年內再ヒ其違警罪裁判所ノ管轄地内ニ

第五章 再犯加重トハ既ニ刑ヲ受
 ケテ再ヒ罪ヲ犯シタル者
 ニ對シ其後犯ノ罪ノ刑ヲ
 加重スルコトヲ云フ斯ク後
 犯ノ罪ノ刑ヲ加重スル所
 以ノ者蓋シ犯人ハ前刑ニ
 懲リスシテ再ヒ罪ヲ犯シ
 敢テ法律ヲ輕蔑スルヲ以
 テノ故ナリ

(九十二)輕罪ノ刑ニ處セ
 ラレタル者次ニ重罪ヲ犯
 ス時ハ其刑ヲ加重セス是
 レ法律ニテ之ヲ重罪ノ刑

ニ處スルノミニテ充分ナ
リト思慮スルニ因ルナリ

〔九十五〕本條ハ初犯ノ裁
判確定シ未ダ刑ノ執行ヲ
受ケサル者ノ再ヒ罪ヲ犯
シタル場合ニモ適スルモ
ノトス其重キ者トハ期限
ノ長キカ又ハ服役ノ刻ナ
ル者カナ云フ

於テ犯シタル時ニ非サレハ再犯ヲ以テ論ス
ルコトヲ得ス

第九十四條 再犯加重ハ初犯ノ裁判確定ノ後
ニ非サレハ之ヲ論スルコトヲ得ス

第九十五條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯スニ因リ刑
ヲ宣告シタル時ハ先ツ其定役ニ服ス可キ者
ヲ執行シ定役ニ服セサル者ヲ後ニス若シ初
犯再犯共ニ定役ニ服スル刑ニ該ル時又ハ共
ニ定役ニ服セサル刑ニ該ル時ハ先ツ其重キ
者ヲ執行ス一〇〇。
罰金科料ニ該ル者ハ順序ニ拘ハラス各之ヲ
徴收ス

〔九十六〕海陸軍律ハ軍人
軍屬ノ外他ニ適用ス可キ
者ニ非ス而シテ其罰スル所
ノ罪モ亦軍務上ニ因テ定
メシ者ナルカ故ニ之ヲ常
律ト并ヒ行フ時ハ大ニ不
都合アル可シ況ヤ其刑ハ
常律ト頗ル其性質ヲ異ニ
スルチヤ是レ本條ノ規則
アル所以ナリ

〔九十八〕三犯以上ノ者ト
雖モ其新ニ受ケシ刑ヲ原
因トシテ最後ニ犯シタル
罪ノ刑ヲ加重スルヲ法ト
ス

第六章
犯罪ノ情狀ニ因リ同時ニ
本刑ヲ加重減輕ス可キト
アリ例ハ本犯ノ再犯者

第九十六條 陸海軍裁判所ニ於テ判決ヲ經タ
ル者再ヒ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ初犯ノ罪
常律ニ從ヒ處斷シタル者ニ非サレハ再犯ヲ
以テ論スルコトヲ得ス

第九十七條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ再
ヒ罪ヲ犯スト雖モ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得
ス

第九十八條 三犯以上ノ者ト雖モ其加重ノ法
ハ再犯ノ例ニ同シ

第六章 加減順序
第九十九條 犯罪ノ情狀ニ因リ總則ニ照シ同
時ニ本刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ左ノ順序ニ

コテ加ウルニ十八歳ノ者
 タル時ノ如シ此時ニ於テ
 其刑ヲ加重減輕スルニハ
 必スヤ本條ノ定ムル順序
 ニ於テセサル可カラズ何
 トナレハ若シ其順序ヲ隨
 意ニ錯雜スルニ於テハ其
 結果ニ頗ル異ナルコトア
 ル可ク即チ其本犯ノ輕懲
 役ニ該ル時最初ニ本刑ニ
 一等ヲ減シ(八十條)次ニ
 一等ヲ加ウレハ(九十一
 條)二年半以上六年三ヶ
 月以下ノ重禁錮ト爲ル可
 ク(六十九條及七十條
 ノ第二項)然レトモ若シ
 本條ニ從テ加重ロリ始メ
 次ニ減輕ヲ爲ストキハ輕
 懲役ト爲ル可ク蓋シ輕重
 懲ニ一等ヲ加ウレハ重懲
 役ト爲リ重懲役ニ一等ヲ
 下セハ輕懲役ト爲レハナリ

從テ其刑名ヲ定ム但從犯及ニ未遂犯罪ノ減
 等其他各本條ニ記載スル特別ノ加重減輕ハ
 其加重シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス

一再犯加重 九一以下

二宥恕減輕 八〇三〇九以下

三自首減輕 五八以下

四酌量減輕 八九九〇

第七章 數罪俱發

第百條 重罪輕罪ヲ犯シ未タ判決オ經ス二罪
 以上俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從テ處斷
 ス

然レハ從犯タルコト又ハ未遂犯罪タルコト又ハ其他特別ノ理由ニテ刑ヲ加重減輕スルチ
 要スル時ハ先ツ其加重減輕ヨリ始メ其加減シタル刑ヲ以テ本刑ト爲ス可シ但シ特別ノ
 理由ニテ刑ヲ加重減輕スル時モ其加重ヲ先ニ減輕チ後ニスルチ以テ法律ノ精心ニ適
 スル者トス

第七章

數罪俱發トハ未タ判決セサル數多ノ罪ノ同時又ハ別々ニ發覺スルコト云フ故ニ數罪俱
 發モ亦再犯ノ一種類ノ如シト雖モ再犯トハ既ニ判決チ經タル後ニ再ヒ罪ヲ犯スコトナレ
 ハ法律上ニ於テハ數罪俱發ト大ニ異ルモノトス

〔百〕法律ハ數罪俱發ノ場合ニ於テ數箇ノ刑ヲ併セ科セス蓋シ若シ之ヲ併セ科スル時ハ
 一人シテ一箇又ハ數箇ノ刑ヲ非常ニ永ラクノ間受ク可キニ至ラン況ヤ吏官タル者其最
 舊ノ罪ヲ罰セスシテ以テ之ニ數罪ヲ行フチ得セシメタルニ於テチヤ

重罪ノ刑ハ刑期ノ長キ者ヲ以テ重ト爲シ刑

期ノ等シキ者ハ定役アル者ヲ以テ重ト爲ス

輕罪ノ刑ハ其所犯情狀最重キ者ニ從テ處斷

ス

第百一條 違警罪二罪以上俱ニ發シタル時ハ

各自ニ其刑ヲ科ス若シ重罪又ハ輕罪ト俱ニ

〔百一〕違警罪ノ刑ハ甚ダ
 輕キヲ以テ之ヲ併科スル
 コトスルナリ

〔百二〕前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算ストアレハ前發ノ刑ハ如何ニ輕キ者ナルコトモ例ハ輕禁錮又ハ拘留ナルニモ其既ニ經過シタル期限ヲ以テ後發ノ刑ノ期限中ニ算セサルヲ得サルナリ

發シタル時ハ一人重キニ從フ

第二百二條 一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪

後ニ發シ其輕ク若クハ等シキ者ハ之ヲ論セ

ス其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ前發ノ刑ヲ以テ

後發ノ刑ニ通算ス但前發ノ刑罰金科料ニ該

リ已ニ納完シタル者ハ第二十七條ノ例ニ照

シ折算シテ後發ノ刑ニ通算ス

若シ前發ノ罪ヲ判決スル時未ダ發セサル罪

再犯ノ罪ト俱ニ發シタル者ハ其再犯ト比較

シ一ノ重キニ從ヒ前發ノ刑ヲ通算セス

第二百三條 數罪俱ニ發シ一ノ重キニ從フ時ト

雖モ其沒収及ヒ徵償ノ處分ハ各本法ニ從フ

第八章 數人共犯

第一節 正犯

第二百四條 二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆

正犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科ス

〔百四〕正犯トハ數人相共ニ一致シテ現ニ罪ヲ犯シタル者ナレハ共犯人ト稱スルモ敢テ不可ナル無シ數人相共ニ一致シテ現ニ罪ヲ犯ストモ其數人ノ悉ク正犯タラサルコトアリ例ハ其中ニテ犯罪ヲ組成スルノ所爲ヲ爲サスニテ單ニ其預備ノ所爲ヲ爲シタル者アル時はナリ何トナレハ此者ハ從犯ナレハナリ

故ニ正犯ハ相共ニ一致シタル後犯罪ヲ組成スル所爲ヲ爲シタル者ニ限ル可ク本條ニハ相共ニ一致スルト云フコトナシト雖モ一箇ノ罪ヲ數人ニハ必ス相一致セサルヲ得ス又現ニトアレモ強ク此語ハ其本義ニ拘泥セスニテ之ヲ犯罪ヲ行フ丈ケノ時間中ニト云フ意ニ解スルヲ善トス

第二百五條 人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメ

タル者ハ亦正犯ト爲ス

第二百六條 正犯ノ身分ニ因リ別ニ刑ヲ加重ス

可キ時ハ他ノ正犯從犯及ビ教唆者ニ及ボス

〔百六〕本條ハ例ハ故殺ノ罪ヲ數人ニテ行ヒシ時其中一人ノ被殺者ノ子タル者アル場合ニ於テハ此者ノ親殺ノ罪ニ論シ

(二百六十二條) 他ヲ通常ノ殺殺ノ罪(二百九十四條)ニ論ス。迄ニ止マル可シト云フノ意ナリ。是ノ刑一人ニ止マシテ他ニ及ハスト云ヘル原則ヨリ涌出スル所トス

ヲ得ス

第七條 犯人ノ多數ニ因リ刑ヲ加重ス可キ時ハ教唆者ヲ算入シテ多數ト爲スヲ得ス

第八條 事ヲ指定シテ犯罪ヲ教唆スルニ當リ犯人教唆ニ乘シ其指定シタル以外ノ罪ヲ犯シ又ハ其現ニ行フ所ノ方法教唆者ノ指示シタル所ト殊ナル時ハ左ノ例ニ照シテ教唆者ヲ處斷ス

一所犯教唆シタル罪ヨリ重キ時ハ止メ其指定シタル罪ニ從テ刑ヲ科ス

二所犯教唆シタル罪ヨリ輕キ時ハ現ニ行フ所ノ罪ニ從テ刑ヲ科ス

第二節 從犯

第九條 重罪輕罪ヲ犯スヲ知テ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シ其他豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ハ從犯トシ正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス但正犯現ニ行フ所ノ罪從犯ノ知ル所ヨリ重キ時ハ止メ其知ル所ノ罪ニ照シ一等ヲ減ス

第十條 身分ニ因リ刑ヲ加重ス可キ者從犯ト爲ス時ハ其重キニ從テ一等ヲ減ス
正犯ノ身分ニ因リ刑ヲ減免ス可キ時ト雖モ從犯ノ刑ハ其輕キニ從テ減免スルヲ得ス

第九章 未遂犯罪

(百九) 本條ハ從犯ノ何物タルヤヲ解釋ノ漏ヌヲシ今其解釋スル所ヲ略言スルニ從犯トハ故意ヲ以テ犯罪ノ豫備ヲ爲シ之ヲ容易ナラシメタル者ナリ而シテ其豫備トハ犯罪ノ要件タル所爲ニ非フノ單ニ之ヲ容易ナラシムルノ所爲タルニ過キス例ハ盜罪ニ於テハ牆壁ヲ踰ユルカ爲シ梯子ヲ貸渡スル如ク又謀殺ノ罪ニ於テハ刀劍ヲ附與スルカ如シ故ニ茲ニ犯人アリ其犯人ノ正犯タルカ將タ從犯タルカヲ知ラントスルニハ其行ヒシ所爲ハ犯罪ヲ組成スルカ將タ其豫備ニ過キサ

ルヲ搜索スベシ然ラバ其
正犯タルカ從犯タルカチ
容易ニ知ルヲ得可シ
〔百十〕百六條ノ註釋ト照
リ合ス可シ

第九章

未遂犯罪トハ既ニ犯罪ノ
事ヲ行フト雖モ意外ノ事
ニ因テ未タ遂ケサル所ノ
犯罪チ云フ

〔百十一〕罪ヲ行ハソコチ
謀リ又ハ其豫備ヲ爲スハ
道徳ヲ破ル頗ル大ナリト
雖モ未タ現ニ社會ノ損害
ヲ爲サ、ルヲ以テ法律ハ
措テ之ヲ問ハサルコトセ
リ況ヤ犯人ハ之カ遁辭チ
設クルヲ難カラサルニ於
テチヤ但シ其事ノ重大ニ
涉ル時ハ別段ナリトス例
ヘハ國事犯罪ニ於ケルカ
如シ

第百十一條 罪ヲ犯サントシテ謀リ又ハ其豫備

ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル者ハ本條
別ニ刑名ヲ記載スルニ非サレハ其刑ヲ科セ
ス一六八

第百十二條 罪ヲ犯サントシテ已ニ其事ヲ行
フト雖モ犯人意外ノ障礙若クハ舛錯ニ因リ
未タ遂ケサル時ハ已ニ遂ケタル者ノ刑ニ一
等又ハ二等ヲ減ス

第百十三條 重罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサ
ル者ハ前條ノ例ニ照シテ處斷ス
輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ本條
別ニ記載スルニ非サレハ前條ノ例ニ照シテ

處斷スルヲ得ス一四九、一五九、一七七、
二二二、二六六、三七五

違警罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ其
罪ヲ論セス

第十章 親屬例

第百十四條 此刑法ニ於テ親屬ト稱スルハ左

ニ記載シタル者チ云フ

一 祖父母父母夫妻

二 子孫及ヒ其配偶者

三 兄弟姊妹及ヒ其配偶者

四 兄弟姊妹ノ子及ヒ其配偶者

五 父母ノ兄弟姊妹及ヒ其配偶者

六 父母ノ兄弟姊妹ノ子

〔百十二〕未遂犯罪ノ釋義
ハ既ニ之ヲ述ヘタリ而シテ
其釋義ノ當レルハ本條
ニ照シテ之ヲ知ル可シ
今本條ニハ已ニ其事ヲ行
フト雖モトアリ是レ盜罪
ニ付テ云ハ、他人ノ物チ
懷ニスルガ如キ又強姦ノ
罪ニ付テハ婦女ヲ手込ニ
スルカ如キ又放火ノ罪ニ
付テハ燃質物チ用意シテ
之ニ火チ放チタルカ如シ
又意外ノ障礙トハ將ニ他
人ノ物チ盜マントスル時
其來テ之ヲ支ウルカ如シ
又強姦セントスル時婦女
之ヲ拒ソテ遁逃スルカ如
キコト云フ又意外ノ舛錯
トハ人ニ毒藥チ飲マシメ
タルニ其人速ニ消毒藥チ
服シタルカ如ク又人チ狙
撃シタルニ其人ニ銃丸ノ

中ヲサレカ如ク又他ハノ物ヲ盗ムモ直ニ之ヲ取戻サレタルカ如シ
 本條ニ據レハ未遂犯罪ヲ行ヒシ者ハ其犯罪ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減セラレハモノトス然ルニ已ニ犯罪ノ事ヲ行ヒ其中途ニシテ自ラ悔ヒテ之ヲ中止スルカ又ハ其効ヲ減滅スルガノコトアルニ於テハ其罪如何曰ク是レ刑法ノ不問ニ附スル所ナリ何トナレハ其明文ナケレハナリ但シ其所爲ニ因テ害ノ生シタル時ハ其害ハ別段ニ論セサルヲ得ス故ニ他人ヲ毒殺セシメカ爲メ之ニ毒藥ヲ飲マシメタルニ自ラ悔ヒテ其効ヲ減滅セントシテ遂ニ之ヲ減スルヲ得タル時例ヘハ消毒藥ヲ服サシメ幸ニ死ニ至ラシメスト雖モ爲メニ疾病ニ罹ラシメタル時ノ如キハ其疾病ニ罹ラシメタル事ノミヲ論スルヲ要トス可シ

七配偶者ノ祖父母父母
 八配偶者ノ兄弟姊妹及ヒ其配偶者
 九配偶者ノ兄弟姊妹ノ子
 十配偶者ノ父母ノ兄弟姊妹
 第百十五條 祖父母ト稱スルハ高曾祖父母外祖父母同シ父母ト稱スルハ繼父母嫡母同シ子孫ト稱スルハ庶子曾玄孫外孫同シ兄弟姊妹ト稱スルハ異父異母ノ兄弟姊妹ニ同シ
 養子其養家ニ於ル親屬ノ例ハ實子ニ同シ

〔百十二〕本條ニテ重罪ノ未遂犯罪ハ之ヲ罰シ輕罪ノ未遂犯罪ハ法律ノ特ニ定メタル場合ノ外之ヲ罰セサルコトセシ所以ニ蓋シ輕罪ニ其所爲ニ於テ未遂犯罪タル時ヲ認知

スルコト至テ難ク又假令其時ヲ認知スルヲ得キ場合ト雖モ其公安ヲ害スルコト甚ダ薄クレバナリ

第二編公益ニ關スル罪トハ社會則チ一國又ハ一地方ノ秩序安寧靜謐及ヒ利益ヲ保護スル所ノ事物ヲ直接ニ害スルノ罪ナリ

〔百十六以下〕本條以下ノ規則中百十三條ノ例外トス可キモノアリ即チ危害ヲ加ヘントシタルノミニテ危害ヲ加ヘタルト同一ノ刑ヲ科セラレ又ハ確定ノ刑ヲ科セラレハナリ是レ皇室ヲ特ニ尊重セサル可カラサルニ因ル

本條以下ノ場合ニ於テハ假令ヒ皇族ニ對シ罪ヲ犯スモ其皇族タルヲ知ラズシテ犯シタル時ハ第十七條ノ三項ニ因リ常人ニ對スル時ト同一ノ刑ヲ科セラル、モノトス

百十七條ニ不敬ノ所爲ト

第二編 公益ニ關スル重罪輕罪

第一章 皇室ニ對スル罪

第百十六條 天皇三后皇太子ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス

一三二一九二
以下、一九九

第百十七條 天皇三后皇太子ニ對シ不敬ノ所爲アル者ハ三月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

皇陵ニ對シ不敬ノ所爲アル者亦同シ

第百十八條 皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處ス其危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期徒刑ニ處ス

ノミアレハ御前ニ於テセ
 サル時ト雖モ苟モ皇室ヲ
 重セスシテ蔑視シ奉ルニ
 出ツルノ所爲ハ場合ノ如
 何チ問ハス時ノ如何ニ論
 ナク總テ刑ニ觸ルハ免
 カル、トナシ但シ言語及
 ヒ行事ニ發セサル所爲ハ
 格別ナリトス
 右危害ノ語ニ付テハ種々
 ノ疑問アレモ天皇皇族ニ
 對シ罪ヲ犯ス可キ者萬々
 之レナカル可キヲ以テ敢
 テ茲ニ之カ説明ヲ附セス
 〔百二十一〕朝憲ヲ紊亂ス
 ルトハ唯單ニ院省使廳ノ
 長官ニ抗シ又ハ其命令ヲ
 奉セサルカ如キトニ非ス
 少クトモ政體ヲ變更シ國
 家ノ憲法ヲ犯亂スル所ノ
 所爲ヲ云フナリ又
 内亂ヲ起シタル者トテ

第百十九條 皇族ニ對シ不敬ノ所爲アル者ハ
 二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上
 百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 第百二十條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪
 ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視
 ニ付ス

第二章 國事ニ關スル罪

第一節 内亂ニ關スル罪

第百二十一條 政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊
 シ其他朝憲ヲ紊亂スルヲ目的ト爲シ内亂
 ヲ起シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
 一 首魁及主謀者ハ死刑ニ處ス 一〇五

ハ現ニ兵ヲ擧ケシトカ又
 ハ兵ヲ擧ケシト稱スル能
 ハスト雖モ既ニ一地方ノ
 騷亂ヲ起シタルカノ時ニ
 非スハ本條ニ觸ルハ、コ
 ナカル可シ但シ内亂ヲ起
 シタルヤ未タ内亂ノ豫備
 ヲ爲シタルノミナルヤハ
 裁判官ノ場合ニ從テ判決
 スル所ナリ

二 群衆ノ指揮ヲ爲シ其他樞要ノ職務ヲ爲シ
 タル者ハ無期流刑ニ處シ其情輕キ者ハ有
 期流刑ニ處ス

三 兵器金穀ヲ資給シ又ハ諸般ノ職務ヲ爲シ
 タル者ハ重禁獄ニ處シ其情輕キ者ハ輕禁獄
 ニ處ス

四 教唆ニ乘シテ附加隨行シ又ハ指揮ヲ受ケ
 テ雜役ニ供シタル者ハ二年以上五年以下
 ノ輕禁錮ニ處ス

第百二十二條 内亂ヲ起スノ目的ヲ以テ兵器
 彈藥船舶金穀其他軍備ノ物品ヲ劫掠シタル
 者ハ己ニ内亂ヲ起シタル者ノ刑ニ同シ

〔百二十四〕前三條ノ罪ハ重大ナル叛逆ナルヲ以テ其未遂犯罪タル時ト雖モ國家ノ安寧ハ幾分カ害セラル、ナキ能ハス是レ本條ノ規則アル所以ナリ且ツ其罪ハ其所爲ヲ遂ケシ時ト未ダ遂ケサル時ト其間髪ヲ容レズ例ヘハ百二十一條ノ場合ノ如キハ既ニ内亂ヲ起シタルノミニテ完全ノ罪ト爲ルニ非スヤ若シ其内亂ノ目的ノ達シ終ルニ於テハ犯人ハ

第百二十三條 政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺シタル者ハ兵ヲ舉ルニ至ラスト雖モ内亂ト同ク論シ其教唆者及ヒ下手者ヲ死刑ニ處ス

第百二十四條 前三條ノ罪ハ未遂犯罪ノ時ニ於テ乃チ本刑ヲ科ス 一一一、

第百二十五條 兵隊ヲ招募シ又ハ兵器金穀ヲ

準備シ其他内亂ノ豫備ヲ爲シタル者ハ第百二十一條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス 一一一

内亂ノ陰謀ヲ爲シ未ダ豫備ニ至ラサル者ハ各二等ヲ減ス

第百二十六條 内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲スト

雖モ未ダ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス 一一一、

最早刑ヲ科セラル、トナシ却テ國家ノ大權ヲ占ムルニ至レハナリ然リ而シテ百二十二條ニ照セハ未遂犯罪トハ罪ヲ犯サントノ既ニ其事ヲ行フト雖モ他ノ障礙ニ因テ之ヲ遂ケサルコト云フモノナリ然ラバ百二十一條ノ罪ノ如キハ未遂犯罪タル時モ又完全ナル時モ敢テ異ナラサルカ如シ唯或ハ其度ニ多少ノ等差アルノミ是レ亦本條ノ由テ起ル所ノ理由ナリトス

又百二十二條ノ罪若クハ百二十三條ノ罪モ内亂ノ目的ヲ以テ物品ヲ劫掠シ若クハ人ヲ謀殺セントシテ之ヲ遂ケタルニ在ルニ因リ其未遂犯罪タル時ト頗ル懸隔アリト雖モ其懸隔タルヤ唯却掠シ若クハ謀殺スルノ一點ニ係ルノミニテ其罪ノ主要ノ目的ニ至テハ其完全ナル時ト未遂犯罪タル時ト敢テ大差ナカル可キナリ

〔百二十五〕一般ノ原則即チ百十一條ノ原則ニ據ルニ犯罪ノ豫備又ハ陰謀ハ罰ス可キノ限ニアラス他トシ其證ヲ舉グルコト至テ難クレハナリ然ルニ今本條ニ於テ強テ之ヲ罰スル所以ハ其事ノ至大至重ノ災害ヲ生スルノ原因ト爲ルヲ以テナリ故ニ裁判官モ非常ノ注意ヲ以テ預備陰謀ハ愈々内亂ノ預備陰謀ナルヤ否ヤヲ考定シ其証據ノ正確ニシテ少クトモ其外物ニ明白ニ發顯シタル時ニ非スハ本條ヲ適用ス可カラズ何トナレハ兵隊ヲ招募シ彈藥ヲ用意スルモ其目的ノ内亂ニ非スルヲ却テ内亂又ハ外患ヲ鎮壓スル等ニ出ツルコトアル可ク又會社ヲ組ミ又ハ有志相集テ盟約書ヲ作ルモ其事ノ内亂ノ陰謀ニ非スシテ責罰ス可カラサル所ノ報國心ニ出ツルコト間々之レアルレハナリ

〔百二十一〕官ニ自首シタル者ニ本刑ヲ免シテ唯監視ニ付スル所以ハ斯ノ如クセズンハ容易ニ自首スル者ナキヲ以テ内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ發見スルノ至テ難クレハナリ

〔百二十九〕抗敵ストハ唯敵國ニ在テ其軍中ニアルノミノヲ指ス可シ外國ニ與シテ本國ニ抗敵スルハ戰端ヲ開キテ後外國ニ與シテ本國ニ抗敵スルヲ云フニアレモ最初ヨリ外國ノ軍事ニ參シ開戦ノ公告アルモ尙モ依然トシ

第二百二十七條 内亂ノ情ヲ知テ犯人ニ集會所

ヲ給與シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

錮ニ處ス

第二百二十八條 内亂ニ乘シテ人ノ身體財産ニ

對シ内亂ノ目的ニ關セサル重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ通常ノ刑ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第二節 外患ニ關スル罪

第二百二十九條 外國ニ與シテ本國ニ抗敵シ又

ハ外國ト交戦中同盟國ニ抗敵シ其他本國ニ

背叛シテ敵兵ニ附屬シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百三十條 交戦中敵兵ヲ誘導シテ本國管内

ニ入ラシメ若クハ本國及同盟國ノ都府城

塞又ハ兵器彈藥船艦其他軍事ニ關スル土地

家屋物件ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處

ス

第二百三十一條 本國及同盟國ノ軍情機密ヲ

敵國ニ漏泄シ若クハ兵隊屯集ノ要地又ハ道

路ノ險夷ヲ敵國ニ通知シタル者ハ無期流刑

ニ處ス

敵國ノ間諜ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ

若クハ之ヲ藏匿シタル者亦同シ

第二百三十二條 陸海軍ヨリ委任ヲ受ケ物品ヲ

供給シ及ヒ工作ヲ爲ス者交戦ノ際敵國ニ通

謀シ又ハ其路遺ヲ收受シテ命令ニ違背シ軍

謀シ又ハ其路遺ヲ收受シテ命令ニ違背シ軍

之ニ參スル者ノ如キモ亦此文面中ニ入ル可シト解シテ可ナリ

〔百三十二〕私ニ戰端ヲ開クトハ自力ヲ恃ンテ擅ニ外國人ヲ襲撃シ因テ一時ノ騷亂ヲ起シ遂ニ彼我平和ノ交際ヲ破リ又ハ政府外交上ノ談判ヲ非常ニ困難ナラシムルヲ云フ此所爲ハ故ナク本國ヲ危險ニ罹ラシムルヲ以テ法律ハ乃チ重ク之ヲ罰スルヲトセシナリ

第三章 靜謐ヲ害スル罪トハ全國

備ノ缺乏ヲ致シタル時ハ有期流刑ニ處ス
第百三十三條 外國ニ對シ私ニ戰端ヲ開キタル者ハ有期流刑ニ處ス其豫備ニ止ル者ハ一等又ハ二等ヲ減ス
第百三十四條 外國交戦ノ際本國ニ於テ局外中立ヲ布告シタル時其布告ニ違背シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第百三十五條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三章 靜謐ヲ害スル罪

第一節 兇徒聚衆ノ罪

一般ノ安寧ヲ害スルノ罪ニ非スシテ一地方ノ騷亂ヲ醸スカ又ハ然ラサルモ其所爲幾分カ一地方ノ人心ヲ動搖スルノ効アルモノナリ

〔百三十六〕本條ノ罪トハ百三十五條ノ罪トハ其目的異ナルモ其場所ニ於テハ頗ル相類似スル所アリ然レモ其刑ニ至テハ寬嚴大ニ度ヲ異ニス彼ニ在テハ内亂ノ預備陰謀ヲ爲シタルノミニテ流刑ヲ科セラレ此ニ在テハ多衆ヲ嘯聚シ暴動ヲ謀リ即チ暴動ノ預備策畧ヲ爲スモ官吏ノ說諭ヲ受ケテ解散スル於テハ乃チ刑ヲ科セラレモ官ニ輕罪ノ刑ヲ受ケルニ過キテ故ニ百三十五條

第百三十六條 兇徒多衆ヲ嘯聚シテ暴動ヲ謀リ官吏ノ說諭ヲ受クルト雖モ仍ホ解散セサル者首魁及ヒ教唆者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス附和隨行シタル者ハ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス
第百三十七條 兇徒多衆ヲ嘯聚シテ官廳ニ喧鬧シ官吏ニ強逼シ又ハ村市ヲ騷擾シ其他暴動ヲ爲シタル者首魁及ヒ教唆者ハ重懲役ニ處ス其嘯聚ニ應シ煽動シテ勢ヲ助ケタル者ハ輕懲役ニ處シ其情輕キ者ハ一等ヲ減ス附加隨行シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰

ニ就テ述ヘタルカ如ク裁
判官及ヒ檢察官ハ非常ノ
注意ヲ以テ能ク罪跡ト證
據ノ如何ヲ鑑ミ決シテ此
二箇ノ場合ヲ混淆ス可カ
ラス又百二十五條ノ罪人
ヲ辭テ本條ニ假ルヲ得
サラシムルヲ要トス
仍ホ解散セサルハ數時
間又ハ場合ニ因テハ一二
日間ノ内ニ解散セサルヲ
云フ豈ニ直ニ解散セサル
ノ謂ナランヤ

金三處ス

第三百三十八條 暴動ノ際人ヲ殺死シ若クハ家

屋船舶倉庫等ヲ燒燬シタル時ハ現ニ手ヲ下

シ及ヒ火ヲ放ツ者ヲ死刑ニ處ス一〇二八、四二二、

首魁及ヒ教唆者情ヲ知テ制セサル者亦同シ

一〇五

第二節 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル

罪

第三百三十九條 官吏其職務ヲ以テ法律規則ヲ

執行シ又ハ行政司法官署ノ命令ヲ執行スル

ニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其官吏ニ抗拒シタル

者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓

〔百四十一〕官吏ノ職務ニ
對シテトハ其職務ヲ行フ
ニ當リ其職務ノ事ヲ原因
トシテト云フ義ナリ例ヘ
ハ警察官ノ道路ニ於テ通
行人ノ集合ヲ制セントス
ルニ當リ其制セントスル
トニ付キ形容若クハ言語
ヲ以テ之ヲ侮辱シタル時
ハ是ノ官吏ノ職務ニ對シ
云々シタリト謂フナリ又

以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス二七三、二九九
以下三二六
暴行脅迫ヲ以テ其官吏ノ爲ス可カラサル事
件ヲ行ハシメタル者亦同シ

第四百十條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ官吏ヲ毆傷

シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ

加ヘ重キニ從テ處斷ス 二九九以下

第四百十一條 官吏ノ職務ニ對シ其目前ニ於

テ形容若クハ言語ヲ以テ侮辱シタル者ハ一

月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五

十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其目前ニ非スト雖モ刊行ノ文書圖畫又ハ公

然ノ演說ヲ以テ侮辱シタル者亦同シ 三五八、

其職務ヲ行ハサル時ト雖
モ其職務ノコトニ付キ之ヲ
侮辱シタル時例ヘハ會テ
裁判官ニ刑ヲ科セラレシ
者其裁判官ニ道路ニ出會
シ因テ之ヲ侮辱シタル時
モ亦官吏ノ職務ニ對シ云
々々ト云フナリ

〔百四十二〕已決ノ囚徒逃
走ノ罪ヲ犯スト雖モ再犯
ヲ論セサルハ如何曰ク已
決ノ囚徒ノ逃走ノ罪ハ其
原犯ノ罪ヲ以テ原因トス
而シテ其逃走ノ刑ハ其原犯
ノ罪ニ就テ定メタル者ナ
レハ立法者ハ豫メ之ヲ再
犯ノ刑トシテ定メシナリ

第三節 囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿

スル罪

第百四十二條 已決ノ囚徒逃走シタル者ハ一
月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス
若シ獄舎獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シ
テ逃走シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁
錮ニ處ス

第百四十三條 已決ノ囚徒逃走ノ罪ヲ犯スト
雖モ再犯ヲ以テ論セス其刑期限内再ヒ逃走
シタル者ハ再犯ヲ以テ論ス 九二

第百四十四條 未決ノ囚徒入監中逃走シタル
者ハ第百四十二條ノ例ニ同シ但シ原犯ノ罪

ヲ判決スル時ニ於テ數罪俱發ノ例ニ照シテ
處斷ス 一〇〇以下

第百四十五條 囚徒三人以上通謀シテ逃走シ
タル時ハ第百四十二條ノ例ニ照シ各一等ヲ
加フ

第百四十六條 囚徒ヲ逃走セシムル爲メ兇器
其他ノ器具ヲ給與シ又ハ逃走ノ方法ヲ指示
シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處
シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス囚テ
囚徒ヲ逃走ヲ致シタル時ハ一等ヲ加フ

第百四十七條 囚徒ヲ劫奪シ又ハ暴行脅迫ヲ
以テ囚徒ヲ逃走ヲ助ケタル者ハ一年以上五

然ルニ若シ其逃走ノ罪ヲ
再犯ヲ以テ論スルコトセ
ハ是レ既ニ加重セシ罪ヲ
又更ニ加重スルニ等シカ
ルヘシ依テ再犯ヲ以テ論
スルヲ爲サハルナリ
〔百四十五〕本條ノ罪ハ特
ニ危險ナルヲ以テ百四十
二條ノ例ニ照シテ一等ヲ
加フルナリ蓋シ多人數ト
通謀スルハ其惡心深ク且
ツ法律ヲ犯スノ意充分決
定セルヲ以テナリ
〔百四十六〕兇器トハ總テ
人ヲ殺傷スルニ足ル物件
コシテ刀劍鎗棒小銃ノ類
ナリ
其他ノ器具トハ梯子綱鋸
ノ類ナリ

年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下
ノ罰金ヲ附加ス
若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時
ハ輕懲役ニ處ス
第四百四十八條 囚徒ヲ看守シ又ハ護送スル者
囚徒ヲ逃走セシメタル時ハ亦前條ノ例ニ同
シ
第四百四十九條 前數條ニ記載シタル輕罪ヲ犯
サントシテ未ダ遂ケザル者ハ未遂犯罪ノ例
ニ照シテ處斷ス
第四百五十條 看守又ハ護送者其懈怠ニ因リ囚
徒ヲ逃走ヲ覺ラサル時ハ二圓以上二十圓以

〔百五十一〕犯罪人ナルコ
チ知テト云フ語ハ世評又
ハ官ノ處分ニテ其犯罪人
ナルコトヲ知テト云フ意ナ
ルヤ將タ其ノ犯罪ヲ目撃
シテ自ラ之ヲ知テト云フ
ノ意ノミナルヤ如何曰ク
此語ハ此二箇ノ意ヲ包含
スル者ナリ何トナレハ本
條ハ總テ犯罪人ナリトノ
嫌疑ヲ受ケン者ヲ糺治シ
其罪ノ有無ヲ判決シ以テ
公安ヲ保ダントスルニ在
レバナリ
犯罪人タルノ嫌疑ヲ受
ケン人ナルコトヲ知テ之レ

下ノ罰金ニ處ス
若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時
ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス
第四百五十一條 犯罪人又ハ逃走ノ囚徒及ヒ監
視ニ付セラレタル者ナルコトヲ知テ之ヲ藏匿
シ若クハ隱避セシメタル者ハ十一日以上一
年以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下
ノ罰金ヲ附加ス
若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時
ハ一等ヲ加フ
第四百五十二條 他人ノ罪ヲ免カレシメントテ
圖リ其罪證ト爲ル可キ物件ヲ隱蔽シタル者

ヲ藏匿シタル者ハ其人ノ無罪ト定マリ時ハ如何曰ク右ノ理由ニ因リ其者ハ矢張り罪アル可シ
〔百五十二〕前二條ノ罪ヲ犯人ノ親族ノ犯シタル時ニ限テ之ヲ論セサル所以ハ凡ソ親族ノ其同族ヲ庇護スレハ人情ノ止ムヲ得サルニ出ツル所ニシテ深ク咎ム可キニ非サレハナリ
〔百五十四〕私ニトハ姓名ヲ詐稱シ又ハ復權ヲ得タリト偽ル等ノイヲ云フ

十一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百五十三條 前二條ノ罪ヲ犯シタル者犯人ノ親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス 一二七

第四節 附加刑ノ執行ヲ遁ルノ罪

第百五十四條 公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタル者私ニ其權ヲ行ヒタル時ハ

一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス 三一以下

第百五十五條 監視ニ付セラレタル者其規則ニ違背シタル時ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス 三四以下

第百五十六條 前二條ノ罪ハ其刑期限内再ヒ犯シタル時ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルヲ得ス 九一以下

第五節 私ニ軍用ノ銃礮彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪

第百五十七條 官令ヲ受ケス又ハ官許ヲ得スシテ陸海軍ノ用ニ供スル銃礮彈藥其他破裂質ノ物品ヲ製造シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ廿圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其之ヲ輸入シタル者亦同シ

前項ノ物品ヲ私ニ販賣シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下

〔百五十六〕前二條ノ罪モ亦己決囚徒逃走ノ罪ノ如ク一罪既ニ發シタル後ニ非ズンハ決シテ發スルヲキニ因リ乃チ法律ニ於テ前犯ノ罪ヲ基礎トシ法文上ニテ其刑ヲ加重シタルナリ依テ裁判官ニ再犯ヲ以テ論スルヲ得サラシム
〔百五十七以下〕平人ニ軍用ノ銃礮彈藥ヲ製造シ又ハ販賣シ及ヒ所有スルヲ許ス時ハ或ハ内亂ヲ起シ或ハ暴動ヲ企テントスル者ハ容易ニ其目的ヲ達スルヲ得可キニ因リ國家ノ安寧モ爲メニ幾分カ害セラレハトナキ能ハス刑法ニテ私ニ之ヲ製造シ又ハ所有シ又ハ販賣スルノ所爲ヲ罰スルハ即チ之

前項ノ物品ヲ私ニ販賣シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下

ニ是レ因ルナリ
右ニ記載スル所ヲ以テス
レハ銃砲彈藥其他破裂質
ノ物品及ヒ此等ノ物品ヲ
製造スル用ノミニ供スル
〔百六十一條〕器械ハ法律
ニテ禁例シタル物件ニテ
即チ應禁物ナリ
〔百五十八〕職工又ハ雇人
ハ前條ノ罪ニ關シ正犯ノ
使令ニ供スルト雖モ其使
令ニ供シタル事柄ノ性質
ニ因リ又ハ他ノ事情ニ因
テ全ク犯罪ノ情ヲ知ラザ
ル時ハ本條ヲ以テ論セズ
ルハコトナカル可シ
〔百六十〕私ニトハ官命ヲ
受ケス又官許ヲ得ズシテ
ト云フ義ナリ
〔百六十一〕單ニ其用ニ供
ス可キ者トハ銃砲彈藥及
ヒ破裂質ノ物品ノ製造ノ

ノ罰金ヲ附加ス

第百五十八條 前條ノ罪ヲ犯スト雖モ職工又
ハ雇人ニシテ止メ正犯ノ使令ニ供シタル者
ハ各本刑ニ照シ二等ヲ減ス 一〇九
第百五十九條 前二條ノ罪ヲ犯サントシテ未
タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷
ス 一一三
第百六十條 第百五十七條ニ記載シタル物品
ヲ私ニ所有シタル者ハ二圓以上二十圓以下
ノ罰金ニ處ス
第百六十一條 第百五十七條ニ記載シタル物
品又製造ニ供シタル器械ニシテ單ニ其用ニ

供ス可キ者ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收
ス 四四、

第六節 往來通信ヲ妨害スル罪

第百六十二條 道路橋梁河溝港埠ヲ損壞シテ
往來ヲ妨害シタル者ハ二月以上二年以下ノ
重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ
附加ス
第百六十三條 偽計又ハ威力ヲ以テ郵便ヲ防
害シ若クハ之ヲ阻止シタル者ハ亦前條ニ同
シ
第百六十四條 電信ノ器械柱木ヲ損壞シ又ハ
條線ヲ切斷シテ電氣ヲ不通ニ致シタル者ハ

外決シテ他ノ事ニ用ユ可
カラサル器械ナリ故ニ其
製造ニ供シタル物件ト雖
モ他ニ用ユルヲ得可キ者
ハ犯人ノ所有ニ係ル時ノ
外之ヲ沒收スルコト得ス
〔百六十一以下〕凡ソ道路
河溝橋梁鐵道船路等ハ皆
往來通信ヲ爲スニ缺ク可
カラサルノ具ニシテ商業運
輸郵便及ヒ其他人生百般
ノ事業ノ由テ活動スル所
トス若シ此等ノ事業ニノ
僅々クリトモ息止スルコ
アルニ於テハ害ニ全社會
ノ不幸タルノミナラス爲
メニ營業者ノ其害ヲ蒙ル
ルコト幾許ナルヤヲ知ル可
カラズ立法官タル者奈何
ソ夫レ特定ノ刑罰ニテ之
ヲ保護セズシテ可ナラン
ヤ是レ刑法中特ニ往來通

信ヲ妨害スル罪ト云フ一節アル所以ナリ
百六十二條以下ノ罪ハ悉皆故意ヲ以テ犯シタル罪ナリ故ニ誤テ其罪ノ所爲ヲ行フタル者ハ本條以下ヲ以テ論セラル、トナケレハ他ニ法律ノ明文アツテ刑ヲ科セラル可キ時ノ外ハ唯損害ヲ償フノミヲ以テ可ナリトス例ハハ荷車ヲ牽クニ際シ誤テ橋梁ヲ損壞シ又ハ航海ヲ爲スニ際シ誤テ其標識ヲ損壞スル等ノ如キハ重禁錮又ハ重懲役ニ處セラレヌシテ單ニ別段ノ法律規則又ハ違警罪ヲ以テ論セラル、ノミ但シ其所爲ニ因テ人ヲ殺傷シタル時ハ三百十七條以下ノ論スル所ト爲ル可キハ勿論ナリトス

三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
若シ器械柱木條線ヲ損壞シテ電信ノ妨害ヲ爲スト雖モ不通ニ至ラサル時ハ一等ヲ減ス
第百六十五條 漁車ノ往來ヲ妨害スル爲メ鐵道及ヒ其標識ヲ損壞シ其他危險ナル障碍ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス 四二七ノ一〇、
第百六十六條 船舶ノ往來ヲ妨害スル爲メ燈臺浮標其他航海ノ安寧ヲ保護スル標識ヲ損壞シ又ハ詐僞ノ標識ヲ點示シタル者ハ亦前條ニ同シ 四二七ノ十
第百六十七條 前數條ニ記載シタル罪其事務

〔百六十七〕掛リ官吏及ヒ雇人職工自ラ犯シタル者ニ一等ヲ加ヘテ刑ヲ科スル所以ノ者此等ノ者ハ右ノ罪ヲ防止スルノ義務アルヲモ顧リミスシテ之ヲ犯スヲ以テナリ

ニ關スル官吏及ヒ雇人職工自ラ犯シタル時ハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ
第百六十八條 第百六十二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ殺傷シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス 二九九以下、
第百六十九條 第百六十五條第百六十六條ノ罪ヲ犯シ因テ漁車ヲ顛覆シ又ハ船舶ヲ覆没シタル時ハ無期徒刑ニ處シ人ヲ死ニ致シタル時ハ死刑ニ處ス 四一五、
第百七十條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス 一一三

〔百七十一〕凡ソ住所又ハ建造物ハ猶ホ其所有者ノ城塞ノ如クナレハ之カ許諾ヲ得サル間ハ何人ト雖モ其中ニ入ルノ權ナシ若シ其承諾ヲ得テ強テ其中ニ入ラントスル者アラハ百方之ヲ拒ンテ可ナリ特ニ夜間ノ如キハ之ヲ拒ムニ付キ其人ヲ殺傷スルモ一モ罪ノ論ス可キモノナシ

但シ豫審判事ハ勿論其他ノ司法警察官ト雖モ法律ニ循ヒ其定ムル場合ニ於テハ家宅搜索ノ爲メ人ノ住所ニ入ルヲ得可シ然レモ夜間ハ決シテ之ニ入ルヲ得ズ

本條ノ故ナクノ語ハ其意

第七節 人ノ住所ヲ侵ス罪

第七十一條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸

宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入りタル者

ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス^三一

四二五

若シ左ニ記載シタル所爲アル時ハ一等ヲ加

フ

一 門戶^{カキカ}牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キテ

入りタル時 四一八

二 兇器其他犯罪ノ用ニ供ス可キ物品ヲ携帶

シテ入りタル時

三 暴行ヲ爲シテ入りタル時

四二八以上ニテ入りタル時

第七十二條 夜間故ナク人ノ住居シタル邸

宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入りタル者

ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス^三一五ノ

二五ノ

若シ前條ニ記載シタル加重ス可キ所爲アル

時ハ一等ヲ加フ

第七十三條 故ナク皇居禁苑離宮行在所及

ヒ皇陵内ニ入りタル者ハ前二條ノ例ニ照シ

各ニ等ヲ加フ

第八節 官ノ封印ヲ破棄スル罪

第七十四條 官署ノ處分ニ因リ特別ニ家屋

頗ル廣シト雖モ其精心ニ至テハ大抵所有者又ハ其家人ノ明許又ハ默許ヲ得サルカ又ハ止ムヲ得ズシテト云フノ外ニ出テサレハ但シ承諾ヲ得ズ又ハ止ムヲ得サルニ非スシテ住所ニ入ルト雖モ後テ其所有者ノ此事ヲ暗又ハ明ニ許容スルニ於テハ敢テ法律ノ刑ニ觸ルハコナカル可キナリ

他人ノ家宅ヲ己ノ家宅ト誤認シテ其中ニ入りシ時ハ如何曰ク是レ罪ト爲ル可キ事實ヲ知ラズシテ犯シタル者ナレバ乃チ其罪ヲ論スルノ限ニ非ス

本條ノ最終ノ四箇ノ場合ニ於テハ犯人ハ罪惡ヲ犯スノ意決定セルモノ、如ク且ツ此場合ニ於テハ人

ノ恐怖スルヲ殊ニ甚クシキカ故ニ法律ハ乃チ一等ヲ加フルコトセシナリ
 〔百七十一〕夜間トハ日出前日没後チ云フ故ニ期節ニ因テ自ラ長短アリ蓋シ法律ハ夜間ヲ視テ人ノ休息スル時ト爲スコ在リトス
 〔百七十四〕官署ノ處分ニ因リ特別ニ云々シタル封印トハ預審判事カ家宅搜索ノ後其差押ヘタル物件ノ紛失ヲ防カシカ爲メ又ハ其家屋ニ出入スルコトヲ禁セシカ爲メ之ニ施シタル封印又ハ民事裁判官カ分散人ニ其財産ヲ漏脱スルコト能ハサラシメシカ爲メ其倉庫家屋ニ施シタル封印等ナリ
 〔百七十七〕陸海軍ノ將校

倉庫其他ノ物件ニ施シタル封印ヲ破棄シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス
 若シ看守者自ラ犯シタル時ハ一等ヲ加フ
 第百七十五條 官ノ封印ヲ破棄シテ其物件ヲ盜取シ又ハ毀壞シタル者ハ盜罪及ヒ毀壞ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス三六六以下、四一七以下、
 第百七十六條 看守者其懈怠ニ因リ封印ヲ破棄シ又ハ其物件ヲ盜取毀壞スル犯人アルコトヲ覺ラサル時ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第九節 公務ヲ行フヲ拒ム罪
 第百七十七條 陸海軍ノ將校タル者出兵ヲ要

トハ尉官以上ヲ云フ小尉試補及ヒ士官學校生徒モ亦將校ニ準ス可キ者ナレハ場合ニ因テハ之ヲ將校ト同一視スルモ可ナリ
 出兵ヲ要求スルノ權アル官署トハ府知事縣令檢事預審判事等ナリ此等ノ者ハ騷亂鎮撫ノ爲メ又ハ罪人逮捕ノ爲メ出兵ヲ要求スルノ權アリ
 〔百七十八〕其他詐欺ノ所爲ヲ以テトハ姓名身分若クハ年齢ヲ偽リ又ハ賄賂ヲ以テ検査醫員ヨリ己レノ疾病ナルヲ申立テシムルノ類ナリ

求スル權アル官署ヨリ其要求ヲ受ケ故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス 二七四、
 第百七十八條 陸海軍ノ徵兵ニ編入セララル可キ者身体ヲ毀傷シテ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ以テ免役ヲ圖リタル時ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 若シ他人ニ囑託シ其氏名ヲ詐稱シ代テ徵募ニ應セシメタル者亦同シ其囑託ヲ受ケテ徵募ニ應シタル者ハ第二百三十一條ノ例ニ照

〔百八十〕本條ノ故ナシ
テ之ヲ肯セサルトハ例ヘ
ハ宣誓ヲ忌嫌シ又ハ犯人
ノ怒ラントヲ畏レ又ハ世
評ノ如何ヲ顧慮シ又ハ全
ク頑愚ニテ我意ヲ張ル等
ノコニテ敢テ證人タルコ
ト肯セザルヲ云フニ在ル
ヲ以テ其刑ハ止テ二圓以
上二十圓以下ノ罰金タル
ニ過キスト雖モ若シ之ヲ
肯セサルノ目的果シテ訴

シテ處斷ス 一〇九
第七十九條 醫師化學家其他職業ニ因リ官
署ヨリ解剖分析又ハ鑑定ヲ命セラレタル者
故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ四圓以上四十
圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十條 裁判所ヨリ證人トシテ證據ヲ陳
述スルコトヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ
肯セサル時ハ亦前條ニ同シ 二一八

第八十一條 傳染病流行ノ際又ハ傳染病ノ
疑アル船舶入港スルニ當リ醫師其病患ヲ檢
査シ又ハ消滅ノ方法ヲ陳述スルコトヲ命セラ
レタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ五圓

以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス 四二七ノ九

獸類傳染病流行ノ際獸醫此條ノ罪ヲ犯シタ
ル時ハ一等ヲ減ス

第四章 信用ヲ害スル罪

第一節 貨幣ヲ偽造スル罪

第八十二條 內國通用ノ金銀貨及ヒ紙幣ヲ
偽造シテ行使シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第八十三條 內國ニ於テ通用スル外國ノ金

銀貨ヲ偽造シテ行使シタル者ハ有期徒刑ニ
處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ二年以上五年

認ノ緊要ナル證據ヲ陰蔽
スルニ在レハ其効ヤ訴訟
事件ノ證據ヲ打崩シ即チ
事實ニ反對スル事ヲ述フ
ルニ等シキカ故ニ此場合
ニ於テハ法律ヲ精心ニ依
據シテ之ヲ論スルニ偽證
ノ罪ヲ以テセサルヲ得ス
トス(二百十八條)

〔百八十二以下〕金銀貨及
紙幣ヲ偽造ストハ真正ノ
金銀貨及ヒ紙幣ト外面ニ
於テ殆ント區別シ難キ程
ニ之ヲ製造フルコトニ即
チ不正ノ利ヲ得ントスル
ニ出ツルノ偽造ヲ云フ彼
ノ小兒ノ戯物ト爲サンカ
爲メ鉛又ハ通常ノ西洋紙
ニテ金銀貨及紙幣ヲ偽造
シタル者ハ即チ之ヲ偽造
シタル者ニ相違ナシト雖
モ然レモ本條ノ問フ所ニ

非ナルヘシ他大シ其目的
トスル所偽造セシ金銀貨
及紙幣ヲ以テ不正ノ利ヲ
得ントスルニ在ラサレハ
ナリ
變造トハ例ヘハ銅貨ノ文
字ヲ更改スルカ如キ十錢
札ノ十ノ字ヲ更改シテ二
十ノ字ト爲スカ如キ又ハ
銅貨ノ量目ヲ減殺スルカ
如キ即チ是ナリ
本條以下ノ記載スル罪ハ
貨幣又ハ紙幣ヲ偽造又ハ
變造スルノト之ヲ行使シ
タルトノ二箇ノ事實ヨ
リ成立スルモノトス故ニ
其刑重シ然レモ若シ之ヲ
偽造變造ノ未タ行使セサ
ルニ於テハ其害延テ社會
ニ弘マラザルニ因リ法律
ハ已ニ之ヲ行使セタル者
ノ刑ニ一等ヲ減スルノト

以下ノ重禁錮ニ處ス
第百八十四條 官許ヲ得テ發行スル銀行ノ紙
幣ヲ偽造シ若クハ變造シテ行使シタル者ハ
内外國ノ區別ニ從ヒ前二條ノ例ニ照シテ處
斷ス
第百八十五條 内國通用ノ銅貨ヲ偽造シテ行
使スル者ハ輕懲役ニ處ス
若シ變造シテ行使シタル者ハ一年以上三年
以下ノ重禁錮ニ處ス
第百八十六條 前數條ニ記載シタル貨幣ノ偽
造變造己ニ成テ未タ行使セサル者ハ各本刑
ニ照シ一等ヲ減シ其未タ成ラサル者ハ二等

セシナリ
若シ偽造變造ノ未タ成ラ
サル時又ハ其預備ヲ爲シ
タルノミニテ未タ之ニ着
手セサル時ハ其害殊ニ淺
シ依テ第一ノ場合ニ於テ
ハ二等ヲ減シ第二ノ場合
ニ於テハ三等ヲ減ス是レ
百八十四條ノ預見スル所ナ
リ

ヲ減ス
若シ偽造ノ器械ヲ豫備シテ未タ着手セサル
者ハ各三等ヲ減ス 一〇九
第百八十七條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知
テ雇ヲ受ケタル職工ハ前數條ニ記載シタル
犯人ノ受ク可キ刑ニ照シ各一等減ス 一〇九
若シ職工ノ補助ヲ爲シテ雜役ニ供シタル者
ハ職工ノ刑ニ照シ一等又ハ二等ヲ減ス 一〇
第百八十八條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知
テ房屋ヲ給與シタル者ハ偽造變造ノ各本刑
ニ照シ二等ヲ減ス 一〇九
第百八十九條 偽造變造ノ貨幣ヲ内國ニ輸入

〔百八十九〕其貨幣ヲ輸入
ス雖モ惡意ヲ以テセサル
以上ハ本條ニ觸レサルヲ

勿論ナリトス例ハハ驗査ノ爲メ之ヲ輸入シタル時ノ如シ

シタル者ハ偽造變造ノ刑ニ同シ

第百九十條 偽造變造ノ情ヲ知テ其貨幣ヲ取

受シ之ヲ行使シタル者ハ偽造變造シテ行使

シタル者ノ刑ニ照シ各二等ヲ減ス

其未タ行使セサル者ハ各三等ヲ減ス

第百九十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ

輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ

監視ニ附ス^{三四}

第百九十二條 貨幣ヲ偽造變造シ及ヒ輸入取

受シタル者未タ行使セサル前ニ於テ官ニ自

首シタル時ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下

ノ監視ニ附ス^{三四}

〔百九十二〕凡ソ偽造變造ノ罪ハ容易ニ發見シ難キ者ナレハ法律ハ自首スル者ニ本刑ヲ免スルコトヲ獎勵スルナリ
〔百九十三〕本條ニハ其價額ニ倍ノ罰金ニ處ストア

レモ之ヲ輕禁錮ニ換フルコトハ必ズ二年ニ過クモコトヲ得ス
本節以下ノ偽造ノ罪ニ付テハ總テ百八十二條ノ註解ト照リ合ス可シ

〔百九十四〕御璽ハ天皇陛下ノ御印ニテ親シク事ヲ認可セラルヽニ際シテ用ヒ給フ所ノ者トス
國璽トハ日本大政府ノ政事上ノ事ニ關シテ用ユル所ノ印ナリ

若シ職工雜役及ヒ房屋ヲ給與シタル者未タ

行使セサル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ

免ス

第百九十三條 貨幣ヲ取受スルノ後ニ於テ偽

造又ハ變造ナルコトヲ知リ之ヲ行使シタル者

ハ其價額ニ倍ノ罰金ニ處ス但其罰金ハ二圓

以下ニ降スコトヲ得ス

第二節 官印ヲ偽造スル罪

第百九十四條 御璽國璽ヲ偽造シ又ハ其偽璽

ヲ使用シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第百九十五條 各官署ノ印ヲ偽造シ又ハ其偽

印ヲ使用シタル者ハ重禁錮ニ處ス

〔百九十五〕各官署トハ官院省使府縣廳及ヒ屯所區役所戸長役場等ヲ總稱ス〔百九十六〕時アツテハ官ニ於テ記号印章ヲ產物商品等ニ押用シ以テ其品柄ヲ保證シ又ハ收税ノ方法トナスコアリ例ヘバ開拓使ニ於テ北海道ノ產物ニ記號印章ヲ附スルカ如ク又各府縣ニ於テ度量衡ノ新器ニ檢査ノ印章ヲ打込ミ又ハ荷車人力車ニ記號檢印ヲ附スルカ如シ然ルコ其記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ擅ニ使用スル者アル時ハ一般ノ信用モ爲メニ害セラレトニ至ラン依テ之ヲ重ク罰スルナリ然レモ書物什具ハ官ノ私有物ナレバ之ニ押用スル記號印章ヲ偽造スル者又

第百九十六條 產物商品等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ輕懲役ニ處ス
 書藉什物等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス
 第百九十七條 御璽國璽官印記號印章ノ影蹟ヲ盜用シタル者ハ前數條ニ記載シタル偽造ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス
 若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ
 第百九十八條 官ヨリ發行スル各種ノ印紙界

ハ其偽印ヲ使用スル者アルモ其害甚シ依テ單ニ三年以下ノ禁錮ニ處スルニ〔百九十七〕御璽云々ノ影蹟ヲ盜用スルトハ之ヲ取テ用ユルコト其影蹟ヲ竊コト摸寫スルトヲ併セ云フノ語トス
 〔百九十九〕已ニ貼用シタル各種ノ印紙及ヒ郵便切手ヲ再ヒ貼用スト雖モ其已ニ貼用セシ者タルコトヲ知ラサリシ時ハ則チ罪ト爲ル可キ事實ヲ知ラサリシト云フヲ以テ其罪ヲ論セラルハコトナシ〔七十七條ノ第三項〕
 官ノ文書トハ官吏ノ其職務上ニテ取扱ヒ又ハ發行スル所ノ文書ヲ云フ

紙及ヒ郵便切手ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 第百九十九條 已ニ貼用シタル各種ノ印紙及ヒ郵便切手ヲ再ヒ貼用シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二百條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス 一二三
 第二百一條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視

(二百二)其詔書ヲ毀棄シタル者トハ其使用ノ未ダ終ラサル前又ハ其使用既ニ終リシト雖モ之ヲ保存スルノ必要ナル時ニ於テ惡意ヲ以テ之ヲ毀棄シタル者ニシテ之ヲ毀棄ス可キ時ニ毀棄シタル者ニ非サルヲ勿論ナリトス本節中ニアル何々ヲ毀棄シタル者ト云フ語ニ付テハ總テ此ノ如キ注意ヲ加フ可シトス

ニ附ス三四

第三節 官ノ文書ヲ偽造スル罪

第二百二條 詔書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

其詔書ヲ毀棄シタル者亦同シ

第二百三條 官ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其官ノ文書ヲ毀棄シタル者亦同シ

第二百四條 公債證書地券其他官吏ノ公證シタル文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

若シ無記名ノ公債証書ニ係ル時ハ一等ヲ加

フ

第二百五條 官吏其管掌ニ係ル文書ヲ偽造シ

又ハ増減變換シテ行使シタル時ハ前二條ノ

例ニ照シ各一等ヲ加フ 一六七

其文書ヲ毀棄シタル者亦同シ

第二百六條 官ノ文書ヲ偽造スルニ因テ官印

ヲ偽造シ又ハ盜用シタル者ハ偽造官印ノ各

本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス 一九五

第二百七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ減輕

ニ因テ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年

以下ノ監視ニ附ス 三四

第四節 私印私書ヲ偽造スル罪

〔二百八〕私印トハ各人ノ一般ニ有スル所ノ實印ナリ

第二百八條 他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
若シ他人ノ印影ヲ盜用シタル者ハ一等ヲ減ス

第二百九條 爲替手形其他裏書ヲ以テ賣買ス可キ證書若ハク金額ト交換ス可キ約定手形ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其手形證書ニ詐偽ノ裏書ヲ爲シテ行使シタル者亦同シ

第二百十條 賣買貸借贈遺交換其他權利義務

〔二百十ノ二〕其餘ノ私書ヲ偽造シ又ハ増減變換シ

ヲ行使シタル者ト雖モ其事ノ將來ニモ又現在ニモ決シテ害ヲ生スルコトナキ以上ハ本條ヲ以テ論ス可キノ限ニ非ス是レ法律ノ精意ヨリ涌出スル所トス
右ニ云フ害トハ必スシモ財産ニ付テノ害ノミニ非ス名譽ニ關スル害ヲモ併セ云フナリ

ニ關スル證書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ

處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
其餘ノ私書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處

シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百十一條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス 一三三

第二百十二條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視付ス 一三四

〔二百十三以下〕官ノ免狀トハ版權免許狀開業免狀卒業免狀等ノ類ナリ
鑑札トハ物品賣捌鑑札賣藥營業鑑札俳優免許鑑札等ノ類ナリ

第五節 免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル罪

第二百十三條 官ノ免狀又ハ鑑札ヲ偽造シテ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
但官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル時ハ偽造官印ノ各本條ニ照シテ處斷ス

第二百十四條 屬籍身分氏名ヲ詐稱シ其他詐偽ノ所爲ヲ以テ免狀鑑札ヲ受ケタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
官吏情ヲ知テ其免狀鑑札ヲ下付シタル者ハ

二等ヲ加フ

〔二百十五〕公務ヲ免カル可キ爲メトハ法律規則ニ因テ己レノ行フ可キ職務ヲ免カル可キ爲メト云フ義ニシテ即チ化學家カ官署ヨリ命セラレタル分折ヲ爲スヲ免カレントスル爲メト云フノ類ナリ（百七十九條百八十一條）

第二百十五條 公務ヲ免カル可キ爲メ醫師ノ氏名ヲ用ヒ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル者ハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲メニスルヲ分メヌ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
醫師囑託ヲ受ケテ其詐偽ノ證書ヲ造リタル者ハ一等ヲ加フ

第二百十六條 陸海軍ノ徵兵ヲ免カル可キ爲メ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル者及ヒ囑託ヲ受ケテ其詐偽ノ證書ヲ造リタル醫師ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

〔二百十八以下〕偽證ノ罪ハ治罪法ニ從ヒ證人タル可キ者宣誓ノ式ヲ行ヒ判事ノ面前ニテ被告人ノ爲メ又ハ被告人ニ對シ認事ノ要點ニ付キ故ヤラコ眞實ヲラサル事實ヲ述フルヲ云フ

右ハ偽證ノ罪ニ必要ナル件々ニテ其中一件コテモ缺クル時ハ則チ偽證ノ罪ナシトモサレ得テ故ニ第一證人タルコト得サル者例ヘハ父母十六歳未滿

第二百十七條 免狀鑑札及ヒ疾病ノ證書ヲ増減變換シテ行使シタル者ハ亦偽造ノ例ニ同シ

第六節 偽證ノ罪

第二百十八條 刑事ニ關スル証人トシテ裁判所ニ呼出サレタル者被告人ヲ曲庇スル爲メ事實ヲ掩蔽シテ偽証ヲ爲シタル時ハ左ノ例ニ處シテ處斷ス

一 一重罪ヲ曲庇スル爲メ偽証シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

二 輕罪ヲ曲庇スル爲メ偽証シタル者ハ一月

ノ幼者被告人ノ後見人又ハ公權ヲ剝奪セラレシ者等ハ偽證ヲ爲ストモ必ス偽證者トシテ論セラレ、トナシ

第二宣誓ノ式ヲ行ハサリシ者モ亦右ニ同シ

第二證人タルコト得可キ者宣誓ノ式ヲ行ヒシト雖モ判事ノ面前ニ非スシテ偽證ヲ爲シタルニ於テハ亦候證者トシテ論セラレ、トナシ

第三偽證ヲ爲スト雖モ其事タル被告人ノ爲メ又ハ被告人ニ對シ認事ノ要點ニ關ヒサル時亦同シ

第四偽證ヲ爲スト雖モ即チ眞實ヲラサル所ノ事實ヲ述フルト雖モ其事ノ故意ニ出テタル時即チ錯誤

以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

三 違警罪ヲ曲庇スル爲メ偽証シタル者ハ違警罪ノ本條ニ依テ處斷ス 四二五ノ一四、

第二百十九條 偽證ノ爲メ被告人正當ノ刑ヲ免カレタル時ハ偽證者ノ刑前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第二百二十條 被告人ヲ陷害スル爲メ偽證ヲ爲シタル者ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス

一 重罪ニ陷ナシムル爲メ偽証シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

ス
曲庇スルトハ被告人ニ刑
ヲ受ケサラシメシカ爲メ
其罪ヲ供述セズシテ枉
之ヲ保護スルヲ云ヒ陷害
スルトハ不實ノ事ヲ申立
テ罪ヲキ者ヲ罪ニ陷レン
トスルヲ云フ

〔二百二十一以下〕反坐ス
トハ被告人ニ負ハシメテ
罪ノ刑ヲ偽證者ニ科ス
ルヲ云フ

二輕罪ニ陷ラシムル爲メ偽證シタル者ハ六
月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上
四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
三違警罪ニ陷ラシムル爲メ偽證シタル者ハ
一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以
上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百二十一條 偽證ノ爲メ被告人刑ニ處セ
ラレタル後ニ於テ偽證ノ罪發覺シタル時ハ
偽證者ヲ其刑ニ反坐ス若シ反坐ノ刑前條ニ
記載シタル偽證ノ刑ヨリ輕キ時ハ前條ノ例
ニ照シテ處斷ス
其刑期限内ニ於テ偽證ノ罪發覺シタル時ハ

現ニ經過シタル日數ニ照シテ反坐ノ刑期ヲ
減スルコトヲ得但減シテ前條偽証ノ刑ヨリ降
スコトヲ得ス
第二百二十二條 偽證ノ爲メ被告人死刑ニ處
セラレタル時ハ反坐ノ刑一等ヲ減ス其未タ
刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ二
等ヲ減ス
若シ被告人ヲ死ニ陷ルノ目的ヲ以テ偽證
ヲ爲シタル時ハ死刑ニ反坐ス其ノ未タ刑ヲ
執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ一等ヲ
減ス

第二百二十三條 民事商事又ハ行政裁判ニ關

〔二百二十四〕鑑定人及通事ハ裁判官ノ知了スルヲ能ハサル事實ヲ申立ツル者ナルヲ以テ即チ證人ナリ因テ其詐偽ノ陳述ヲ爲シタル時ハ之ヲ偽證者ト一様ニ論スルナリ

〔二百二十六〕本條ハ偽證ノ爲メ將ニ害ヲ受クルニ至ラント爲スル者ニ其害

シテ偽造ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百二十四條 鑑定又ハ通事ノ爲メ裁判所ニ呼出サレタル者詐偽ノ陳述ヲ爲シタル時ハ前數條ニ記載シタル偽證ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百二十五條 賄賂其他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐偽ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者ハ亦偽證ノ例ニ同シ

第二百二十六條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者其事件ノ裁判宣告ニ至ラサル前ニ於

テ受クルコトナカラシメシカ爲メ偽證者ニ早ク自首スルコトヲ獎勵スルナリ

〔二百二十七以下〕度量衡ハ人生ノ需用ニ缺ク可カラサル諸般ノ物品ノ流通ニ必要ナル器械ナルカ故ニ若シ其制法ノ一定セサルニ於テハ商業ノ害之ヨリ甚シキハ莫シ我政府茲ニ見アリ既ニ其規則ヲ定メ官許ノ製造所販賣所ノ外之ヲ製造シ之ヲ販賣スルコトヲ得スト定メ猶ホ之ニ官印ヲ附スルコトセリ然ルニ若シ其規則ニ背キ之ヲ偽造變造シテ販賣シ又ハ單ニ偽造變造ノ度量衡ヲ販賣スル者アルニ於テハ其害延テ商業ニ及ブチ以テ立法官ハ乃チ重ク

テ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

第七節 度量衡ヲ偽造スル罪

第二百二十七條 度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シテ販賣シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ盜用シタル時ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス 一九四以下

第二百二十八條 偽造變造ノ情ヲ知テ其度量衡ヲ販賣シタル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ減ス 一〇九

第二百二十九條 商賈農工定規ヲ増減シタル

之ヲ罰スルトモシ
度量衡ヲ偽造變造シテ所
有シタル者ハ如何口ク若
シ其商工若クハ農ナル時
ハ二百二十九條ヲ以テ論
スベク平人ナル時ハ唯タ
之ヲ沒收スルニ止マル

度量衡ヲ所有シタル者ハ一月以上三月以下
ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金
ヲ附加ス

若シ其度量衡ヲ使用シテ利ヲ得タル者ハ詐
欺取財ヲ以テ論ス 三九〇以下

第二百三十條 人ノ囑託ヲ受ケテ度量衡ヲ偽
造シ又ハ變造シタル者ハ其囑託シタル犯人
ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス 一〇九

第八節 身分ヲ詐稱スル罪

第二百三十一條 官署ニ對シ文書又ハ言語ヲ
以テ其屬籍身分氏名年齢職業ヲ詐稱シタル
者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

〔二百三十一〕本條ノ定メ
ル罪ハ惡意ノ有無ニ關セ
ズシテ成立ス可キモノト
ス故ニ官署ヨリ訊問ヲ受
クルニ際シ己ノ姓名ヲ

述フルヲ厭ヒ因テ之ヲ詐
稱シタル者モ亦本條ヲ以
テ論ス可キモノトス
〔二百三十二〕本條ノ罪モ
亦惡意ノ有無ニ關セサル
モノトス

〔二百三十二以下〕暴行脅
迫偽計等ヲ以テ公選ノ投
票ヲ偽造セシメ又ハ其數
ヲ増減セシメタル者并ニ
投票ヲ驗査シ及ヒ其數ヲ
計算スル人ニ同上ノ方法
ヲ以テ其投票ヲ偽造セシ
メ又ハ増減セシメタル者
或ハ投票ノ結局ヲ報告ス
ル人ニ同上ノ方法ヲ以テ
其數ヲ増減セシメタル者
ハ自ラ投票ヲ偽造シ又ハ

第二百三十二條 官職位階ヲ詐稱シ又ハ官ノ
服飾徽章若クハ内外國ノ勳章ヲ借用シタル
者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二
圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪

第二百三十三條 公選ノ投票ヲ偽造シ又ハ其
數ヲ増減シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕
禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附
加ス

第二百三十四條 賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメ
又ハ賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲シタル者ハ二月
以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十

其數ヲ増減シタル者ト同
シク論スルヲ得可シト
雖モ暴行脅迫偽計等ヲ以
テ他人又ハ己レノ爲メニ
投票ヲ爲サシメタル者ニ
至テハ本條以下ニ明文ナ
キヲ以テ之ヲ論スルコト
得ス是レ法律ノ缺典ナル
可シ但シ其用ヒシ方法ノ
法律ニ觸ル、者タルニ於
テハ乃チ之ヲ論スルヲ得
可キコト勿論ナリトス

〔二百三十七以下〕阿片烟

圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第二百三十五條 投票ヲ檢査シ及ヒ其數ヲ計
算スル者其投票ヲ偽造シ又ハ増減シタル時
ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ四圓以
上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第二百三十六條 調書ヲ造リ投票ノ結局ヲ報
告スル者其數ヲ増減シ其他詐偽ノ所爲アル
時ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓
以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第五章 健康ヲ害スル罪
第一節 阿片烟ニ關スル罪
第二百三十七條 阿片烟ヲ輸入シ及ヒ製造シ

チ吸食スルノ健康ニ害ア
ルコト世人ノ能ク知ル所ナ
リ因テ法律ハ之ヲ間接又
ハ直接ニ吸食スルヲ容易
ナラシメタル者及ヒ自ラ
之ヲ吸食シタル者ヲ重ク
罰スルコト定メ以テ之ヲ
吸食スル風習ノ傳播スル
ニ至ラントシテ防シナリ是
レ喋々ヲ要セサル所トス
〔二百二十九〕税關官吏ハ
不正ノ物品ノ輸入ヲ防止
ス可キノ職務アルヲ以テ
乃チ常人ノ刑ニ照シテ一
等ヲ加ウルナリ
本條ニハ輸入セシメタル
者トアリ然レモ自ラ輸入
セシメストモ止テ他人ノ
輸入スルヲ暗ニ許シタル
ノミニテ其罪ハ自ラ成立
スルニ至ル可シ

又ハ之ヲ販賣シタル者ハ有期徒刑ニ處ス
第二百三十八條 阿片烟ヲ吸食スルノ器具ヲ
輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル者ハ
輕懲役ニ處ス
第二百三十九條 税關官吏情ヲ知テ阿片烟及
ヒ其器具ヲ輸入セシメタル者ハ前二條ノ刑
ニ照シ各一等ヲ加フ
第二百四十條 阿片烟ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ
給與シテ利ヲ圖ル者ハ輕懲役ニ處ス
人ヲ引誘シテ阿片烟ヲ吸食セシメタル者亦
同シ
第二百四十一條 阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二

〔二百四十二〕本條ニ據レバ阿片烟及ヒ其吸食ノ器具ハ法律ニテ禁制シタル物件ニテ即チ應禁物ナリ

〔二百四十三〕本條ノ罪ハ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢スルコト之ヲ用ユルコト能ハサルニ至シメタルコトノ二箇ノ事實ヨリ成立スル者ナリ是ヲ以テ井戸ノ水又ハ家屋ニ灌道スル水ノ中ニ僅々瓦礫又ハ土塊ヲ投ケ込ミ又ハ飲水ヲ汲ミ取ル川流ノ土手ノ一小部ヲ損壞スルカ如キハ他ノ法律規則ヲ以テ處分スルノミニテ本條ニテ論ス

年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二百四十二條 阿片烟及ヒ吸食ノ器具ヲ所有シ又ハ受寄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二節 飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪

第二百四十三條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十四條 人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ用ヒテ水質ヲ變シ又ハ腐敗セシメタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上

ルノ限ニ非ス何トナレハ其所爲ハ止テ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢スルノミニテ未タ之ヲ用ユルコト能ハサルニ至ラシメサルハナリ
飲料ニ供スル淨水ヲ用ユルコト能ハサルニ至ラシメタルトハ本條ニ於テハ其淨水ノ甚タシク汚穢シテ少クトモ數時間乃至數日間飲料ト爲スチ得サルチ云フナリ豈ニ僅々ノ時間之ヲ用ユルチ得サルノ謂ナランヤ總亦之ヲ用ユルチ得サルニ至ラシメタルヤ否ヤハ事實上ノ問題ニテ裁判官ノ斟酌スル所トス

三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十五條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ殴打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス 二九九以下、

第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪

第二百四十六條 傳染病豫防ノ爲メ設ケタル規則ニ違背シテ入港ノ船舶ヨリ上陸シ又ハ物品ヲ陸地ニ運搬シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス 四二六ノ四、

第二百四十七條 船長自ラ前條ノ罪ヲ犯シ又ハ人ノ犯スコトヲ知テ制セサル者ハ前條ノ刑

ト云フノミニテ其文詞ハ如何ナル場所ノ水ヲ指スヤ詳ナラサルカ如シ然レ本章ノ題目ニ一般ノ健康ヲ害スル罪トアレハ其謂フ所ハ衆人ノ飲料ト爲ス水ナルヲ決シテ疑テ容ルハ要セズ

〔二百四十六〕傳染病トハ虎列刺病天然痘ノ類ナリ是レ諸人ノ能ク知ル所トス

預防ノ爲メ設ケタル規則トハ虎列刺預防規則檢疫停船規則ノ類ナリ

〔二百四十七〕船長ハ船内ニテ諸般ノ取締ヲ爲ス職務ヲ有スル者ナルヲ以テ乃チ本條ハ斯ク嚴ニ之ヲ待ツナリ

船長ハ人ノ犯則スルヲ知テ之ヲ制止サルモ其人ノ

ニ一等ヲ加フ

第二百四十八條 傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ流行地方ヨリ他所ニ出タル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス 四二六ノ四

第二百四十九條 獸類ノ傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ獸類ヲ他所ニ出シタル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四節 危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造ノ規則ニ關スル罪

第二百五十條 官許ヲ得スシテ危害ヲ生ス可

己レノ船ニ關係ナキ者タルニ於テハ固ヨリ罪ナシ

〔二百五十〕危害品トハ燃質物破裂物コソテ火藥石油雷管硝石瓦斯等ナリ又健康ヲ害ス可キ物品トハ臭氣又ハ毒氣ヲ發スル者ニテ例ハ獸皮獸骨劇藥毒藥等ナリ此等ノ物件製造ノ事ニ付テハ行政官ヨリ布達セテ夫々ノ規則アリテ皆官許ヲ要セリ然ルニ官許ヲ得スシテ其製造所ヲ立ツル者アルニ於テハ官之ヲ監督シテ公衆ノ害ヲ預防スル能ハス是レ本條アル所以ナリ

キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス 四二五ノ三

若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十一條 官許ヲ得テ前條ニ記載シタル製造所ヲ創設スト雖モ危害ヲ豫防シ健康ヲ保護スル規則ニ違背シタル者ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

第二百五十二條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス 二九九以下

第五節 健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥

〔二百五十二〕人ノ健康ニ害アル物品ヲ飲食物ニ混和シテ販賣スルトモ其物品ノ健康ニ害アルヲ知ラザリシ時ハ罪ト爲ル可キ事實ヲ知ラスシテ犯シタリト云フヲ以テ乃チ其罪ヲ論セラルルコトナシ飲食物ニ混和セシ物品アル者タルヤ否ヤノ疑ハシキ時ハ醫士ノ鑑定ヲ待テ之ヲ決シ然ル後處分ヲ爲スヲ要トス
無害ノ物品ヲ飲食物ニ混和シテ販賣シタリト雖モ其飲食物ノ自然有害物ト成テ買主ノ手ニ渡リシ時ハ如何曰ク若シ犯人ノ之カ有害品ニ變ス可キ所以

劑ヲ販賣スル罪

第二百五十三條 人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ飲食物ニ混和シテ販賣シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス 四二六ノ三

第二百五十四條 規則ニ違背シテ毒藥劇藥ヲ販賣シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス 二九九以下、

第六節 私ニ醫業ヲ爲ス罪

第二百五十六條 官許ヲ得スシテ醫業ヲ爲シ

ヲ知り居リシニ於テハ其他入ヲ疾苦セシメタル時ニ限リ三百七條ヲ以テ論スルヲ得可ク然レモ其決シテ本條ニ觸ル、コトナカル可シトス

〔二百五十八以下〕公然トハ強ク衆人ノ面前ニ於テノコトニ非ス衆人ノ眼目ニ觸ル、所ニ於テノコトヲモ併セ云フナリ
猥褻ノ所爲トハ男女相抱容シテ密事ヲ行フノ類ヲ云フ
風俗ヲ害スル冊子圖書トハ情書春畫ノ如シ又其他猥褻ノ物品トハ陰莖ノ刑ヲ爲シタル玩物ノ如シ
〔二百六十〕本條ノ罪ハ公ケニ賭場ヲ開キ誰彼ノ別

タル者八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十七條 前條ノ犯人治療ノ方法ヲ誤リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス 三一七以下

第六章 風俗ヲ害スル罪

第二百五十八條 公然猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス 三四六以下

第二百五十九條 風俗ヲ害スル冊子圖書其他猥褻ノ物品ヲ公然陳列シ又ハ販賣シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百六十條 賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招結シタル者ハ三月以上一年以上以下ノ

ナク其中ニ入テ賭博ヲ爲
 ステ許シ以テ利ヲ圖ル罪
 ト公衆ヲ入レスト雖此種
 ヲノ手續ヲ以テ博徒ノ多
 人數ヲ招結シタル罪トノ
 二者ナリ
 此二箇ノ罪ハ未タ利ヲ得
 ス又ハ未タ賭博ヲ爲サス
 ト雖此既ニ利ヲ圖リ又ハ
 博徒ヲ招結シタルノミコ
 テ自ラ成立ス可キモノト
 ス
 (二百六十一) 現ニ博奕ヲ
 爲シタル者ノ外本條ニテ
 論スルコトヲ得ズ是レ博奕
 ハハノ精心中ニテ爲スヲ
 得可キ者ナルヲ以テ其現
 行ノ時ニ非ズンハ其證據
 ヲ得ルコト極メテ難ク又強
 テ之ヲ得ントスルハ途ニ
 弊害ノ其間ニ生スルアラ
 ソコヲ畏ルレハナリ

重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附
 加ス

第二百六十一條 財物ヲ賭シテ現ニ博奕ヲ爲
 シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ
 處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其
 情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者亦同シ但飲食
 物ヲ賭スル者ハ此限ニ住ラヌ
 賭博ノ器具財物其現場ニ在ル者ハ之ヲ沒收
 ス

第二百六十二條 財物ヲ醜集シ富籤ヲ以テ利
 益ヲ僥倖スルノ業ヲ興行シタル者ハ一月以
 上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓

以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十三條 神祠佛堂墓所其他禮拜所ニ
 對シ公然不敬ノ所爲アル者ハ二圓以上二十
 圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ說教又ハ禮拜ヲ妨害シタル者ハ四圓以
 上四十圓以下ノ罰金ニ處ス 四二六ノ一〇及ヒ二

第七章 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘
 スル罪

第二百六十四條 埋葬ス可キ死屍ヲ毀棄シタ
 ル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二
 圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス 四二六ノ九

〇、四二
 五、三二

博奕スル所ヲ現ニ發見セ
 テレ一旦其場ヲ逃走スル
 モ其時ヨリ程ヲ經テシテ
 拘留セラレシ者ハ本條ヲ
 以テ論スルモノトス
 (二百六十三) 神祠佛堂等
 ニ對シ公然不敬ノ所爲ヲ
 爲シ又ハ說教禮拜ヲ妨害
 スル者ハ一ハ以テ人民ノ
 尊敬ス可キ神佛ヲ重スル
 ノ風俗ヲ害シ一ハ以テ信
 仰者諸人ノ心ヲ痛マシム
 ル者ナルカ故ニ本條ニテ
 乃チ之ヲ罰スルナリ
 (二百六十四) 死シテ生レ
 タル小兒ノ死屍ヲ毀棄シ
 タル者モ亦本條ヲ以テ論
 スルモノトス
 毀棄スルト假埋ニスル
 ハ須ク相混視セサルヲ要
 ドス毀棄スルトハ田野廣

原又ハ其他ニ捨ツルノ謂
ナレハ其事ヤ必ス行フ可
キノ手續ヲ行ハサルヲ暗
ニ示スモノナリ假埋ニス
ルトハ必スシモ行フ可キ
ノ手續ヲ行ハサルヲト爲
スヲ得サルヘシ
〔二百六十五〕墳墓トハ必
スシモ埋葬地ノ墳墓ノミ
ニ非ス假埋シタル所ヲモ
併セ云フコト知ル可シ蓋
シ法律ノ精心ノ然ラシム
ル所ナリ

第二百六十五條 墳墓ヲ發掘シテ棺槨又ハ死
屍ヲ見ハシタル者ハ二月以上二年以下ノ重
禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附
加ス
因テ死屍ヲ毀棄シタル者ハ三月以上三年以
下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰
金ヲ附加ス

第二百六十六條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯サ
ントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ
照シテ處斷ス 三三三
第八章 商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル
罪

〔二百六十七以下〕本節ニ
アル偽計トハ新聞紙上ニ
虚偽ノ事ヲ記載セシメ又
ハ商人雇主職工等ヲ欺キ
若クハ教唆シ又ハ此等ノ
者ヲ離乖シテ其間ニ紛議
ヲ生スルニ至ラシムルノ
類ナリ
又威力トハ暴行脅迫ヲ行
ヒ又ハ徒黨ヲ結ビ又ハ惡
意ヲ以テ擅ニ金力ヲ用ユ
ルノ類ナリ
本條以下ノ罪ハ農工商ノ
業ヲ妨害スルトモ偽計又
ハ威力ヲ以テセサル以上
ハ其成立スルコトナカル同
キニ因リ之ヲ定ムルニ當
テ困難ナルハ單ニ其方法
カ偽計又ハ威力ナルヤ否
ヤヲ決スルニ在ルノミ
凡シ商品ノ代價及ヒ雇賃
ノ如キハ世上一般ノ景況

第二百六十七條 偽計又ハ威力ヲ以テ穀類其
他衆人ノ需用ニ缺ク可カラサル食用物ノ賣
買ヲ妨害シタル者ハ一月以上六月以下ノ重
禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附
加ス
前項ニ記載シタル以外ノ物品ノ賣買ヲ妨害
シタル者ハ一等ヲ減ス
第二百六十八條 偽計又ハ威力ヲ以テ糶賣又
ハ入札ヲ妨害シタル者ハ十五日以上三月以
下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰
金ヲ附加ス

第二百六十九條 偽計又ハ威力ヲ以テ農工ノ

ト衆人ノ競争トニ因テ自然ニ定マル者ナレバ人々其定マル所ニ任シテ農工商ノ業ヲ勵ムテ法トス然ルニ之ヲ變センカ爲メ強テ不正ノ方法ヲ用ユル時ハ是レ偽計ニ因ルニ非スンハ必ス威力ヲ用ユルコトナラス故ニ威力及ヒ偽計ハ自然ノ景況及ヒ競争ヲ害スル所ノ不正ノ所爲ナリト解スルモ可ナリ雇人トハ少クトモ一ヶ月以上雇使セラル、者ニ限ル用シ依テ其他ノ雇人ハ二百七十條ニテ論セスシテ通常人ト一般ニ論スルヲ要トス

業ヲ妨害シタル者ハ亦前條ニ同シ

第二百七十條 農工ノ雇人其雇賃ヲ増サシメ

又ハ農工業ノ景況ヲ變セシムル爲メ雇人及

ヒ他ノ雇人ニ對シ偽計威力ヲ以テ妨害ヲ爲

シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處

シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十一條 雇主其雇賃ヲ減シ又ハ農工

業ノ景況ヲ變スル爲メ雇人及ヒ他ノ雇主ニ

對シ偽計威力ヲ以テ妨害ヲ爲シタル者ハ亦

前條ニ同シ

第二百七十二條 虛偽ノ風説ヲ流布シテ穀類

其他衆人需用物品ノ價直ヲ昂低セシメタル

〔九章〕瀆職ノ罪トハ職務上ノ事ニ關シテ行フノ罪ナリ

〔二百七十四〕本條ハ懈怠與法及ヒ其他正當ノ理由ナシシテ此處分ヲ爲サ、ル者ヲ罰スルナキ若シ騷擾暴亂ヲ容易ナラシメシカ爲メ又ハ之ヲ助成センカ爲メ故サテニ此處分ヲ

者八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九章 官吏瀆職ノ罪

第一節 官吏公益ヲ害スル罪

第二百七十三條 官吏其管掌ニ係ル法律規則

ヲ公布施行セス又ハ他ノ官吏ノ公布施行ヲ

妨害シタル者ハ二月以上六月以下ノ輕禁錮

ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

一三九

第二百七十四條 兵隊ヲ要求シ及ヒ之ヲ使用

スル權アル官吏地方ノ騷擾其他兵權ヲ以テ

鎮撫ス可キ時ニ當リ其處分ヲ爲サ、ル者ハ

三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以

爲サ、ル者タルニ於テハ其罪ノ性情ニ從テ國事犯罪人又ハ其他ノ犯罪人トシ重ニ從テ論セサルヲ得ス

〔二百七十五〕商業トハ機ニ投シ廣ク物件ヲ流通轉移スルノ目的ヲ抱キ自ラ間接又ハ直接ニ媒介人ト爲テ賣買交換貸貸等ノ契約等ヲ爲シ其契約ニ付テ利ヲ得ル所ノ所爲ヲ云フ故ニ更ニ賣テシカ爲メ物件ヲ買取り又ハ專テ利ヲ得シカ爲メ其目的ノミヨテ物件ヲ貸貸シ又ハ二人ノ間ニ介立シ利ヲ得シカ爲メ賣物ヲ周旋シ又ハ利ヲ得シカ爲メ產物ヲ製造スル等ハ皆商業ナリトス然レモ所有ノ土地家作ヲ

上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス 一七七

第二百七十五條 官吏規則ニ違背シテ商業ヲ爲シタル者ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二節 官吏人民ニ對スル罪

第二百七十六條 官吏擅ニ威權ヲ用ヒ人ヲシテ其權利ナキ事ヲ行ハシメ又ハ其爲ス可キ權利ヲ妨害シタル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十七條 人ノ身体財産ヲ妨害スルヲ犯人アルニ當リ豫審判事檢事警察官吏其報

賃貸シ土地ニ産スル穀類野菜桑茶等ヲ賣却シ又ハ所有ノ金高ヲ貸渡シテ利足ヲ得ル等ハ皆商業ニ非サルナリ

〔二百七十六〕權利ナキ事ヲ行ハシムルトハ官命ヲ受ケサル者ニ度量衡ヲ製造スルヲ得セシメ又ハ免許ヲ得サル者ニ其免許ノ事ヲ行ハシムルノ類ナリ

〔二百七十八〕逮捕官吏トハ預審判事檢事警察官吏ヲ云フ程式規則ハ治罪法ニ詳ナリ例ハ檢事警察官ハ勾引狀ヲ發スルヲ得ス又預審判事ト雖モ若干ノ場合ノ外直ニ勾引狀ヲ發スルヲ得ス又巡查警部ノ如キハ如何ナル場合ト雖モ勾引狀ヲ帶スル

告ヲ受ケテ速ニ保護ノ處分ヲ爲サ、ル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十八條 逮捕官吏法律ニ定メタル程式規則ヲ遵守セシメテ人ヲ逮捕シ又ハ不正ニ人ヲ監禁シタル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但監禁日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ 三三二以下、

第二百七十九條 司獄官吏程式規則ヲ遵守セシメテ囚人ヲ監禁シ若クハ囚人ヲ出獄セシム可キノ時ニ至リ之ヲ放免セサル者ハ亦前

時ノ外決シテ人ヲ逮捕スルコト得スト云ヘルモノ即チ是ナリ
〔二百七十九〕茲ニ云フ程式規則ハ獄則ニ詳ナリ
司獄官吏トハ獄司獄吏獄卒等ヲ總稱ス

條ノ例ニ同シ 二二二以下

第二百八十條 前二條ニ記載シタル官吏又ハ護送者囚人ニ對シ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ囚人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス
二九九以下

第二百八十一條 水火震災ノ際官吏囚人ノ監禁ヲ解クコトヲ怠リ因テ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加フ
二九九 三二五

第二百八十二條 裁判官檢事及ヒ警察官吏被告入ニ對シ罪狀ヲ陳述セシムル爲メ暴行ヲ加ヘ又ハ凌虐ノ所爲アル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ被告人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス
二九九以下

第二百八十三條 裁判官檢察官故ナクシテ刑事ノ訴ヲ受理セス又ハ遷延シテ審理セサル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

〔二百八十二〕故ナクシテ刑事ノ訴ヲ受理セストハ法律規則ニ照シテ之ヲ受理ス可キヲ知ルト雖モ故ラニ之ヲ受理セサルコトヲ例ヘハ管轄違ニモ非ス又方式ニ違フコトモ非サル

「予知リナカラ強テ之ヲ受理セラルコトノ如シ故ニ之ヲ受理ス可キノ道理ノルニ其道理アルヲ悟ラスノ之ヲ受理セラル時ハ一モ罪ノ論ス可キモノナシ又遷延シテ審理セスト云フ」モ畢竟怠慢不能等ニテ聽訟ノ手續ヲ爲サ、ルヲ云フ因テ若シ事務繁劇ナルカ又ハ他ノ正當ノ理アリテ遷延スル者ハ本條ヲ以テ論スルノ限ニ非ス檢察官刑事ノ訴ヲ受理セスト云フ事奇怪ナルカ如シ然レハ法律ノ意ハ刑事ノ訴ヲ視テ告訴發シモ拘台スルモノト爲スニ在ル可シ

其民事ノ訴ニ係ル者亦同シ

第二百八十四條 官吏人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ不正ノ處分ヲ爲シタル時ハ一等ヲ加フ
第二百八十五條 裁判官民事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ不正ノ裁判ヲ爲シタル時ハ一等ヲ加フ
第二百八十六條 裁判官檢察官官吏刑事ノ

裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
因テ被告人ヲ曲庇シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
其被告人ヲ陷害シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
若シ枉斷シタル所ノ刑此刑ヨリ重キ時ハ第二百二十一條第二百二十二條ノ例ニ照シテ反坐ス

第二百八十七條 裁判官檢察官官吏賄賂ヲ

收受聽許セスト雖正情ニ徇カヒ又ハ怨ヲ挾

サミ被告人ヲ曲庇陷害シタル者ハ亦前條ノ

例ニ同シ

第二百八十八條 前數條ニ記載シタル賄賂已

ニ收受シタル者ハ之ヲ沒收シ費用シタル者

ハ其價ヲ追徵ス

第三節 官吏財産ニ對スル罪

第二百八十九條 官吏自ラ監守スル所ノ金穀

物件ヲ竊取シタル者ハ輕懲役ニ處ス_{三六六以下}

因テ官ノ文書簿冊ヲ増減變換シ又ハ毀棄シ

タル時ハ第二百五條ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百九十條 租稅其他諸般ノ入額ヲ徵收ス

ル官吏正數外ノ金穀ヲ徵收シタル者ハ二月

以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十

圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百九十一條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ

輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ

監視ニ付ス

〔二百九十二以下〕謀殺ノ罪ハ左ノ件々ヨリ成立ス
 第一人ヲ殺スノ所爲ヲ行フ
 一凡ソ生ヲ奪フノ所爲ハ其性質ノ如何ニ論ナク總テ人ヲ殺スノ所爲ナリト考フ可シ即チ熱湯ヲ注キ首ヲ絞リ又ハ食ヲ絶タシムル等皆是ナリ但シ其所爲ハ直接ニ死ヲ與フルノ性質アルヲ要トス故ニ心ヲ困苦セシムルノ所爲ハ如何ニ猛烈ナリト雖モ其直接ニ死ヲ與ヘサル以上ハ之ヲ人ヲ殺スノ所爲ナリト考フルヲ得ス

第三編 身體財産ニ對スル重罪輕罪

第一章 身體ニ對スル罪

第一節 謀殺故殺ノ罪

第二百九十二條 豫メ謀テ人ヲ殺シタル者ハ

謀殺ノ罪ト爲シ死刑ニ處ス 三〇二二三〇九、三一七三二〇以下、

第二百九十三條 毒物ヲ施用シテ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ヲ以テ論シ死刑ニ處ス 三〇七、

第二百九十四條 故意ヲ以テ人ヲ殺シタル者ハ故殺ノ罪ト爲シ無期徒刑ニ處ス 三〇二、三〇七、三二〇以下、三二二、三二八、

第二百九十五條 支解折割其他慘刻ノ所爲ヲ以テ人ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

第二其所爲ノ惡心ニ出ツルヲ故ニ官吏ノ刑法ニ從テ人ヲ殺スカ如キ身體防衛ノ爲メ人ヲ殺スカ如キ兵士ノ戰時ニ在テ人ヲ殺スカ如キ又懈怠ニ因テ誤リ人ヲ殺スカ如キハ皆二百九十二條ノ論スル所ニ非ス

第三預メ謀ルヲ預メ謀ルトハ人ヲ殺ス前ニ其人ヲ目的トシテ之ヲ殺サンカ爲メ種々ノ用意ヲ爲スナク若シ其用意ヲ爲スナク忽然怒ヲ發シテ人ヲ殺スカ如キハ是レ唯殺殺ノ罪ニテ其刑ハ無期徒刑ニ止マル

第二百九十六條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免カル、爲メ人ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百九十七條 人ヲ殺スノ意ニ出テ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ死ニ致シタル者ハ故殺ヲ以テ論シ其豫メ謀ル者ハ謀殺ヲ以テ論ス

第二百九十八條 謀殺故殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺シタル者ハ仍ホ謀故殺ヲ以テ論ス

右ノ三件相合シテ謀殺ノ罪始メテ成ル人ヲ殺サンカ爲メ豫メ謀テ之ヲ毆打シタルモ意外ノ障礙ニ因リ之ヲ死ニ致スヲ得スシテ止タ之ヲ創傷シタル者ハ謀殺ノ未遂犯罪トシテ論シ毆打創傷トシテ論セサルヲ要トス

其故殺ノ目的ニ於テシタル時モ亦故殺ノ未遂犯罪トシテ論スルヲ要トス(二百九十九條見合)

毒物ニ非サニ飲食物ヲ毒物ナリト思惟シ之ヲ施用シテ人ニ飲食セシメタル者ハ道德上ノ罪アリト雖モ人ヲ殺スノ性質アル所爲ヲ行ハサルト云フヲ以テ二百九十三條ノ刑ヲ受クルトナシ

但シ人ヲ殺サンカ爲メ毒物ヲ施用シタモ其人他ノ藥劑ヲ服シ居リシコ因テ之ヲ死ニ致スヲ能ハサリシ者又ハ止タ之ヲ疾苦セシメタル者ハ毒殺ノ罪ノ未遂犯罪トシテ論セサルヲ得ストス(二百七條見合)

我刑法ハ本節ニ於テ第一ニ謀殺ノ事ヲ掲ケ第二ニ故殺ノ事ヲ記シ以テ此二者ヲ始終併セ論スレハ本來謀殺ハ故殺ノ一種ニシテ單ニ謀ルト云フ一事ノ之ニ加ハルアルノミ故ニ讀者ハ故殺ヲ基礎トシ他ノ本節ニ記スル罪ハ皆其模倣ノ異ナルモノト考フヘシ此ノ如クスル時ハ法律ノ精心自ラ明瞭ニシテ實際ニ適用スルニ大ニ便利ナルヘシ請フ左ニ其說ヲ述ヘン先ツ第一ニ故殺ノ罪ニ關シテ(前文ニ詳ナリ)是レ此故殺ノ罪ハ無期徒刑ヲ以テ論ス可キモノナレモ若シ左ノ事由ノ加ハルヲアルニ於テハ其罪重ク從テ死刑ヲ以テ論ス可キモノト爲ルナリ其件々トハ第一預メ謀ル(二百九十二條)第二毒物ヲ施用スル(二百九十三條)第三支解折割其他慘刻ノ方法ヲ用ニル(二百九十五條)第三重罪輕罪ヲ犯シ又ハ免カル、ヲ謀ル(二百九十六條)等是レナリ又故殺ノ罪ハ殺シタル人ノ身分ニ因テ重クナルヲアリ此事ニ付テハ二百十六條以下及ヒ三百六十二條ヲ見ヨ

第三節 毆打創傷ノ罪

〔二百九十九以下〕殴打創傷ノ罪ハ左ノ三件相合セテ成立ス

第一人ヲ殴打創傷スルコト
 我刑法ハ殴打創傷ノ如何ナル所爲ナルヤヲ確言セズト雖モ其精心中其文面トヲ探求スルハ殴打ハ暴行ヲ加フルコト創傷ハ破壊スルコトニテ要スルコトハノ
 身體ニ對シテ暴行ヲ行ヒ其一部分ヲ毀損スルノ謂ナル可シ蓋シ殴打ノ語ハウツノ義ナリトモ立法者ハ此處ニ於テハ其義ヲ擴張シ總テ身體ニ暴行ヲ加ウルノ意即チ身體ニ物ヲ觸ルノ意ニ之ヲ用ヒシナリ故チ以テ人ヲ地上ニ投テ倒シ其手ヲ扭ジリ其髮ヲ拔キ又ハ瓦礫ヲ投ケ當ツル等ノ事ヲ爲シ以テ其

第二百九十九條 人ヲ殴打創傷シ因テ死ニ致シタル者ハ重懲役ニ處ス 四二五ノ九

第三百條 人ヲ殴打創傷シ其兩目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ又ハ兩肢ヲ折リ及ヒ舌ヲ斷チ陰陽ヲ毀敗シ若クハ知覺精神ヲ喪失セシメ篤疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ又ハ一肢ヲ折リ其他身體ヲ殘廢シ癱疾ニ致シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百一條 人ヲ殴打創傷シ二十日以上ノ時間疾病ニ罹リ又ハ職業ヲ營ムコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

身體ヲ毀損シタルカ如キモ又之ヲ殴打創傷ノ罪ト爲シタルヲ得ズ

若シ殴打シタルノミコト未タ人ヲ創傷スルニ至ラサル時ハ其所爲ハ止テ違警罪タルニ過キス

第二人ヲ害スルノ意アルコト若シ殴打スルノ意アルモ害ヲ加フルノ意ナキ時ハ假令ヒ創傷スルモ是レ過失傷ノ罪ナリ(三百十七條)例ハ戲ニ殴打シタル時ノ如シ又創傷スルノ意アルモ害ヲ加フルノ意ナキ時例ハ醫士カ患者ノ手足ヲ切斷スル時ノ如キ其所爲ハ固ヨリ殴打創傷ノ罪ニ非サルヘキナリ

殴打創傷ノ罪ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處ス可キモノナレトモ(二百一條ノ三項)左ノ事由ノ加ワルコトアルニ於テハ其罪ハ法律上ニテ更ニ重キ刑ヲ科セラル可シ其事由ハ

錮ニ處ス

其疾病休業ノ時間二十日ニ至ラサル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

疾病休業ニ至ラスト雖モ身體ニ創傷ヲ成シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處ス

第一死ニ致シタルコト(二百九拾九條)此事ヤ殴打創傷ノ原因タルヲ要スルノミナレハ殴打創傷ノ時ヨリ數日間ヲ經テ定マルモ犯人ハ重懲刑ヲ受ク可キナリ故ニ犯人ニ此刑ヲ科スルコトハ數日間ヲ待タサル可テサルコトアリ但シ殴打創傷セラレシ者永テクノ間疾病ニ罹ル可キ時ノ如キハ其死スルヤ否ヤヲ待タスニテ直ニ三百條以下ヲ適用スルコト知

ル可シ
 第二身体ノ一部分ヲ殘廢
 シテ癱疾ニ致シタルコト又
 ハ知覺精細ヲ喪失セシメ
 篤疾ニ致シタルコト(二百
 條)
 第三疾病休業ニ至ラシメ
 タルコト(二百一條)
 第四預メ謀ルコト(二百二
 條)第五重罪輕罪ヲ犯シ
 又ハ免カルコトヲ謀ルコト(三
 百四條)
 右ノ外尙毆打創傷ノ罪ノ
 重クナル可キ事由アリ此
 事ニ付テハ二百十六條以
 下三百三條及ヒ三百六十
 二條ヲ見ヨ
 (二百五)本條ノ規則ハ審
 判上ニ困難ナカラシメン
 カ爲メナリ

第三百二條 豫メ謀テ人ヲ毆打創傷シ休業癱
 篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ前數條ニ記載シ
 タル刑ニ照シ各一等ヲ加フ(二九二、
 三五〇)
 第三百三條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ
 又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免カル、爲メ人ヲ毆
 打創傷シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ(二九六、
 三〇六)
 第三百四條 毆打ニ因リ誤テ他人ヲ創傷シタ
 ル者ハ仍ホ毆打創傷ノ本刑ヲ科ス(二九八、
 三〇六)
 第三百五條 二人以上共ニ人ヲ毆打創傷シタ
 ル者ハ現ニ手ヲ下シ傷ヲ成スノ輕重ニ從テ
 各自ニ其刑ヲ科ス若シ共毆シテ傷ヲ成スノ
 輕重ヲ知ルコト能ハサル時ハ其重傷ノ刑ニ照

(二百七)毒質ノ物品ヲ施
 用シテ人ヲ疾苦セシメタ
 ル者ハ豫メ其毒質ノ者ヲ
 ルコトヲ知テ之ヲ施用シタ
 ルニ因リ即チ豫メ謀テ之
 ヲ毆打創傷スルニ等シ依
 テ本條ハ其例ニ照シテ之
 ヲ罰スルナリ
 若シ其毒質タルコトヲ知ラ
 スノ之ヲ施用シタルニ於
 テ是レ過失傷ノ罪ナリ

シ一等ヲ減ス但教唆者ハ減等ノ限ニ在ラス
 一〇七、
 一〇八、
 第三百六條 二人以上共ニ人ヲ毆打スルニ當
 リ自ラ人ヲ傷ゼスト雖モ幫助シテ傷ヲ成サ
 シメタル者ハ現ニ傷ヲ成シタル者ノ刑ニ一
 等ヲ減ス(一〇九、
 一〇九、
 第三百七條 健康ヲ害ス可キ物品ヲ施用シテ
 人ヲ疾苦セシメタル者ハ豫メ謀テ毆打創傷
 スルノ例ニ照シテ處斷ス(二九二、
 三〇二、
 第三百八條 人ヲ殺スノ意ニ非スト雖モ詐稱
 誘導シテ危害ニ陷レ因テ疾病死傷ニ致シタ
 ル者ハ毆打創傷ヲ以テ論ス(二九七、

殺傷ノ罪ヲ宥恕ス可キ原因ニ箇アリ又之ヲ論ス可カラサル原因一アリ之ヲ宥恕ス可キ原因ハ第一發怒シタルヲ(三百九條)リ(三百一十一條)第二防衛ノ權ヲ濫用シタルヲ(三百十二條)第三(三百十六條)是ナリ又之ヲ論ス可カラサル原因ハ防衛ノ權ヲ正當ニ行ヒシヨリ是ナリ(三百十四條)三百十五條)

〔二百九以下〕發怒ノ原因トシテ殺傷ノ罪ヲ宥恕スルニハ其犯人自己ノ身體ニ暴行ヲ受ケ又ハ姦所ニ於テ妻ノ姦通ヲ覺知シ直ニ怒ヲ發シテ其罪ヲ行ヒシ時ニ限ル可ク何トナレハ此時ニ於テハ犯人ハ怒ヲ抑ヘントスルモ勢自ラ制スルヲ能ハサルニ因リ

第三節 殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪

第三百九條 自己ノ身體ニ暴行ヲ受ルニ因リ

直チニ怒ヲ發シ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラス

第三百十條 毆打シテ互ニ創傷シ其手ヲ下スノ先後ヲ知ルヲ能ハサル者ハ各其罪ヲ宥恕スルヲ得

第三百十一條 本夫其妻ノ姦通ヲ覺知シ姦所ニ於テ直チニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ此限ニ在ラス

其罪ヲ犯スルアルモ固ヨリ深ク咎ム可キニ非サレハ若シ怒ヲ發シテ更ニ其罪ヲ犯スガ如キハ是レ之ヲ犯サントスルニ意充分決シタルニ出ツル者ニテ敢テ勢ノ制シ難キニ出スニ非サレハ法律ハ決シテ之ヲ宥恕スルヲ爲サレナリ又自ラ暴行ヲ招キタル時又ハ先ニ姦通ヲ縱容シタル時ハ即チ自ラ求メテ暴行ヲ受ケ又ハ姦通ヲ爲サシメタルニ在レハ假令ヒ現ニ其行爲ニ感觸スルモ自ラ謹テ怒ヲ抑ヘ須ク殺傷ノ如キ至重ノ罪ヲ行ハサルヲ要セサル可カラズ依テ此場合ニ於テハ法律ハ其罪ヲ宥恕セサルナリ

二人相毆打創傷何レカ先ニ手ヲ下シタルヲ知ル能ハサル時ハ其中何レノ者ヲ宥恕

第三百十二條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸

宅ニ入り若クハ門戶牆壁ヲ踰越損壞セントスル者ヲ防止スル爲メ之ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス 一七一、

第三百十三條 前數條ニ記載シタル宥恕ス可

キ罪ハ各本刑ニ照シ二等又ハ三等ヲ減ス

第三百十四條 身體生命ヲ正當ニ防衛シ已ム

ヲ得サルニ出テ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲メニスルヲ分タス其罪ヲ論セス但不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラス

テ可ナルヤヲ知ルヲ能ハス然ル時ハ裁判官ニ場合ヲ斟酌セシメ適宜ニ其双方ノ者又
 ハ一方ノ者ヲ宥恕スルコトヲ得セシムルナリ(三百十條)
 (三百十一)前文ニ述ベシ如ク防衛ノ權ヲ濫行シタルハ殺傷ノ罪ヲ宥恕スルノ原因ナ
 リ本條ノ場合ハ即チ是ナリ蓋シ晝間邸宅ニ侵入シ若クハ門戸牆壁ヲ踰越損壞セントス
 ル者アルコ際シテ之ヲ制止シ尙ホ其制止ヲ肯セサル時ニ於テ之ヲ防止セシムルカ爲メ殺傷
 シタル者ノ如キハ其實防衛ノ權ヲ正當ニ行ヒシコト非スシテ之ヲ濫行シタル者ナレハ十
 リ請フ其故ヲ述ヘン夫レ防衛ノ權ハ天賦ノ權ニテ人々ノ其生命財產ヲ保護スルニ缺ク
 可カラサルモノナリト雖モ之ヲ行フニハ須ク左ノ要件アルヲ以テ必要ナルトス即チ
 第一暴行襲撃ノ不正ナルヲ故ニ警察吏ノ人ヲ捕縛スル時ノ如キハ其人之ヲ防衛スルト
 モ是ヲ防衛ノ權ヲ行ヒシ者トナスヲ得ス第二暴行襲撃ノ腕力ニ出ツルヲ若シ然ラズ
 ハ腕力ヲ以テ之ニ當ルヲ要セザンハナリ第三其暴行襲撃ノ腕力ニ出ツルヲ若シ然ラズ
 ニ非スシテ既ニ終リシ後カ又ハ將來ニ在ルカノ時ハ法廷ニ訴フルトモ又ハ徐々其備ヲ
 爲ストモ總テ自由ナレハナリ第四其暴行襲撃ヲ防クノ止ムヲ得サルニ出ツルヲ若シ然
 ラズハ避ケテ之ヲ逃ルハ得可ケレハナリ
 今本條ノ預定スル暴行襲撃ノ如キ第一及ヒ第三ノ要件ハ之ヲ具スルト雖モ第二及ヒ第
 四ノ要件ハ未タ充分コトヲ具スルノ場合ニ至ラサル可シ何トナレハ其暴行襲撃ハ白晝
 ノ間ニ行ハルハナリ以テ容易ク近隣ノ人ヲ召集ムルヲ得可ク又之ヲ避クルヲ敢テ難キ
 ニ非レハナリ
 (三百十四及ヒ三百十五)此ニケ條ハ身體財產ヲ保護セシムルカ爲メ右ニ述ベシ要件ノ具ハ
 ル場合ニ於テ正當ニ防衛ノ權ヲ行ヒシ場合ヲ云フ故ニ法律ハ暴行人ヲ殺傷スルトモ敢
 テ其罪ヲ論セザルナリ
 (三百十四條ノ但書ニ付テハ三百九條ノ(但書)ノ註解ヲ見ユ)

三百十五條ノ第三項ハ三
 百十二條ノ場合ト同一ニ
 テ唯晝間ト夜間トノ區別
 アルノミ然レ晝間ニ於
 テ亂暴人ヲ殺傷スル時ハ
 其罪ヲ宥恕セラルハナ
 リトモ夜間ニ於テスル時
 ハ毫モ其罪ヲ論セラルハ
 ナシ是レ果シテ何ノ故
 ナルカ曰ク晝間ニ於テハ
 亂暴人ヲ殺傷セストモ他
 コトヲ避クルノ道アルニ
 夜間ニ於テハ畏懼ノ心殊
 ニ甚ダシク未タ之ヲ避ク
 ルノ道ヲ求ムルニ違マ
 ラサルヲ往々之レアラバ
 ナリ

第三百十五條 左ノ諸件ニ於テ己ムヲ得サ
 ルニ出テ入ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ論セス
 一 財産ニ對シ放火其他暴行ヲ爲ス者ヲ防止
 スルニ出タル時
 二 盜犯ヲ防止シ又ハ盜賊ヲ取還スルニ出タ
 ル時
 三 夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若
 シクハ門戸牆壁ヲ踰越損壞スル者ヲ防止ス
 ルニ出タル時(一七二)

第三百十六條 身體財產ヲ防衛スルニ出ルト
 雖モ己ムヲ得サルニ非スシテ害ヲ暴行人
 ニ加ヘ又ハ危害己ニ去リタル後ニ於テ勢ニ

トス依テ法律ハ其罪ヲ宥
恕ス可シト命セシメテ止
タ之ヲ宥怒スルコトヲ得ト
云フノミ

〔三百十七以下〕疎虞懈怠
及ヒ規則慣習ヲ遵守セサ
ルコトハ皆過失ナリ故ニ本
條以下單ニ過失ニ因テト
トアルモ必ス其上ニ疎虞
懈怠又ハ云々ノ文字アル
意ニテ之ヲ讀解ス可シ
規則慣習ヲ遵守セズ過失
ニ因テ人ヲ死ニ致シ又ハ
創傷シ云々トハ例ヘハ傳
染病預防規則ニ違背シテ
直ニ人ニ疫病ヲ感染セシ
メタル時ノ如キ又探撲ノ
規則慣習ヲ守ラズシテ職

乘シ仍ホ害ヲ暴行人ニ加ヘタル者ハ不論罪
ノ限ニ在ラス但情狀ニ因リ第三百十三條ノ
例ニ照シ其罪ヲ宥怒スルコトヲ得

第四節 過失殺傷ノ罪

第三百十七條 疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守
セズ過失ニ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ二十
圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス 二九二ニ

第三百十八條 過失ニ因テ人ヲ創傷シ癱篤疾
ニ致シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ
處ス 三〇〇、

第三百十九條 過失ニ因テ人ヲ創傷シ疾病休
業ニ至ラシメタル者ハ二圓以上五十圓以下

工ヲ災害ニ罹ラシメタル
時ノ如キヲ云フ

第五節

〔三百二十〕他人ト共ニ死
ヲ圖リ其人死シタル後自
ラ死スルコト能ハサル者例
ヘハ情死セシメテ約シ婦
女ノ死シタル後心變シテ
自ラ死スルヲ欲セサル者
又ハ己ニ死ニ着手シテ之
ヲ遂クルコト能ハサル者モ
本條ヲ以テ論セサルコト得
ス
自殺人ノ爲メ手ヲ下シタ
ルトハ自殺ノ場所ニ臨シ
力劍等ヲ之ニ附與シ又ハ
屠服スルノ方法ヲ之ニ直
傳スルカ如キニ非スシテ
自ラ之ヲ殺スニ足ル所爲
ノ全部又ハ一部ヲ現ニ行
フヲ云フナリ

ノ罰金ニ處ス 三〇一、

第五節 自殺ニ關スル罪

第三百二十條 人ヲ教唆シテ自殺セシメ又ハ
囑託ヲ受ケテ自殺人ノ爲メニ手ヲ下シタル
者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓
以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其他自殺ノ
補助ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス

第三百二十一條 自己ノ利ヲ圖リ人ヲ教唆シ
テ自殺セシメタル者ハ重懲役ニ處ス

第六節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪

第三百二十二條 擅ニ人ヲ逮捕シ又ハ私家ニ
監禁シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁

力ヲ以テ入ヲ拘留シ又ハ捕縛スルヲ云フ監禁トハ室内ニ押シ込メルヲ云フ此二箇ノ所爲ハ現行犯罪人ニ對スルノ外警察官吏ト雖モ又檢察官ト雖モ預審判事ヨリ發シタル令狀ニ非ラシハ決シテ爲スルヲ得サルモノナリ況ヤ常人ニ於テテチヤ蓋シ常人ニシテ擅ニ此所爲ヲ行フニ於テハ人身自由ノ權モ爲メニ大ニ害セラレ從テ被害者モ故ナク困難ヲ受クルニ至ル可ク是レ本條アル所以ナリ

〔二百二十四〕若シ人ヲ殺スノ意ヲ以テ前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ故殺ノ罪ト爲シ二百九十五條ヲ以テ論セ

錮ニ處シ二圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加

ス但監禁日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ
二七八

第三百二十三條 擅ニ人ヲ監禁制縛シテ毆打拷責シ又ハ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス 二八〇

第三百二十四條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス 二八一、二九九
第三百二十五條 擅ニ人ヲ監禁シ水火震災ノ

サルヲ得ス
〔二百二十五〕人ヲ殺スノ意ヲ以テ其監禁ヲ解クト爲サズ因テ死傷ニ致シタル者モ亦故殺ヲ以テ論セサル可ラス

第七節

〔二百二十六以下〕本條以下ニ於テハ脅迫ノ罪ヲ如何ナル目的ニテ犯シタルヤチ問ハスシテ單ニ其方法ノ如何チ區別シ以テ其罪ノ輕重ヲ定メテリ故ニ他人ニ財產若クハ證書ヲ與ヘシモノカ爲メ之ヲ脅迫スルモ又ハ一時ノ怒ニ乘ノ之ヲ脅迫スルモ其方法同シケレハ其刑モ亦同一ナリトス但シ脅迫ノ罪ヲ犯シタル者其罪ニ因テ人ニ害ヲ蒙ラシ又ハ之

際其監禁ヲ解クトチ怠リ因テ死傷ニ致シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ 二八一、三〇〇

第七節 脅迫ノ罪

第三百二十六條 人ヲ殺サント脅迫シ又ハ人ノ住居シタル家屋ニ放火セント脅迫シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
毆打創傷其他暴行ヲ加ヘント脅迫シ又ハ財產ニ放火シ及ヒ毀壞劫掠セント脅迫シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第三百二十七條 兇器ヲ持シテ前條ノ罪ヲ犯

ニ罪ヲ犯カシメタル時若シ其事ノ他ノ條ニ觸ル者タルコト於テハ乃チ別段ニ之ヲ論セサルヲ得ス脅迫ノ罪ハ言語文字ヲ以テ論セストモ所作ヲ以テ犯スヲ得キモノトス例ハハ將ニ毆打セツトスルノ意ヲ示スカ如シ幼者ヲ殺サントスルノ目的ニテ之ヲ脅迫。因テ之ヲ死ニ致シタル者ハ如何ニテ是レ謀殺ノ罪ナレハ乃チ二百九十二條ヲ以テ論セサルヲ得ス但シ幼者ノ直チニ死シタル時ニ限ル可シ人ヲ脅迫シ因テ之ヲ疾病又ハ自死ニ致シタル者ハ如何ニテ法律ニ明文ナケレハ其者ハ止テ損害ノ償ヲ拂ラノ責アルノミ

シタル者ハ各一等ヲ加フ

第三百二十八條 親屬ニ害ヲ加フ可キ事ヲ以テ脅迫シタル者ハ亦前二條ノ例ニ同シ

第三百二十九條 此節ニ記載シタル罪ハ脅迫ヲ受ケタル者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第三百三十條 懷胎ノ婦女藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十一條 藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎セシメタル者ハ亦前條ニ同シ因テ婦女ヲ死

ヲ論ス

第八節 墮胎ノ罪

第三百三十二條 醫師穩婆又ハ藥商前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

第三百三十三條 懷胎ノ威逼シ又ハ誑騙シテ墮胎セシメタル者ハ一年以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十四條 懷胎ノ婦女ナルヲ知テ毆打其他暴行ヲ加ヘ因テ墮胎ニ至ラシメタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス其墮胎セシムルノ意ニ出タル者ハ輕懲役ニ處ス

ニ致シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十二條 醫師穩婆又ハ藥商前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

第三百三十三條 懷胎ノ威逼シ又ハ誑騙シテ墮胎セシメタル者ハ一年以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十四條 懷胎ノ婦女ナルヲ知テ毆打其他暴行ヲ加ヘ因テ墮胎ニ至ラシメタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス其墮胎セシムルノ意ニ出タル者ハ輕懲役ニ處ス

以下

【二百二十九】脅迫ノ罪ハ之ヲ受ケタル者ニ非ズハ知了ニ難キコト多キ故ニ本條ハ其者又ハ其親屬ノ告訴アルヲ待ツナリ

第八節

墮胎ノ罪ハ藥物其他ノ方法ヲ以テ故ラニ胎内ノ子ヲ殺スニ在リ故ニ其罪ハ胎内ノ子ヲ殺スニ足ル藥物其他ノ方法ヲ用ユルコト胎内ノ子ヲ殺ス意アルコト及ヒ胎内ノ子ヲ殺シ遂ケタルコトノ三箇ノ事實相合シテ始メテ成立スルモノトス

【二百三十】以下【三百三十】條ハ婦女ノ自ラ墮胎シタル場合ヲ定メ三百三十一條ハ他人カ婦女ノ承諾ヲ得スシテ之ヲ墮胎セシメタル場合ヲ定ム此二箇ノ

二九九

場ハ何レモ同一ノ方法ヲ以テ胎内ノ子ヲ殺スルニ在リテ其刑モ亦同一ナリトス

墮胎ノ事ヲ承諾シテ墮胎シタル婦女ハ自ラ墮胎シタル者ト同一ノ刑ヲ受ク可シ

墮胎ノ罪ハ婦女ヲ死ニ致シタルノ之ヲ犯シタル者ノ身分三百三十二及ヒ三百三十三條以下ノ事由ニ因テ殊ニ重クナルモノトス

三百三十四條ノ第一項ノ記載スル罪ハ墮胎ノ罪ト云ハシテ口撃打創傷ノ罪ナリト云フ可シ

二百二十六以下ノ八歳以上ノ子又ハ自ラ生活スルヲ得ル老若疾病者ハ假令遺棄セラルトモ未ダ甚シキ危難ニ陥イルハトナキカ故ニ法律ハ八歳以下ノ子及ヒ自ラ生活スル能ハサル幼者又ハ老疾者ヲ遺棄シタル者ノミヲ罰

第三百三十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女

ヲ廢篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス 二九九以下

第九節 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪

第三百三十六條 八歳ニ滿サル幼者ヲ遺棄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス 自ラ生活スルヲ能ハサル老若疾病者ヲ遺棄シタル者亦同シ

第三百三十七條 八歳ニ滿サル幼者又ハ老疾者ヲ寥闕無人ノ地ニ遺棄シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

其遺棄スルトハ手離シテ最早保護ヲ爲サズ又人ニ保護ヲ爲サシメタルノ謂ナリ故ニ傍ニ人ナキニ乘シテ道路空闊畑地公園地等ニ手離シ直ニ己ノ跡ヲ晦マエカ如キハ即チ遺棄シタルトナリ又自己ノ借家ニ捨テ置キ己ノ窃ニ他ニ移テ最早之ヲ顧ミサルカ如キモ又他人ノ門内ニ捨テ置キ其之ヲ拾ハンコト希望シテ直ニ逃避スルカ如キモ亦遺棄シタルト知ル可シ然レモ一時他人ニ渡シ然ル後己ノ影ヲ晦マスカ如キハ是レ法律上ニ於テハ遺棄シタル者ニ非ス何トナレハ此場合ニ於テハ暗ニ他人ニ保護ヲ托シタルニ等シキカ故ニ遺棄セラレシ者ハ一時時タリトモ危險ニ當エトナケレハナリ

三百三十九條ニハ單ニ幼者老疾者トアレモ幼者ハ八歳ニ滿タサル者ニテ老疾者ハ自ラ生活スル能ハサル者ナリト知ル可シ

遺棄ノ罪ハ左ノ原因ニ由テ加重ス可シ 第一寥闕無人ノ地例ニハ山野曠原ニ遺棄シタルト何トナレハ此場合ニ於テハ幼者又ハ老疾者ハ殊ニ危險ニ罹レバナリ

第三百三十八條 給料ヲ得テ人ノ寄託ヲ受ケテ受ケル保護者タル身分ニ蓋シ給料ヲ得テ保護ノ任ヲ受ケシ者ハ殊ニ保護ヲ盡クヌ可キニ之ヲ盡クサスシテ却テ害ヲ爲セバナリ 第三百三十九條 幼者老疾者ヲ遺棄シ因テ廢疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處シ篤疾ニ致シ

ノ遺棄セラレシ後他人ノ所爲例ハ之カ其衣服ヲ屏去シタルトニテ其廢篤疾ニ致シシ時ハ遺棄者ノ罪ハ三百三十九條ヲ以テ論ス可キヤ如何曰ク然リ何トナレハ該條ハ其廢篤疾ノ如何ナル原因ニ出テタルヤヲ區別セサレハナリ

第十節

〔三百四十一以下〕略取トハ暴行脅迫ヲ以テ奪ヒ取ルヲ云フナリ
誘拐トハ偽計又ハ其他ノ方法ヲ以テ他所ニ連レ行

タル者ハ重懲役ニ處シ死ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

第三百四十條 自己ノ所有地又ハ看守ス可キ地内ニ遺棄セラレタル幼者老疾者アルトナ知テ之ヲ扶助セス又ハ官署ニ申告セサル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス
若シ疾病ニ罹リ昏倒スル者アルトナ知テ扶助セス又ハ申告セサル者亦同シ

第十節 幼者ヲ略取誘拐スル罪

第三百四十一條 十二歳ニ滿サル幼者ヲ略取シ又ハ誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交附シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ

クテ云フ幼者ニ菓子ヲ與ヘント欺キ又ハ之ニ其好ム所ノ者ヲ見セント欺キ又ハ他所ニ行テ共ニ樂マント約シ以テ之ヲ他所ニ連レ行ク等ノコトハ皆之ヲ誘拐シタルモノト謂フ可シ
略取誘拐ノ罪ハ幼者ノ親屬ノ承諾ヲ得スシテ之ヲ其手ヨリ離ストコト因テ成ルモノトス依テ誘拐ノ場合ニ於テハ幼者ノ本心ヨリ承諾ヲ得シ時ト雖モ其罪ハ必ス成立スルニ至ル可シ例ヘハ二十八歳ノ男子カ十六歳ノ處女ニ姦通シ共ニ協議ヲシテ之ヲ他所ニ連レ行キ因テ藏匿シタル時ノ如シ
然レモ其男子ノ幼者ナルカ又ハ丁年者アリトモ幼

處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十二條 十二歳以上二十歳ニ滿サル幼者ヲ略取シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交附シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ

處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交附シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二

圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十三條 略取誘拐シタル幼者ナルトナ知テ自己ノ家属僕婢ト爲シ又ハ其他ノ名稱ヲ以テ之ヲ收受シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

者ヲ去ルコト未ダ遠カラザル時ハ其姦通シタル女子ト相共ニ身ヲ匿スモ未ダ誘拐ノ罪アリト爲スコトヲ得ス

〔二百四十四〕零取誘拐ノ罪ハ大半十二三歳以上ノ女子ニ係ルコト多ク而シテ女子ハ一旦此ノ如キ罪ヲ受ケタルコトノ世上ニ傳ハルニ於テハ爲メニ名譽ヲ害セラル大ニ婚姻ヲ爲スノ障礙ト爲ル可ク且ツ其罪ハ被害者ノ一族ノ外知リシ難キヲ以テ法律ハ本人又ハ其親族ノ告訴アラズンハ其罪ヲ論セザルナリ其婚姻ヲ爲シタルトハ零誘拐者ト婚姻ヲ爲シタルト云フ

第三百四十四條 前數條ニ記載シタル罪ハ被

害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但略取誘拐セラレタル幼者式ニ從テ婚姻ヲ爲シタル時ハ告訴ノ効ナシ

第三百四十五條 二十歳ニ滿サル幼者ヲ略取誘拐シテ外國人ニ交付シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第十一節 猥褻姦淫重婚ノ罪

第三百四十六條 十二歳ニ滿サル男女ニ對シ猥褻ノ所行ヲ爲シ又ハ十二歳以上ノ男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓

身體ノ一部ヲ假リテ陰情ヲ漏ヌノ類ニテ例ハハ鷄姦ヲ行フカ如シ

〔二百四十八〕強姦ノ罪ハ婦女カ百方手ヲ盡シテ始終姦淫ノ事ヲ拒ヨシ時ニ非スンハ成立セス若シ最初之ヲ拒ミ中途ニシテ之ニ和スル時ノ如キハ男子ヲ強姦ノ罪アルモノト爲スコトヲ得ス

以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第三百四十七條 十二歳ニ滿サル男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第三百四十八條 十二歳以上ノ婦女ヲ強姦シタル者ハ輕懲役ニ處ス
藥酒等ヲ用ヒ人ヲ昏睡セシメ又ハ精神ヲ錯亂セシメテ姦淫シタル者ハ強姦ヲ以テ論ス
三八三、
第三百四十九條 十二歳ニ滿サル幼女ヲ姦淫シタル者ハ輕懲役ニ處ス若シ強姦シタル者

追テ用ヒタルニ非ヌ又精神ヲ錯亂セシメタルニモ非レハナリ
〔二百五十一〕本條ハ二百四十四條ト同意ニテ婦女ノ名譽ヲ損ハカランガ爲メ本人又ハ其親族ノ告訴アルニ非スンハ前數條ノ罪ヲ論セザルナリ

〔二百五十二〕本條ノ罪ハ十六才以下ノ男女双方ノ者ニ淫行ヲ勸誘シテ之ヲ謀合セシメヌトモ唯其一ノ十六才以下ノ者ト謀合セシメタルノミテ自ラ成

ハ重懲役ニ處ス

第三百五十條 前數條ニ記載シタル罪ハ被害

者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第三百五十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯

シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ

各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス但強姦ニ因

テ癱篤疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ死

ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處ス 二九九以下

第三百五十二條 十六歳ニ滿サル男女ノ淫行

ヲ勸誘シテ謀合シタル者ハ一月以上六月以

下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰

金ヲ附加ス 四二五ノ一〇、

立テ可キモトス
〔二百五十三〕姦通ノ罪ハ本夫アルノ故以テ成立スルニ因リ乃チ殊ニ夫ノ名譽ヲ其一身止ニ關スルモノナリ依テ其告訴アル時ノ外之ヲ論セサルナリ

〔二百五十四〕配偶者アル者重テ婚姻ヲサストモ其前婚ヲ無効ナリト思ヒシニ出テシ時ハ罪ナシ
配偶者アルモノト知テ之ヲ結婚シタル者ハ其重婚者ノ從犯トシテ論ス可シ
〔二百五十五以下〕誣告ノ罪ハ左ノ件々相合シテ成立ス

第三百五十三條 有夫ノ婦姦通シタル者ハ六

月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ヌ其相姦スル

者亦同シ

此條ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但

本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ告訴ノ効ナ

シ 三一

第三百五十四條 配偶者アル者重テ婚姻ヲ

爲シタル時ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ

處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十二節 誣告及ヒ誹毀ノ罪

第三百五十五條 不實ノ事ヲ以テ人ヲ誣告シ

タル者ハ第三百二十條ニ記載シタル偽證ノ

第一刑法及其他ノ規則ニ從テ罪ト爲ル可キコト申立テ之ヲ人ノ責ニ歸セシトスルコト法律ニハ單ニ不實ノ事トアレバ偽證ノ例ニ照シテ處斷ス。ト云フ語アリハ其以テ通常ノ惡事ニ非サルヤ明ナル可シ。第二其事ノ不實ナルコト若シ眞實ナルコトハ其申立ハ告訴又ハ告發ナレハナリ。第三人ヲ害スルノ意アルコト若シ然ラズンバ其申立ハ過失ニ因レル告訴告發ナレハナリ。第四掛リ官吏即チ其申立テ吟味ス可キ者ニ之ヲ爲ス。コト若シ然ラズンバ其申立モ殆ント無効ニ屬スレハナリ。三百五十六條ハ誣告セラ

例ニ照シテ處斷ス

第三百五十六條 誣告ヲ爲スト雖モ被告人ノ推問ヲ始メサル前ニ於テ誣告者自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

第三百五十七條 誣告ニ因テ被告人刑ニ處セラルタル時ハ第二百二十一條第二百二十二條ニ記載シタル例ニ照シテ處斷ス

第三百五十八條 惡事醜行ヲ摘發シテ人ヲ誹毀シタル者ハ事實ノ有無ヲ問ハス左ノ例ニ照シテ處斷ス

一公然ノ演說ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ十日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上

レシ者チ一日モ早ク其難ヨリ免カレシメシカ爲メナリ。〔三百五十八〕誹毀ノ罪ハ左ノ件々ヨリ成立スルモノトス。第一惡事醜行ヲ摘發シテ人ノ名譽ヲ害スルコト摘發シタル事柄ノ惡事醜行ナルヤ否ヤハ時ノ模様ト人ノ身分トニ從テ裁判官ノ斟酌スル所ナリ。第二事實ノ有無ニ關セサルコト故ニ誹毀ノ罪ハ眞實ナル事柄ヲ摘發スルトモ成立ス可シ。第三本條ノ記載スル所ノ公布ノ方法ヲ用ユルコト若シ僅々數名ノ人ニ摘發スルカ如キハ誹毀ノ罪ニ非サルナリ。本條ニハ公然ノ演說トアルモ裁判所ニ於

三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

二書類畫圖ヲ公布シ又ハ雜劇偶像ヲ作爲シテ人ヲ誹毀シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス 二四一ノ二、

第三百五十九條 死者ヲ誹毀シタル者ハ誣罔ニ出タルニ非サンハ前條ノ例ニ照シテ處斷スルコトヲ得ス

第三百六十條 醫師藥商穩婆又ハ代言人辯護人代書人若クハ神官僧侶其身分職業ニ於テ委託ヲ受ケタル事ニ因リ知得タル陰私ヲ漏告シタル者ハ誹毀ヲ以テ論シ十一日以上三

テ訴訟ノ事ニ關シ爲ス時
 ハ本條ヲ以テ論スルコトヲ
 得サル可シ
 (二百六十)本條ニ記載ス
 ル身分ノ者ハ其職業ニ於
 テ他人ノ陰私ヲ知得ルコ
 往々之レアリ然ルニ若シ
 其之ヲ漏告スルカ如キコ
 アルニ於テハ人々安心シ
 テ之ニ事ヲ信任スルコト能
 ハス左スレハ其貴重ナル
 職業モ或ハ汚瀆セラルハ
 ニ至ル可シ是レ本條ハ其
 身分ニテ之ヲ漏告シタル
 者ヲ罰スル所以ナリ
 (二百六十一)誹毀ノ罪ハ
 之ヲ受ケタル者ノ一身ニ
 殊ニ關スル者トス依テ其
 告訴ヲ待ツナリ
 (二百六十二以下)祖父母
 父母ハ子タリ孫タル者
 殊ニ敬愛シ且ツ尊重セ

月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下
 ノ罰金ヲ附加ス但裁判所ノ呼出ヲ受ケテ事
 實ヲ陳述スル者ハ此限ニ在ラス
 第三百六十一條 此節ニ記載シタル誹毀ノ罪
 ハ被害者又ハ死者ノ親屬ノ告訴ヲ待テ其罪
 ヲ論ス

第十三節 祖父母父母ニ對スル罪

第三百六十二條 子孫其祖父母父母ヲ謀殺故
 殺シタル者ハ死刑ニ處ス 二九二以下、
 其自殺ニ關スル罪ハ凡人ノ刑ニ照シ二等ヲ
 加フ

第三百六十三條 子孫其祖父母父母ニ對シ毆

ル可カラサルモノナリ是
 レ萬古普通ノ定法ニシテ
 人倫ノ由テ立ツ所ナレハ
 道德ト雖モ祖父母父母ニ
 對シ敬ヲ缺ク子孫ハ罪ノ
 大ナル者ト爲セリ況ヤ之
 ニ對シテ罪惡ヲ行フニ於
 テチヤ是レ法律ハ祖父母
 父母ニ對シテ有心故造ノ
 罪ヲ犯シタル子孫凡人
 ヲリ重キ刑ニテ罰スル所
 以ナリ
 養子ノ其養祖父母父母ニ
 對シ罪ヲ犯シタル時モ亦
 本條以下ニテ論スル者トス
 (二百六十四)衣食ヲ供セ
 ス及ヒ奉養ヲ缺キタルヤ
 否ハ人ノ身分ニ因テ判定
 ス可キモノトス
 疾病又ハ死ニ致シタル者
 ト云フ語ハ必要ナル奉養
 ヲ缺キタルヨリ間接ニ之

打創傷ノ罪其他監禁脅迫遺棄誣告誹毀ノ罪
 ナ犯シタル者ハ各本條ニ記載シタル凡人ノ
 刑ニ照シ二等ヲ加フ但癱疾ニ致シタル者ハ
 有期徒刑ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ無期徒
 刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス 二九
 九以下、三三二以下、三三六以下、三
 三六以下、三五五以下、三五八、

第三百六十四條 子孫其祖父母父母ニ對シ衣
 食ヲ供給セス其他必要ナル奉養ヲ缺キタル
 者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二
 圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 因テ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ亦前條ノ例
 ニ同シ

ヲ死ニ致シタル者ヲモ抱
合スル所ナリ故ニ父母ノ
憤怒ニ堪ヘズシテ氣病ヲ
發シ又ハ其病ニ因テ死シ
タル時モ亦本條第二項ヲ
以テ論セサルヲ得ス

〔三百六十五〕特別ノ宥恕
及ヒ不論罪ノ例トハ三百
九條以下ニ定ムル所ノ宥
恕及ヒ不論罪ノ例ヲ云フ
此例ヲ用ニルコトヲ許サ、
ル所以ハ如何ナル暴行ヲ
受クルトモ祖父母父母ヲ
殺傷スルカ如キハ子孫ノ
敢テ爲ス可ラサ、所ナリ
ト考定シタルヲ以テナリ

〔三百六十六〕竊盜ノ罪ハ左ノ何々相合シテ成立スルモノトス
第一物件ヲ取ル

第二竊ニ之ヲ取ルコト若シ強テ力ヲ以テ之ヲ取ルニ於テハ是レ強盜ノ罪ナレハナリ
問フ拘摸ノ如キハ竊盜ト爲ス可キヤ將テ強盜ト爲ス可キヤ曰ク是レ竊盜ト爲ス可キヤ
リ何トナシハ其所爲ハ暴行脅迫ヲ以テ強テ物件ヲ奪フコト非ス人ノ氣ノ付カサル様巧ニ
之ヲ取ルニ在ルヲ以テ即チ竊ニ之ヲ取ルト同シ蓋シ竊ノ字ハ人ノ眼目ニ觸レサル様ハ

第三百六十五條 祖父母父母ニ對シタル殺傷

ノ罪ハ特別ノ宥恕及ヒ不論罪ノ例ヲ用フル
コトヲ得ス但其犯ス時知ラサル者ハ此限ニ在
ラス

第二章 財産ニ對スル罪

第一節 竊盜ノ罪

第三百六十六條 人ノ所有物ヲ竊取シタル者
ハ竊盜ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁
錮ニ處ス

ノ氣ノ付カサル様ト云フ意ナレハ或ハ巧ニト云フ意ニ解スルモ亦宜ナレハナリ
第三竊取ノ時其物件ヲ一時又ハ永久己レノ所有ト爲サント欲スルノ惡意アルコト若シ之
ヲ己レノ所有ト爲スノ惡意ナキニ於テハ是レ暗ニ之ヲ借受クルカ又ハ藏ニ之ヲ取ルカ
又ハ所有者ノ不注意ヲ警戒センカ爲メ之ヲ匿クヌカ又ハ其他正當ノ名義ヲ以テ之ヲ取
ルカニ外ナラサルヲ以テ決シテ盜罪ノ成立スル理由ナシトス

若シ竊取ノ時ニ惡意ナクシテ後チ其惡意ノ生シタル時ハ如何曰ク是レ竊盜ノ罪ニ非サ
レハ三百九十五條ヲ以テ論ス可キモノトス
若シ其物件ヲ所有トスルノ惡意ナクシテ單ニ之ヲ毀棄スルノ意ニ出テタル時ハ如何曰
ク其之ヲ所有スル時ハ是レ竊盜ノ罪ナリ何トナレハ一時之ヲ己レノ所有ト爲シタルニ
等シケレハナリ然レモ其直ニ之ヲ毀棄シタル時ハ四百二十一條ヲ以テ論スルノ外ナ
キナリ○他人ノ物件ヲ貧者ニ施與センカ之ヲ竊取スルニ於テハ是レ之ヲ己レノ所有ト
爲スニ非サルヲ以テ乃チ盜罪トシテ論スルヲ得サル乎否ナ論セサル可カラサルナリ何
トナレハ其目的ハ一時之ヲ己レノ所有ト爲スニ在リ然ラズンハ之ヲ人ニ施與スルヲ得
サレハナリ

第四其物件ノ他人ニ屬スルコト故ニ其己レニ屬スル時例ヘハ之ヲ人ニ附托シ又ハ貸渡
タル時ノ如キハ之ヲ竊取スルモ是レ盜罪ニ非ス唯其契約ヲ破リタルノミ但三百七十一
條及ヒ三百九十六條ノ場合ハ別段ナキトス
物件ヲ竊取スト雖モ所有者ノ之ヲ竊取セシメタル時例ヘハ仁者アツテ貧人ニ金額ヲ附
與セントスレモ其受取ラサルコト慮カリテ之ヲ其面前ニ遺棄シ何ントナシ其場所ヲ去
リシ時ノ如キハ例令ヒ之ヲ竊取スルモ未ダ盜罪アリト爲コト可カラズ何トナレハ其所有
者ヨリ暗ニ之ヲ附與セラレタルト事相同ケレハナリ

〔三百六十七以下〕本條ヨリ三百七十條ニ至ル迄ハ竊盜罪ノ重クナル可キ原因ヲ記載ス

〔三百六十八〕邸宅倉庫ニ入リタル後盜罪ヲ遂クル爲ノ門戶牆壁等ヲ云々シタル者モ亦本條ヲ以テ論ス可キヤ曰ク否ナ何トナレハ此所爲ハ盜罪ヲ犯ス方法ト稱ス可キニ非ス寧ロ遁逃ヲ容易ナラセムル方法ト稱ス可キ者ナレハナリ

〔三百七十〕兇器ハ總テ人ヲ殺傷スルニ足ル諸般ノ物件ヲ云フ刀劍銃棒小銃ノ如キ又鋸針鉗槌ノ如キ是ナリ但シ鋸針鉗槌等ノ類ハ人ヲ殺傷セシカ爲メ

第三百六十七條 水火震災其他ノ變ニ乘シテ竊盜ヲ犯シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百六十八條 門戶牆壁ヲ踰越損壞シ若クハ鎖鑰ヲ開キ邸宅倉庫ニ入リ竊盜ヲ犯シタル者ハ亦前條ニ同シ

第三百六十九條 二人以上共ニ前三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

第三百七十條 兇器ヲ携帯シテ人ノ住居シタル邸宅ニ入リ竊盜ヲ犯シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第三百七十一條 自己ノ所有物ト雖モ典物ト

携帶シタル時ニ非ズシテ之ヲ兇器ト爲スヲ得ス〔三百七十一〕本條以下ハ竊盜ノ模様ノ變ハリシ者及ヒ其情狀ノ稍ヤ輕キ者ヲ擧グ

典物トシテ他人ニ交付シタル物件又ハ官署ノ命令ニ因リ他人ニ看守セラルル物件ヲ竊取スルハ他人ノ物件ヲ竊取スルト其情至ク相同シ何トナレハ此物件ハ借金ヲ償還スルカ又ハ其他ノ手續ヲ爲スニ非スシテ其ノ上ニ己ノ所有權ヲ行フヲ得スシテ却テ他人ノ所有ニ歸スルニ至ル可ケレハナリ故ニ之ヲ竊取シタル者ヲ竊盜ヲ以テ論スルナリ

シテ他人ニ交付シ又ハ官署ノ命令ニ因リ他人ノ看守シタル時之ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論ス一七五、一七六

第三百七十二條 田野ニ於テ穀類菜菓其他ノ產物ヲ竊取シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百七十三條 山林ニ於テ竹木礦物其他ノ產物ヲ竊取シ又ハ川澤池沼湖海ニ於テ人ノ生養シ若クハ營業ニ關スル產物ヲ竊取シタル者ハ亦前條ニ同シ

第三百七十四條 牧場ニ於テ牧畜ノ獸類ヲ竊取シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ

以テ強テ之ヲ取ルニ於テハ是レ強盗ノ罪ナル可シ
〔二百七十一以下〕田野山林川澤牧場等ニテ其産物魚類獸類ヲ竊取スルハ道路邸宅等ニ於テ他人ノ物件ヲ竊取スルニ比スレハ其情幾分カ恕ス可キ者アリ依テ其刑輕シ然レモ若シ現ニ人ノ之ヲ看守スルニ當リ其看守スルヲ知テ竊ニ之ヲ取ルカ如キハ拘摸ノ所爲ト何リ擇ハシ故ニ此場合ニ於テハ時ノ摸餘ニ因リ三百六十六條ヲ以テ論スルモ可ナリ
本條以下ノ罪ニ三百六十七條又ハ三百六十九條ノ情狀ノ加ハル時ハ此三箇ノ條ニ從ヒ其刑ヲ加重シテ可ナルヤ曰ク然リ何トナレバ此三箇ノ條ハ竊盗

處ス

第三百七十五條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス 一三二

第三百七十六條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三百七十七條 祖父母父母夫妻子孫及ヒ其配偶者又ハ同居ノ兄弟姊妹互ニ其財物ヲ竊取シタル者ハ竊盗ヲ以テ論スルノ限ニ在ラズ 一四、一五
若シ他人共ニ犯シテ財物ヲ分チタル者ハ竊

盗ヲ以テ論ス

第二節 強盗ノ罪

第三百七十八條 人ヲ脅迫シ又ハ暴行ヲ加ヘテ財物ヲ強取シタル者ハ強盗ノ罪ト爲シ輕懲役ニ處ス

第三百七十九條 強盗左ニ記載シタル情狀アル者ハ一個毎ニ一等ヲ加フ
一 二人以上共ニ犯シタル時 三六九、
二 兇器ヲ携帯シテ犯シタル時 三七〇、

第三百八十條 強盗人ヲ傷シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス

第三百八十一條 強盗婦女ヲ強姦シタル者ハ

ノ加重ス可キ一般ノ情狀ヲ記載シタル者ナリ而シテ本條以下ノ罪モ亦竊盗ナレバナリ
〔二百七十七〕本條ニ記載スル人々ハ互ニ相密接スル者ナレハ其間ニテ爲シタル盜罪ハ之ヲ判定スルニ至テ難キカ故ニ法律ハ乃チ之ヲ論セザルコトトセシナリ
但シ同居セサル兄弟姉妹ハ別段ナリトス
〔二百七十八〕強盗ノ竊盗ト異ナル所ハ唯強テ顯ハコ盗ヲ爲スニ在ル也而シテ他ノ點ハ總テ竊盗ニ同シ
〔二百七十九以下〕本條以下三百八十一條マテハ罪ノ重クナル可キ原因ヲ記載セリ
〔二百八十一〕傷カサルトハ

皮膚ノ色ヲ清赤ナラシメ以テ腫起セシメタルコトヨリ以上ノ所爲ヲ云フナリ
〔二百八十二〕其取還ヲ拒ク爲メトアレバ若シ人ニ追ハル、ニ際シ已ニ得タル財ヲ投棄シ單ニ捕獲ヲ拒ク爲メ臨時暴行脅迫ヲ爲シタル者ハ固ヨリ強盜ヲ以テ論セラル、コトナカ
ル可シ
〔二百八十三〕人ヲ醉迷セシムルハ即チ身體精心ヲ牽束スルニ同シ是レ本條アル所以ナリ

無期徒刑ニ處ス 三四八

第三百八十二條 竊盜財ヲ得テ其取還ヲ拒ク

爲メ臨時暴行脅迫ヲ爲シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス

第三百八十三條 藥酒等ヲ用ヒ人ヲ醉迷セシ

メ其財物ヲ盜取シタル者ハ強盜ヲ以テ論シ輕懲役ニ處ス

第三百八十四條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ

減輕ニ因テ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三節 遺失物理藏物ニ關スル罪

第三百八十五條 遺失及ヒ漂流ノ物品ヲ拾得

〔二百八十五以下〕遺失及ヒ漂流ノ物品及ヒ埋藏物

ハ所有主アル者ナリ之ヲ得テ隱匿スルハ他人ノ物件ヲ盜ムニ等シ然レモ其所爲ハ盜罪ヨリ稍ヤ恕ス可キ所アルヲ以テ法律ハ乃チ盜罪ニ於ケルヨリ少シク輕キ刑ニテ之ヲ罰スルナリ

家畜ノ逃避シタル者ヲ拘執シテ竊ニ之ヲ己シノ所有ト爲シタル者ハ三百八十五條ヲ以テ論ス可キヤ將テ竊盜ヲ以テ論ス可キヤ曰ク若シ現ニ所有者ノ之ヲ探スコトヲ明知シテ之ヲ取リシメ於テハ乃チ竊盜ナレバ其逃避シタルヨリ時間稍ヤ隔タリ最早所有者ノ之ヲ探スヤ否ヤヲ知ラサル時例ヘハ其家畜ノ山林田野等ニ眠ルカ如キ時ハ之ヲ取テ已レノ所

テ隱匿シ所有主ニ還付セス又ハ官署ニ申告

セサル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ

處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百八十六條 他人ノ所有地内ニ於テ埋藏

ノ物品ヲ掘得テ隱匿シタル者ハ亦前條ニ同シ

第三百八十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ

タル者第三百七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

第四節 家資分散ニ關スル罪

第三百八十八條 家資分散ノ際其財産ヲ藏匿

脱漏シ又ハ虚偽ノ負債ヲ増加シタル者ハ二

有下爲スモ止タ三百八十
 五條ノ論スル所ト爲ルノ
 三
 〔三百八十八以下〕家資分
 散ノ際トハ身代限ノ言渡
 ヲ受ケ己レノ財産ノ全部
 ヲ以テ負債ヲ悉皆辨償ス
 可キ時ヲ云フ
 此際ニ於テハ己レノ財産
 モ最早他人ニ移ル可キト
 必定ナレハ之ヲ藏匿脱漏
 シ又ハ虚偽ノ契約ヲ爲シ
 又ハ債主中一人ニ特ニ其
 負債ヲ私償シテ己レノ債
 主ニ渡ス可キ高チ減スル
 ハ即チ之ヲ欺罔シテ其財
 物ヲ得ルニ等シ依テ法律
 ハ之ヲ罰スルナリ
 〔三百八十九〕分散決定ノ
 後情ヲ知テ分散人ヨリ負
 債ノ私償ヲ受ケタル債主
 ハ共犯ナルカ將テ從犯ナ

月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス
 情ヲ知テ虚偽ノ契約ヲ承諾シ若クハ其媒介
 ナ爲シタル者ハ一等ヲ減ス
 第三百八十九條 家資分散ノ際牒簿ノ類ヲ藏
 匿毀棄シ若クハ分散決定ノ後債主中ノ一人
 又ハ數人ニ其負債ヲ私償シテ他ノ債主ヲ害
 シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處
 ス
 第五節 詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ
 關スル罪
 第三百九十條 人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物
 若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ

ルヤ曰ク從犯ナリ何トナ
 レバ私償ノ事タル分散人
 ニ就テ犯罪ノ一要件タル
 ニ相違ナシト雖も債主ニ
 付テ考フル時ハ止テ犯罪
 ヲ補助シテ容易ナラシム
 ル所爲タルニ過キサレハ
 ナリ
 〔三百九十〕詐欺取財ノ罪
 ハ左ノ件々ヨリ成立ス可
 シ
 第一財物若クハ證書類ヲ
 得ンカ爲メ人ヲ欺罔シ又
 ハ恐喝スルヲ欺罔スルト
 ハ例ヘハ身分ヲ詐リ名前
 ヲ詐リ又ハ故ラシ事實ヲ
 構ヘ及ヒ其他詐偽ノ手段
 ヲ設ケ以テ人ヲ迷惑セシ
 ムルヲ云フ恐喝スルト
 ハ虚事ヲ構ヘテ畏懼ノ念
 慮ヲ生セシムルヲニテ例
 ハハ足下其物件ヲ我ニ預

罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ
 四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 因テ官私ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタ
 ル者ハ偽造ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷
 スニ〇二以下
 第三百九十一條 幼者ノ知慮淺薄又ハ人ノ精
 神錯亂シタルニ乘シテ其財物若クハ證書類
 ヲ授與セシメタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス
 第三百九十二條 物件ヲ販賣シ又ハ交換スル
 ニ當リ其物質ヲ變シ若クハ分量ヲ偽テ人ニ
 交付シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス
 第三百九十三條 他人ノ動産不動産ヲ冒認シ

ケスノハ必ス禍ニ遭フ可
シト云フノ類ナリ
第二其物件又ハ證書類ヲ
引取リタルハ其證書類ト
ハ公債證書株券手形貸借
證書讓渡證書受取證書等
ノ總テ權利義務ニ關スル
者ヲ云フ蓋シ此等ノ證書
類ハ記名ノ者タルト無記
名ノ者タルトヲ論セズ總
テ之ヲ取リシ者ノ利益ト
爲ル可ケレハナリ
第三其物件又ハ證書類ヲ
己レニ利セントスルノ意
アルヲ若シ此意ナキニ於
テハ是レ之ヲ調フルカ爲
メ又ハ一時人ヲ惑ハサ
シカ爲メ又ハ之ヲ棄壞
セシカ爲メ又ハ三者其外ニ
出テサル可ケレハナリ
〔二百九十五以下〕本條以下
ハ詐欺取財ノ罪ト同一ノ

テ販賣交換シ又ハ抵當典物ト爲シタル者ハ
詐欺取財ヲ以テ論ス
自己ノ不動産ト雖モ己ニ抵當典物ト爲シタ
ルヲ欺隱シテ他人ニ賣與シ又ハ重テテ抵當
典物ト爲シタル者亦同シ
第三百九十四條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯
シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス
第三百九十五條 受寄ノ財物借用物又ハ典物
其他委託ヲ受ケタル金額物件ヲ費消シタル
者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス若シ
騙取拐帶其他詐欺ノ所爲アル者ハ詐欺取財
ヲ以テ論ス

性質アル所爲ヲ揭ク蓋シ
此所爲ハ皆入テ欺罔シ又
ハ其孱弱ナルニ乘シ(即
チ恐喝スルニ同シ)テ不
正ノ利ヲ取ルニ出ツレハ
ナリ
〔二百九十五〕本條ハ信ニ
背ヒテ人ノ物件金額ヲ費
消シタル者ヲ罰スルニテ
其消費シタルトハ故意ヲ
以テ之ヲ費散シ又ハ之ヲ
讓渡シ又ハ最早之ヲ用ユ
ル能ハサル程ニ損壞ス
ル等ヲ云フ
戸棚ノ鎖鑰ヲ預ケ主ニ渡
シ其中ニ物件ヲ入レシメ
テ之ヲ預カリシ者ノ竊ニ
之ヲ費消シタル時ハ本條
ヲ以テ論ス可キヤ將タ竊
盜ヲ以テ論ス可キヤ曰ク
其者ハ之ヲ預カリシニ相違
ナシト雖モ既ニ戸棚ノ鎖

第三百九十六條 自己ノ所有ニ係ルト雖モ官
署ヨリ差押ヘタル物件ヲ藏匿脱漏シタル者
ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス但家資
分散ノ際此罪ヲ犯シタル者ハ第三百八十八
條ノ例ニ照シテ處斷ス 三七一
第三百九十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯サ
ントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ
照シテ處斷ス 一二三
第三百九十八條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ
タル者第三百七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係
ル時ハ其罪ヲ論セス
第六節 贓物ニ關スル罪

論ヲ預メ主ニ渡シタル者
以テ其中ノ物件ヲ取ルハ
即チ他人ノ家ニ入テ之ヲ
取ルニ同シ故ニ竊盜ヲ以
テ論セサル可カラズ
〔三百九十八〕三百七十八
條ノ趣意ト同シ

〔三百九十九以下〕贓物ナ
ルヲ知テ之ヲ寄藏故買
スル等ノ所爲ヲ行ハ即
チ間接ニ犯罪ヲ助クル者
ト謂フ可シ然レモ是ノ從
犯トシテ罰ス可キコ非キ
ル〔百九條〕カ故ニ法律ハ
乃チ別ニ本條以下ヲ制定
シタルナリ

〔四百一〕其他ノ犯罪ニ關
シタル物件トハ拾ヒ以テ
隱匿セシ 件官許ヲ得テ
シテ製造セシ 危害品劇藥
毒藥又ハ賄賂トシテ受テ
タル物件等ノ如シ

第三百九十九條 強竊盜ノ贓物ナルヲ知テ
之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シ
タル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ
三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第四百條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ六月以上
二年以下ノ監視ニ付ス
第四百一條 詐欺取財其他ノ犯罪ニ關シタル
物件ナルヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ
若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ十一日以上一年
以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上三十圓以下ノ
罰金ヲ附加ス
第七節 放火失火ノ罪

〔四百二以下〕人ノ住居ニ
タル家屋トハ人ノ住居ニ
可クシテ現ニ其住居シ居
ル家屋ナリ又ハ人ノ住居ニ
サル家屋トハ人ノ住居ニ
可キコ非サル家屋ニテ物
置場集會所芝居小屋荷持
所等ナリ但シ人ノ住居ニ
サル家屋ト雖モ其之ニ居
ルヲ知テ火ヲ放チシニ於
テハ之ヲ人ノ住居スル家
屋ニ火ヲ放チシ者ト爲シ
以テ死刑ニ處セサルヲ得
ス何トナレハ法律ノ意ハ
放火シテ人ノ身體ヲ危險
ニ羅ラシムル者ヲ殊ニ罪
重シト爲スニ在レハナリ
其他ノ建造物トハ土藏塔
臺等ナリ
燒燬シタルトハ火既ニ家
屋ノ重ナル部分ニ移リ而
シ其家屋ノ倒散シタチ云

第四百二條 火ヲ放テ人ノ住居シタル家屋ヲ
燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス
第四百三條 火ヲ放テ人ノ住居セサル家屋其
他ノ建造物ヲ燒燬シタル者ハ無期徒刑ニ處
ス
第四百四條 火ヲ放テ廢屋及ヒ柴草肥料等ヲ
貯フル屋舎ヲ燒燬シタル者ハ重懲役ニ處ス
第四百五條 火ヲ放テ人ヲ乘載シタル船舶漁
車ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス
其人ヲ乘載セサル船舶漁車ニ係ル時ハ重懲
役ニ處ス
第四百六條 火ヲ放テ山林ノ竹木田野ノ穀麥

人ノ住居セサル家屋ニ火ヲ放チシニ其住居スル家屋ニ延焼シタル時ハ如何曰ク犯人若シ之ニ延焼ス可キヲ知テ火ヲ放チシニ於テハ人ノ住居スル家屋ニ放火セシ者トシテ論テ可シ何トナレハ其意ハ直チニ之ニ放火スルト同一ノ效ノ生スルヲ知ルコ在レハナリ

放火ノ罪ハ火ヲ放チシ所ノ如何ニ因テ輕重アルモノトス

四百四條以下ハ右ノ注釋ヲ推テ考フレハ皆容易ニ解スルヲ得可シ

〔四百九〕失火ノ罪ハ過失ニ出ツル者ナレハ本條ハ單ニ罰金ノミヲ科スルヲ

又ハ露積シタル柴草竹木其他ノ物件ヲ燒燬シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第四百七條 火ヲ放テ自己ノ家屋ヲ燒燬シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第四百八條 放火ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第四百九條 火ヲ失シテ人ノ家屋財産ヲ燒燬シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百十條 火藥其他激發ス可キ物品又ハ煤氣井蒸氣罐ヲ破裂セシメテ人ノ家屋財産ヲ毀壞シタル者ハ其故意ニ出ルト過失トナ分

〔四百十一以下〕決水ノ罪モ放火ノ罪ノ如ク其害ヲ及ホシタル所ノ如何ニ從テ輕重ノ區別アリ故ニ人ノ住居シタル家屋ヲ漂失シタル者ハ無期徒刑ニテ罰セラルト雖モ人ノ住居セサル家屋ヲ漂失シタル者ハ其刑重懲役ナリ又田圃礦坑牧場等ヲ荒廢シ及ヒ其他ノ水害ヲ爲シタル者ハ其刑輕懲役以下ニ過キサルナリ

人ノ住居シタル家屋及ヒ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ノ語ニ付テハ放火ノ罪ニ於ケルト同一ノ注意ヲ加フ可シ

放火失火ノ例ニ照シテ處斷ス

第八節 決水ノ罪

第四百十一條 堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞シテ人ノ住居シタル家屋ヲ漂失シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

若シ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ漂失シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四百十二條 堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シテ田圃礦坑牧場等ヲ荒廢シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第四百十三條 他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ヲ圖ル爲メ堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シ

〔四百十五以下〕四百十五條及四百十六條ハ四百二條四百三條及四百十一條ノ趣意ト同シ

其他水利ヲ妨害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百十四條 過失ニ因テ水害ヲ起シタル者ハ失火ノ例ニ照シテ處斷ス

第九節 船舶ヲ覆沒スル罪

第四百十五條 衝突其他ノ所爲ヲ以テ人ヲ乗載シタル船舶ヲ覆沒シタル者ハ死刑ニ處ス但船中死亡ナキ時ハ無期徒刑ニ處ス

第四百十六條 前條ノ所爲ヲ以テ人ヲ乗載セサル船舶ヲ覆沒シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物

ヲ害スル罪

第四百十七條 人ノ家屋其他ノ建造物ヲ毀壞シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス 二九九以下

第四百十八條 人ノ家屋ニ属スル牆壁及ヒ園池ノ裝飾又ハ田圃ノ樊圍牧場ノ柵欄ヲ毀壞シタル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ處ス
第四百十九條 人ノ稼穡竹木其他需用ノ植物ヲ毀壞シタル者ハ十一日以上六月以下ノ重

〔四百十七以下〕本條以下ノ預見セル罪モ亦故意アルコト非スシハ成立セス而シテ其輕重ハ放水決水ノ罪ニ於ケルカ如ク其目的タル物件ノ種類ニ從テ定マラルモノトス故ニ人ノ城壁ト持メ家屋又ハ其他ノ建造物ヲ毀壞シタル者ハ五年以下ノ禁錮五十圓以下ノ罰金ニ處セラレ又證書類ヲ毀棄滅盡シタル者モ四年以下ノ禁錮卅圓以下ノ罰金ニ處セラレ可シト雖モ牆壁裝飾柵欄植物器

物又ハ畜類ヲ毀壞滅盡シタル者ハ六月若クハ三月以下ノ重禁錮ト若干ノ罰金又ハ單ニ罰金ノミヲ科セラレハノミニ過キス

〔四百十九〕其他需用ノ植
物トハ野菜桑茶葡萄苗ノ
類ナリ

〔四百二十〕土地ノ經界ヲ
表シタル物件ヲ故意ヲ以
テ毀壞又ハ移轉スルハ後
日境界論ヲ起シテ他人
ノ土地ヲ押領セントスル
ニ出ツルヲ多シ故ニ法律
ハ田圃ノ樊園牧場ノ柵欄
ヲ毀壞シタルヨリ其刑ヲ
重クシタルナリ
是ヲ以テ土地ノ經界ヲ表
シタル物件ヲ毀壞ストル
モ單ニ其一部ヲ毀壞シタ
ルノミニテ尙オ經界ノ依
然トシテ明瞭ナルニ於テ
ハ乃チ本條ヲ以テ論セザ
ルヲ要トス
田圃ノ樊園牧場ノ柵欄ヲ
毀壞シタル所爲ハ四百十
八條ヲ以テ論ス可キナレ

禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金
ニ處ス

第四百二十條 土地ノ經界ヲ表シタル物件ヲ
毀壞シ又ハ移轉シタル者ハ一月以上六月以
下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰
金ヲ附加ス

第四百二十一條 人ノ器物ヲ毀棄シタル者ハ
十二日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三
圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百二十二條 人ノ牛馬ヲ殺シタル者ハ一
月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二
十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

モ若シ之カ隣地ノ境界
ヲ表スル者ニシテ犯人モ
其境界ヲ崩潰セントスル
ノ目的ヲ抱キシテ分明ナ
ルニ於テハ本條ヲ以テ論
スルモ固ヨリ妨ケナシト
ス
〔四百二十四〕人ノ權利義
務ニ關スル證書類トハ爲
替手形預リ證書貸金證書
讓渡證書ノ類ナリ

第四百二十三條 前條ニ記載シタル以外ノ家
畜ヲ殺シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰
金ニ處ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
第四百二十四條 人ノ權利義務ニ關スル證書
類ヲ毀棄滅尽シタル者ハ二月以上四年以下
ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金
ヲ附加ス

第四編

總論

刑法ノ規定セル違警罪ハ日本全國ニ普通シ且時々變更ヲ要セザルモノナリ其時々變更ヲ要シ且ツ各地方ノ便宜ニ因ル者ハ地方官ノ其權内ニテ定ムル所ニシテ即チ第四百二十條ノ暗ニ陳言スル所ナリ

又違警罪ハ惡意又ハ故意ナキ時ト雖モ其罪アルコト多ク何トナレバ違警罪ハ大抵疎虞解怠又ハ不注意ヨリ出ツルコト多クレバナリ是レ他ノ罪ト大ニ異ナル所ナリ

又違警罪ハ未遂犯罪タルノ場合ニ於テハ必ズ其罪ヲ論セラルコトナシ

第四編 違警罪

第四百二十五條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ三

日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上

一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

一規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破裂ス可キ

物品ヲ市街ニ運搬シタル者

二規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破裂ス可キ

又法律ハ違警罪ニ從犯ナ
シトセリ蓋シ第九條ニ重
罪輕罪ノ語アルノミナシ

又法律ハ違警罪ニ從犯ナ
シトセリ蓋シ第九條ニ重
罪輕罪ノ語アルノミナシ

又法律ハ違警罪ニ從犯ナ
シトセリ蓋シ第九條ニ重
罪輕罪ノ語アルノミナシ

又法律ハ違警罪ニ從犯ナ
シトセリ蓋シ第九條ニ重
罪輕罪ノ語アルノミナシ

又法律ハ違警罪ニ從犯ナ
シトセリ蓋シ第九條ニ重
罪輕罪ノ語アルノミナシ

又法律ハ違警罪ニ從犯ナ
シトセリ蓋シ第九條ニ重
罪輕罪ノ語アルノミナシ

又法律ハ違警罪ニ從犯ナ
シトセリ蓋シ第九條ニ重
罪輕罪ノ語アルノミナシ

又法律ハ違警罪ニ從犯ナ
シトセリ蓋シ第九條ニ重
罪輕罪ノ語アルノミナシ

又法律ハ違警罪ニ從犯ナ
シトセリ蓋シ第九條ニ重
罪輕罪ノ語アルノミナシ

又法律ハ違警罪ニ從犯ナ
シトセリ蓋シ第九條ニ重
罪輕罪ノ語アルノミナシ

又法律ハ違警罪ニ從犯ナ
シトセリ蓋シ第九條ニ重
罪輕罪ノ語アルノミナシ

又法律ハ違警罪ニ從犯ナ
シトセリ蓋シ第九條ニ重
罪輕罪ノ語アルノミナシ

又法律ハ違警罪ニ從犯ナ
シトセリ蓋シ第九條ニ重
罪輕罪ノ語アルノミナシ

又法律ハ違警罪ニ從犯ナ
シトセリ蓋シ第九條ニ重
罪輕罪ノ語アルノミナシ

又法律ハ違警罪ニ從犯ナ
シトセリ蓋シ第九條ニ重
罪輕罪ノ語アルノミナシ

又法律ハ違警罪ニ從犯ナ
シトセリ蓋シ第九條ニ重
罪輕罪ノ語アルノミナシ

又法律ハ違警罪ニ從犯ナ
シトセリ蓋シ第九條ニ重
罪輕罪ノ語アルノミナシ

又法律ハ違警罪ニ從犯ナ
シトセリ蓋シ第九條ニ重
罪輕罪ノ語アルノミナシ

又法律ハ違警罪ニ從犯ナ
シトセリ蓋シ第九條ニ重
罪輕罪ノ語アルノミナシ

又法律ハ違警罪ニ從犯ナ
シトセリ蓋シ第九條ニ重
罪輕罪ノ語アルノミナシ

又法律ハ違警罪ニ從犯ナ
シトセリ蓋シ第九條ニ重
罪輕罪ノ語アルノミナシ

又法律ハ違警罪ニ從犯ナ
シトセリ蓋シ第九條ニ重
罪輕罪ノ語アルノミナシ

又法律ハ違警罪ニ從犯ナ
シトセリ蓋シ第九條ニ重
罪輕罪ノ語アルノミナシ

又法律ハ違警罪ニ從犯ナ
シトセリ蓋シ第九條ニ重
罪輕罪ノ語アルノミナシ

又法律ハ違警罪ニ從犯ナ
シトセリ蓋シ第九條ニ重
罪輕罪ノ語アルノミナシ

又法律ハ違警罪ニ從犯ナ
シトセリ蓋シ第九條ニ重
罪輕罪ノ語アルノミナシ

又法律ハ違警罪ニ從犯ナ
シトセリ蓋シ第九條ニ重
罪輕罪ノ語アルノミナシ

又法律ハ違警罪ニ從犯ナ
シトセリ蓋シ第九條ニ重
罪輕罪ノ語アルノミナシ

又法律ハ違警罪ニ從犯ナ
シトセリ蓋シ第九條ニ重
罪輕罪ノ語アルノミナシ

又法律ハ違警罪ニ從犯ナ
シトセリ蓋シ第九條ニ重
罪輕罪ノ語アルノミナシ

又法律ハ違警罪ニ從犯ナ
シトセリ蓋シ第九條ニ重
罪輕罪ノ語アルノミナシ

又法律ハ違警罪ニ從犯ナ
シトセリ蓋シ第九條ニ重
罪輕罪ノ語アルノミナシ

又法律ハ違警罪ニ從犯ナ
シトセリ蓋シ第九條ニ重
罪輕罪ノ語アルノミナシ

又法律ハ違警罪ニ從犯ナ
シトセリ蓋シ第九條ニ重
罪輕罪ノ語アルノミナシ

又法律ハ違警罪ニ從犯ナ
シトセリ蓋シ第九條ニ重
罪輕罪ノ語アルノミナシ

又法律ハ違警罪ニ從犯ナ
シトセリ蓋シ第九條ニ重
罪輕罪ノ語アルノミナシ

又法律ハ違警罪ニ從犯ナ
シトセリ蓋シ第九條ニ重
罪輕罪ノ語アルノミナシ

又法律ハ違警罪ニ從犯ナ
シトセリ蓋シ第九條ニ重
罪輕罪ノ語アルノミナシ

又法律ハ違警罪ニ從犯ナ
シトセリ蓋シ第九條ニ重
罪輕罪ノ語アルノミナシ

ハナリ景シ証據ノ擧テ難
キコ多キト從犯ノ之シテ
ルコ勘キトテ慮バカリテ
ナリ

〔一〕破裂ス可キ物品ト
ハ燃質物雷管瓦斯入器械
等ノ類

〔七〕本項ハ止ムテ得スシ
テ人情ノ忍ヒ難キコト爲
スヲ禁スルナリ蓋シ死人
ヲ保護セントスルナリ

物品又ハ自ラ火ヲ發ス可キ物品ヲ貯藏シ

タル者

三官許ヲ得スシテ烟火ヲ製造シ又ハ販賣シ

タル者 二五〇

四人家稠密ノ場所ニ於テ濫リニ烟火其他火

器ヲ玩ヒタル者

五蒸氣器械其他烟筒火竈ヲ建造修理シ及ヒ

掃除スル規則ニ違背シタル者

六官署ノ督促ヲ受ケテ崩壞セントスル家屋

牆壁ノ修理ヲ爲サハル者

七官許ヲ得スシテ死屍ヲ解剖シタル者

八自己ノ所有地内ニ死屍アルコトヲ知テ官

〔九〕創傷疾病ニ至レハ是
ノ輕罪ナリ

署ニ申告セス又ハ他所ニ移シタル者 四六

下

九人ヲ毆打シテ創傷疾病ニ至ラサル者 二九

下

十密ニ賣淫ヲ爲シ又ハ其媒合容止ヲ爲シタ

ル者 三五二

十一人ノ住居セサル家屋内ニ潜伏シタル者

一七一

十二定リタル住居ナク平常營生ノ産業ナク

シテ諸方ニ徘徊スル者ニ

十三官許ノ墓地外ニ於テ私ニ埋葬シタル者

二六四以下

〔十四〕違警罪ニ陷害セン
トスル偽証ハ輕罪ナリ

〔一〕濫ニトハ時ノ如何チ
問ハテ場合ノ如何ニ關セ
スシテト云フ義ナリ

〔二〕本項ハ官吏ノ求メテ
受ケタルニ臺モ他人ノ難
ヲ願ニス且ツ正當ノ現由
ナク即チ單ニ勞ヲ厭フヨ
リ其求メニ應セル者ノミ
ヲ罰スルナリ故ニ頗ル危
險ノ所爲ハ之ヲ拒ムンテ

十四違警罪ノ犯人ヲ曲庇スル爲メ偽證シタ
ル者但被告人偽證ノ爲メ刑ヲ免カレタル
時ハ第二百十九條ノ例ニ從フ

第四百二十六條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ二
日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以
上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス 二二〇ノ三、
一人家ノ近傍又ハ山林田野ニ於テ濫リニ火
ヲ焚ク者

二水火其他ノ變ニ際シ官吏ヨリ防禦スルノ
求メテ受ケ傍觀シテ之ヲ肯セサル者
三不熟ノ菓物又ハ腐敗シタル飲食物ヲ販賣
シタル者 二五三

可ナリ

〔三〕本項ノ舉クル物品ヲ
販賣スルトモ飲食物ノ爲
メニスルニ非スハ罪ナ
シ

〔四〕健康ヲ保護スル規則
トハ飲食物ノ販賣又ハ下
水便所等ニ關スル規則ノ
類ナリ

〔五〕故意ニ獸類ヲ嚇シテ
人ヲ創傷シタル是レ毆打
創傷ノ罪ナリ

〔七八〕狂人狂犬猛獸ニ付
テモ亦同一ノ注意ヲ加フ
可シ

〔九〕本項ハ犯罪ノ證據ヲ
保存シ且ツ平人ノ專斷ヲ
禁セントスルナリ

四健康ヲ保護スル爲メ設ケタル規則又ハ傳

染病豫防規則ニ違背シタル者 二四六

五人ノ通行ス可キ場所ニアル危險ノ井溝其

他凹所ニ蓋又ハ防圍ヲ爲ササル者

六路上ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ嚇シ又ハ驚逸

セシメタル者

七發狂人ノ看守ヲ怠リ路上ニ徘徊セシメタ

ル者

八狂犬猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ路上ニ放チタル

者

九變死人ノ檢視ヲ受ケスシテ埋葬シタル者

十墓碑及ヒ路上ノ神佛ヲ毀損シ又ハ汚瀆シ

〔十一〕汚瀆スルトハ
樂書シ又ハ汚穢物ヲ加フ
ルノ類汚損スルトハ其一
部ヲ破損シ又ハ其体裁ヲ
悪クスルノ類若シ公ケニ
之ヲ行フコト於テハ是レ公
然不敬ノ所爲ヲ爲スニ等
シキカ故ニ即チ輕罪ト爲
ル可キナリ但シ建造物ニ
付テハ別段ナリトス

〔十二〕神詞佛堂其他公ノ建造物ヲ汚損シタル者 二六三
者 二六三
十二公然人ヲ罵詈嘲弄シタル者但訴ヲ待テ
其罪ヲ論ス
第四百二十七條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一
日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以
上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス
一 濫リニ車馬ヲ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲シ
タル者
二 制止ヲ肯セズシテ人ノ群集シタル場所ニ
車馬ヲ牽キタル者

〔五、六七〕河川モ舟楫ノ
通ス可キ者ハ亦道路ナリ

〔八〕警察ノ規則トハ全國
又ハ一地方ノ取締規則即
チ雇人請宿規則旅人宿規
則演戲規則貸坐敷引手茶
屋規則製造所規則賣藥規
則等ニテ其類枚舉スルニ
遑アラス
〔十〕死亡ノ者アル時ハ醫
師ノ証書ヲ出シテ其旨ヲ

- 三 夜中無提燈ニテ車馬ヲ疾驅スル者
- 四 木石等ヲ道路ニ堆積シテ防圍ヲ設ケヌ又
ハ標識ノ點燈ヲ怠リタル者
- 五 瓦礫ヲ道路家屋園圃ニ投擲シタル者
- 六 禽獸ノ死屍ヲ道路ニ棄擲シ又ハ取除カサ
ル者
- 七 汚穢物ヲ道路家屋園圃ニ投擲シタル者
- 八 警察ノ規則ニ違背シテ工商ノ業ヲ爲シタ
ル者
- 九 醫師穩婆事故ナクシテ急病人ノ招キニ應
セサル者
- 十 死亡ノ申告ヲ爲サズシテ埋葬シタル者

郡區役所又ハ戸長役場ニ届ケサル可キヲ然カテメシハ官ニテ其死亡ノ原因ヲ知ル能ハサルヲ以テ往々不都合ノ事ナレハナリ

〔十一〕妄ニトアレハ正シク吉凶禍福ヲ説キ又ハ云々スル者ハ人ヲスハスニ非ス依テ利ヲ圖ルトモ其利ヤ正當ノ利ニシテ即チ謝金ナレハ固ヨリ罪ノ論ス可キモノナシ

十一 流言浮説ヲチシテ人ヲ誑惑シタル者

十二 妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱符咒等ヲ爲シ人ヲ惑ハシテ利ヲ圖ル者

十三 私有地外へ濫リニ家屋牆壁ヲ設ケ又ハ軒楹ヲ出シタル者

十四 官許ヲ得スシテ路傍又ハ河岸ニ床店等ヲ開キタル者

十五 路上ノ植木市街ノ常燈及ヒ厠場等ヲ毀損シタル者

十六 道路橋梁其他ノ場所ニ榜示シタル通行禁止及ヒ指道標ノ類ヲ毀棄汚損シタル者

第四百二十八條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一

日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

一 官署ヨリ價額ヲ定メタル物品ヲ定價以上ニ販賣シタル者

二 渡船橋梁其他ノ場所ニ於テ定價以上ノ通行錢ヲ取り又ハ故ナク通行ヲ妨ケタル者

三 渡船橋梁其他通行錢ヲ佛フ可キ場所ニ於テ其定價ヲ出サスシテ通行シタル者

四 路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲シタル者

五 官許ヲ得スシテ劇場其他觀物場ヲ開キ及ヒ其規則ニ違背シタル者

〔一〕本項ニ云フ物品ハ郵便切手證券印紙ノ類ナリ

〔二〕定價以上ノ通行錢ヲ取ルトハ詐偽難題ヲ申掛クル等總テ不良ノ方法ニテ之ヲ取ルチ云フナリ故ニ通行人ノ多分ニ附與スル時ハ之ヲ取ルモ固ヨリ妨クナシトス

〔八〕獸類ヲ他人ノ所有地ニ放チ又ハ牧畜シタル者ハ其責損害ノ償ヲ拂フニ止マル

六溝渠雨水ヲ毀損シ又ハ官署ノ督促ヲ受ケテ溝渠下水ヲ浚ハサル者

七制止ヲ肯セスシテ路傍ニ食物其他ノ商品ヲ羅列シタル者

八官許ヲ得スシテ獸類ヲ官有地ニ放チ又ハ牧畜シタル者

九身體ニ刺文ヲ爲シ及ヒ之ヲ業トスル者

十他人ノ繫キタル牛馬其他ノ獸類ヲ解放シタル者

十一他人ノ繫キタル舟筏ヲ解放シタル者

第四百二十九條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

〔二〕〔三〕〔四〕行人又ハ通船ノ妨害ヲ爲シタル者トアレハ仮令牛馬舟車ヲ横タヘ又ハ之ヲ並ヘ牽クモ折善ク通行人ナキヤ又ハ之レアルモ其數僅々コシテ暫時モ路上ニ止マリ又ハ時々之ヲ避クルカ如キヲクシハ其罪成立スルノ限ニ非ストス

十橋梁又ハ堤防ノ害ト爲ル可キ場所ニ舟筏ヲ繫キタル者

二牛馬諸車其他物件ヲ道路ニ横タヘ又ハ木

石薪炭等ヲ堆積シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

三車馬ヲ並ヘ牽テ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

四水路ニ於テ舟ヲ並ヘ通船ノ妨害ヲ爲シタル者

五氷雪塵芥等ヲ路上ニ投棄シタル者

六官署ノ督促ヲ受ケテ道路ノ掃除ヲ爲サル者

七制止ヲ肯セスシテ路上ニ遊戯ヲ爲シ行人

〔十一〕晝間、夜間トテ論
セズ唯制止ヲ當セザル
ニテ其罪成立ス可シ

ノ妨害ヲ爲シタル者

八牛馬ヲ牽キ又ハ繫クヲ忽カセニシテ行
人ノ妨害ヲ爲シタル者

九出入ヲ禁シタル場所ニ濫リニ出入シタル
者

十通行禁止ノ榜示ヲ犯シテ通行シタル者

十一道路ニ於テ放歌高聲ヲ發シテ制止ヲ肯
セザル者

十二酩酊シテ路上ニ喧噪シ又ハ醉臥シタル
者

十三路上ノ常燈ヲ消シタル者

十四人家ノ牆壁ニ貼紙及ヒ樂書シタル者

十五邸宅ノ番號標札招牌又ハ貧家賣家ノ貼
紙其他報告ノ榜標等ヲ毀損シタル者

十六他人ノ田野園圃ニ於テ菜菓ヲ採食シ又
ハ花卉ヲ採折シタル者 三七二

十七公園ノ規則ヲ犯シタル者

十八通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ牛馬
ヲ牽入レタル者

第四百三十條 前數條ニ記載スルノ外各地方
ノ便宜ニヨリ定ムル處ノ違警罪ヲ犯シタル
者ハ其罰從テ處斷ス

〔四百三十〕違警罪ノ總論
ト照リ合ス可シ

〔十六〕若シ菜菓又ハ花卉
ヲ取テ直チニ之ヲ食ハス
シテ持テ去ルニ於テハ是
レ竊盜ノ罪ナリトス可シ

治罪法目錄

第一編 總則 自第一條至第三十條

第二編 刑事裁判所ノ構成及ヒ權限

第一章 通則 自第三十一條至第四十八條

第二章 違警罪裁判所 自第四十九條至第五十三條

第三章 輕罪裁判所 自第五十四條至第六十二條

第四章 控訴裁判所 自第六十三條至第六十九條

第五章 重罪裁判所 自第七十條至第七十六條

第六章 大審院 自第七十七條至第八十二條

第七章 高等法院 自第八十三條至第九十一條

第三編 犯罪ノ捜査起訴及ヒ豫審

第一章 捜査 自第九十二條至第一百六條